

東北大学大学院医学系研究科
保健学専攻看護学コース

年報
2004~2013 年度
(平成 16~25 年度)

Annual Report of
Course of Nursing, Health Sciences,
Tohoku University School of Medicine
2004~2013

目次

1. 巻頭言	2
2. 沿革	3
2-1. 東北大学医学部附属病院看護学校の歴史	3
2-2. 東北大学医療技術短期大学部看護科の歴史	4
2-3. 東北大学医学部保健学科看護学専攻の歴史	5
2-4. 年表	6
3. 組織と分野	7
3-1. 組織図	7
3-2. 分野紹介	8
4. カリキュラム	21
4-1. 学部カリキュラム	21
4-2. 大学院カリキュラム	22
5. 教員	24
5-1. 現在の教員一覧	24
5-2. これまで在籍した教員一覧	25
6. 各種データ	26
6-1. 学部入試情報	26
6-2. 大学院入試情報	27
6-3. 学部卒業後の進路	28
6-4. 大学院修了後の進路	30
6-5. 大学院修了者の学位論文一覧	31
6-6. 業績数の推移	34
7. 研究業績	35
7-1. 原著論文・総説（査読あり）	35
7-2. 原著論文・総説（査読なし）、紀要、解説	46
7-3. 著書	51
7-4. 国際学会発表	53
7-5. 国内学会発表	58
7-6. 外部資金獲得（主任研究）	83
7-7. 外部資金獲得（分担研究）	87
7-8. 外部資金獲得（その他）	91

1. 巻頭言

早春の候 皆様にはますますご活躍のこととお喜び申し上げます。

さてこのたび、東北大学医学部保健学科看護学専攻設置 10 周年を記念して、東北大学大学院医学系研究科保健学専攻看護学コースの「年報 2004~2013 年度」を発刊することになりました。

皆様もご承知のとおり、看護学専攻は 2003 年 10 月 1 日に設置され 2004 年 4 月に 1 期生が入学し、2013 年 10 月に設置 10 周年を 2014 年 4 月には学生を初めて向かえ入れてから 10 周年を迎えました。

今回初めて「年報」をまとめ、2013 年度版といたしました。創設から 10 年のあゆみを総括いたしました。あらためて 10 年を振り返りこうして「年報」発刊というかたちで日々の活動の積み上げを目の当たりにすると、実に感慨深いものがあります。これらの成果は、学生諸君や教職員の日々の研鑽はもとより、講義や実習、研究等でお世話になった医学科や東北大学病院をはじめとする多くの先生方のご支援のたまものと実感しております。この場をお借りして、10 年のあゆみにかかわられた皆様に衷心より感謝の意をお伝えしたいと思います。

さて、今後の国立大学改革の方針や方策、実施方針をまとめた「国立大学改革プラン」の策定にともない、過日文科科学省が行った国立大学のミッションの再定義において、本学保健学科および保健学専攻は、以下の 3 点のようにその強みや特色などの役割を担うこととされました。

- 「研究第一」「実学尊重」等の理念の下、人間性豊かで幅広い教養と確固たる倫理観を持ち、科学的な知識と技術、総合的な判断力を備えた医療専門職を育成する。特にリサーチマインドを備えた高度専門人材の育成を積極的に推進する。
- 大学院において、大学病院との連携を活かし教育能力を持った実践看護師の育成とキャリア構築を支援する取組や専門看護師、医学物理士等高度な専門職の育成を行うなど、健康科学を牽引する高度専門職者、教育者、研究者を育成する。
- 周産期看護における研究、専門人材育成を初めとする取組や、保健系、分野と医学・工学等の関連分野との共同による新たな医療技術等の創出、地域母子保健活動に関する研究等を通じた震災復興への貢献等の取組を推進し、東北地方の保健医療の貢献のみならず、国際的に発信する。

10 年がたち、我々はこれまでを振り返りつつ、次の 10 年とその先を見据えて行動を起こさねばなりません。東北大学が創出する看護学は、科学的根拠に基づいた創造性の高いものである必要があり、日本や世界を牽引する力を持ったものであるべきです。そのためには、これまで以上に組織としての結束力を高め、個々が明確に目標を掲げ、計画的に研究を展開し、その熱意と姿勢を学生に伝えていくことが不可欠です。

本年報をまとめ皆様にお届けすることをもって、さらなる発展に向けて再出発する我々の社会的 **commitment** ととらえていただきたいと思います。

この年報発刊のために、各分野の教員にそれぞれの活動をおまとめいただきました。宮下光令先生には年報のアウトラインをご考案いただき、佐藤一樹先生には多くの時間を割いて編集作業をご担当いただきました。最後になりましたが、編纂にご協力いただきました皆様に深謝申し上げます。

東北大学医学部保健学科 学科長
塩 飽 仁

2. 沿革

2-1. 東北大学医学部附属病院看護学校の歴史

1) 看護婦養成所

東北大学における看護教育は、宮城病院附属看護婦養成所に始まりました。この養成所における教育は、明治32年（1899年）9月から、明治45年（1912年）まで行われました。

大正2年（1913年）3月に宮城病院が東北帝国大学に移管され、東北帝国大学医学専門部附属医院看護婦養成所が発足しました。

大正4年（1915年）に看護婦規則が制定され、看護婦養成所規則が改正されたのに伴い、同年7月東北帝国大学医科大学附属医院看護婦養成所と改称されました。その4年後の大正8年（1919年）には、東北帝国大学医学部附属医院看護婦養成所と改称されました。

昭和21年（1946年）8月に看護婦養成所は第39回生の卒業をもってその歴史を閉じました。

看護師養成所では、2,087名の卒業生を送り出しました。

2) 厚生女学部

昭和20年（1945年）に東北帝国大学医学部附属医院厚生女学部が発足しました。修業年限は2年で、入学資格は国民学校高等科卒業、入学年齢は満14歳以上25歳未満でした。

昭和26年（1951年）3月、厚生女学部は第5回生が最終卒業生となりました。卒業後は看護婦の資格が与えられるほかに、高等女学校卒業資格が得られ、さらに専門学校への入学の道も開かれていました。

3) 看護学校

昭和22年（1947年）に国から保健婦、助産婦、看護婦（以下保・助・看）令が公布され、保・助・看学校養成所指定規則が制定されました。それにより、東北大学医学部附属医院厚生女学部高等科が設置されました。同年5月には東北大学医学部附属病院厚生女学部高等科と改称されました。

昭和26年（1951年）4月に東北大学医学部附属病院高等看護学校と改称されました。入学資格は新制高等学校卒業、修学年限は3年でした。

昭和27年（1952年）4月、東北大学医学部附属看護学校と改称されました。

昭和42年（1967年）3月に文部省および厚生省両省による看護教育の改正があり、それに基づき学則が改正されました。その改正による教育は昭和43年度（1968年）入学生から実施されました。

昭和48年（1973年）、東北大学医療技術短期大学部が開設され、昭和50年（1975年）3月、第27回生をもって看護学校は閉校されました。卒業生の総数は1,210名でした。

東北大学の看護婦教育は、大正2年の看護婦養成所にはじまり、厚生女学部を引き継がれました。この時代は県知事から与えられる看護婦免許でした。看護学校以降は、文部大臣若しくは厚生大臣（現厚生労働大臣）の指定する教育機関で3年間修学し卒業した後、国家試験に合格すると厚生大臣（厚生労働大臣）から国家資格の看護婦免許が与えられました。

2-2. 東北大学医療技術短期大学部看護科の歴史

東北大学医療技術短期大学部（以下医療短大）は、昭和48年（1973年）9月29日に、看護婦の養成を行う看護科（定員80名）、診療放射線技師の養成を行う診療放射線技術科（定員40名）、臨床検査技師の養成を行う衛生技術科（定員40名）の3学科からなる医療短大として東北大学に併設されました。国立の3年制医療短大としては、大阪大学、九州大学、金沢大学に次ぐ4番目の設置でした。

昭和51年（1976年）に看護科が看護学科に、診療放射線技術科が診療放射線技術学科に、衛生技術科が衛生技術学科に名称が変更になり、昭和54年（1979年）には助産婦の養成を行う助産学特別専攻（以下専攻科とする）1年課程（定員20名）が設置されました。

看護学科では2年生の終わりから臨地実習が開始になり、実習先は医学部附属病院と歯学部附属病院、医学部附属病院鳴子分院（1994年廃止）と宮城県の保健所と仙台市の保育所でした。

創立3年目には学生と教員からなる学友会が結成されて課外活動のサークルも作られ、大学としての形が整っていきました。

医療短大看護学科では「豊かな人間性をもった高度の医療技術者を育成する」の教育方針のもとに看護教育が展開されました。開学当初のカリキュラムは、人文、社会、自然科学の3系列から20単位以上、外国語科目（英語、ドイツ語）6単位、保健体育科目3単位、専門教育科目105単位以上の合計134単位以上取得することが卒業要件でした。これは4年制大学設置基準である124単位をはるかに超えるものでした。1回生の臨床実習は3年間で42単位履修するもので、大学病院での実習は、内科看護実習4週間2病棟、外科看護実習4週間2病棟のほかは大学病院の全ての病棟と歯学部、宿泊しながら鳴子分院でも実習を行いました。

看護学科の国家試験の合格率は、ほぼ100%であり、卒業生の約半数が大学病院に就職しました。

平成15年（2003年）10月1日、医療短大と並存して東北大学医学部保健学科が設置され、看護学科は専攻科と併合して、東北大学医学部保健学科看護学専攻となりました。平成16年（2004年）4月に保健学科の第1回生が入学し、平成18年（2006年）3月に最後の医療短大生が卒業し、平成19年（2007年）3月に最後の専攻科学生が卒業して、3月31日に東北大学医療技術短期大学部は閉校しました。34年間に社会に送り出した学生数は2,207名でした。

平成22年（2010年）7月26日には、東北大学医療技術短期大学部の閉学記念モニュメント（石碑）が東北大学医療技術短期大学部学友会より寄贈され東北大学医学部保健学科A棟北側入口西側に設置されました。

2-3. 東北大学医学部保健学科看護学専攻の歴史

東北大学医学部保健学科は、平成 15 年（2003 年）10 月 1 日に設置され、平成 25 年（2013 年）10 月に 10 周年を迎えました。

国立大学の医療技術短期大学部は、平成 5 年の大阪大学を皮切りに医学部保健学科へ改組されていきました。東北大学の保健学科は前述の通り平成 15 年に設置され、平成 16 年 4 月に新入学の学生を迎えました。国立大学のなかでは北海道大学や京都大学などと並んで最後の改組となりました。

保健学科の理念は、社会状況や保健・医療を取り巻く環境の変化のなかで、医療人としての社会的使命を果たすために、人間性豊かで幅広い教養と確固たる倫理観を持ち、科学的な知識と技術、そして冷静、緻密な総合判断力を備えた医療専門職を育成することです。

現在の東北大学医学部保健学科は、看護学専攻、放射線技術科学専攻、検査技術科学専攻の 3 専攻からなり、看護師および助産師、診療放射線技師、臨床検査技師を養成しています。

看護学専攻卒業時には看護師の国家試験受験資格を得ることができ、そのうち在学中の選抜試験に合格した学生が助産学の単位を取得して助産師の国家試験受験資格を取得できます。

1 期生から 8 期生（平成 23 年度入学）までの学生は全員保健師の受験資格を取得できましたが、平成 24 年度入学学生から学部教育課程での保健師養成を廃止しました。そして平成 26 年度から東北大学は保健師教育を大学院博士課程前期（修士課程）で行うことにしました。

これは国の教育カリキュラム改定にあわせて、東北大学が担う役割を抜本的に見直し、これまで以上に高度な専門性を持った保健師を育成することが重要だと考えたためです。この背景には、東日本大震災発災後に保健師が大変重要な役割を担った事実がありました。震災の体験から今後保健師が果たすべき役割、東北大学が果たすべき保健師教育および研究における役割を強く認識できたことが、このカリキュラム改革につながっています。

平成 20 年（2008 年）4 月には、大学院医学系研究科に保健学専攻（看護学コース、放射線技術科学コース、検査技術科学コース）が設置され、教員はすべて学部所属から大学院所属となり、大学院修士課程の教育が開始されました。看護学コースから看護学修士の学位を取得して修了生が誕生した後、平成 22 年（2010 年）4 月には博士後期課程が設置され、修士課程は博士前期課程と改称されました。

その後は順調に看護学修士と看護学博士を輩出しています。

高度化、複雑化する医療技術に的確に対処し得る高度な知識と技術を有するとともに、その独自性、専門性を生かしつつ、他の医療技術専門職者と協調してチーム医療・チームケアを実践できる人材の育成や、将来、医療技術科学の発展を担い、教育・研究・行政において指導的役割を果たしうる人材を育成することは時代の要請に適合した保健学科のミッションだと認識し、また、先進的な研究を展開し、**global standard** を創出し続け得る組織として確固たる地位を築くことを保健学専攻のミッションとして掲げ、教職員と学生、卒業生・修了生は教育、研究、実践、社会貢献を通してこれらを達成すべく、それぞれの現場で躍進を続けています。

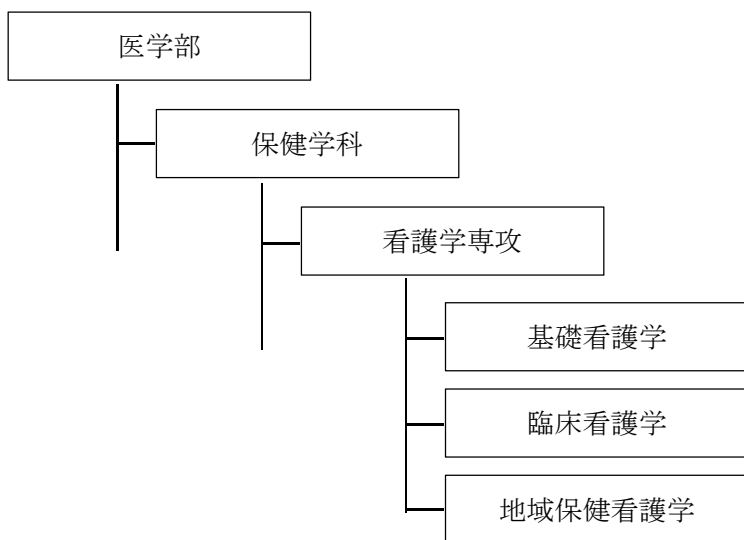
2-4. 年表

大正 2年	5月 3日	東北帝国大学医学専門部附属医院看護婦養成所 開設 (県立宮城病院の看護婦養成所を移管)
大正 8年	6月 12日	東北帝国大学医学部附属医院産婆養成所 開設
昭和20年	6月 16日	東北帝国大学医学部附属医院厚生女学部 開設
昭和21年	4月 1日	東北帝国大学が東北大学となる
昭和22年	5月 2日	産婆養成所が助産婦養成所となる
昭和26年	4月 1日	東北大学医学部附属病院高等看護学校 設置
昭和27年	4月 1日	医学部附属看護学校、同助産婦学校 設置
昭和48年	9月 29日	東北大学に東北大学医療技術短期大学部を併設 看護科、診療放射線技術科、衛生技術科の3学科を設置
昭和51年	4月 1日	医療技術短期大学部看護科、診療放射線技術科、衛生技術科の 名称を看護学科、診療放射線技術学科、衛生技術学科に変更
昭和54年	4月 1日	医療技術短期大学部に専攻科助産学特別専攻を設置
平成15年	10月 1日	東北大学医学部に保健学科(看護学専攻、放射線技術科学専攻、 検査技術科学専攻)を設置
平成20年	4月 1日	医学系研究科保健学専攻 設置
平成22年	4月 1日	医学系研究科に保健学専攻(博士後期課程)を設置 医学系研究科保健学専攻の臨床実践看護学講座、家族支援看護学 講座(一部)、健康開発看護学講座を基礎・健康開発看護学講座、 家族支援看護学講座に改組

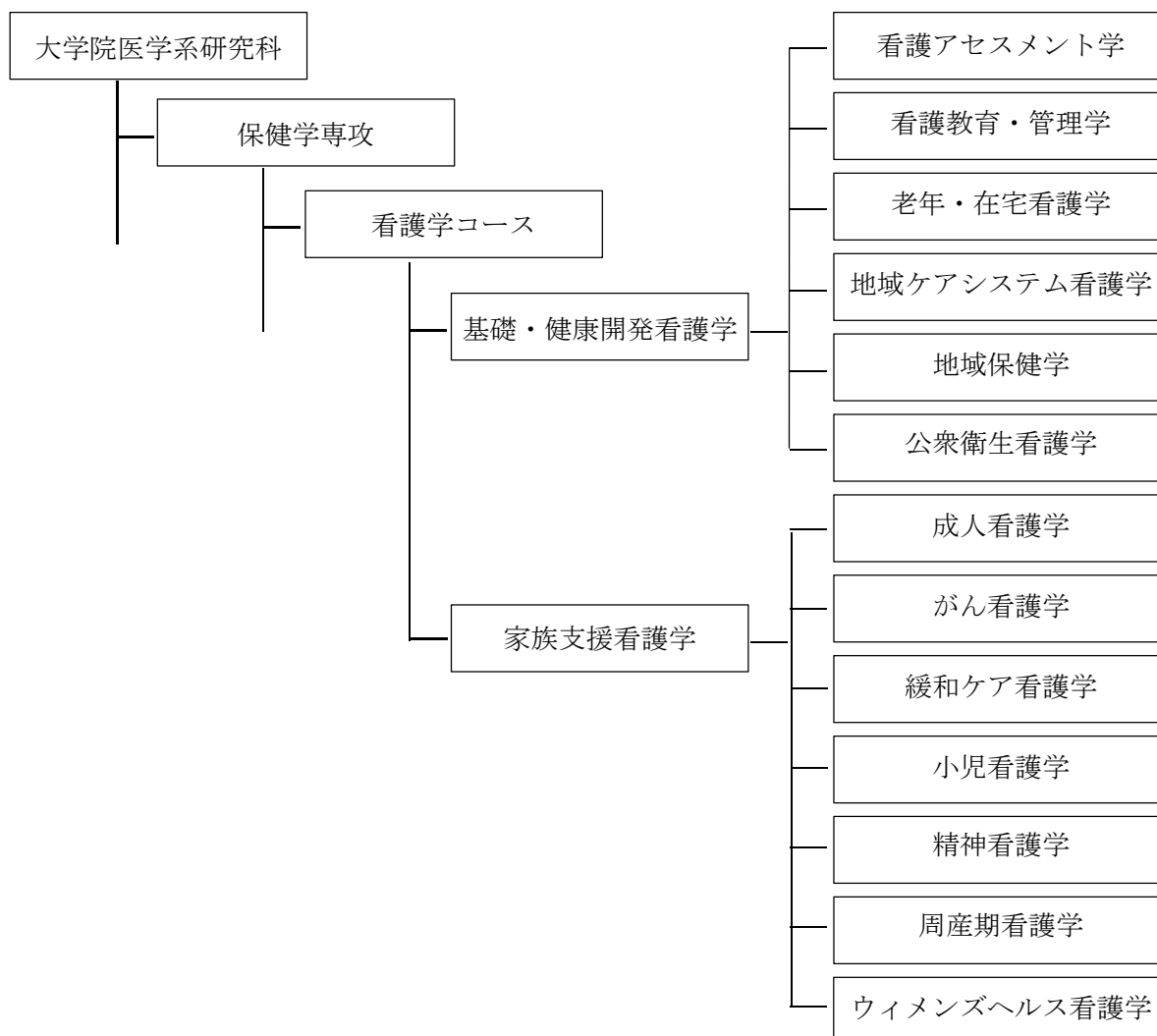
3. 組織と分野

3-1. 組織図 (2014年4月現在)

【医学部保健学科組織図】



【大学院医学系研究科保健学専攻組織図】



3-2. 分野紹介

研究分野名	看護アセスメント学分野
-------	-------------

1. 分野構成(2014年4月1日時点)

教授:丸山良子、講師:菅野恵美
大学院(博士課程)5名、大学院(修士課程)1名、卒業研究生6名

2. 主な研究テーマ

看護アセスメント学分野では、看護の対象となる人々への適切な日常生活援助を行うために必要なアセスメントの方法、さらに科学的根拠に基づく看護援助技術の開発およびその検証を行うことを目的としています。

【主な研究テーマ】

1. 生理学的指標を用いた看護技術やケアの検証
2. 性ホルモンと自律神経活動の関連性
3. 環境が生体に及ぼす影響
4. 免疫学的手法による皮膚創傷治癒過程に関する科学的実証

3. 主な研究業績(2008年4月以降)

【主な研究論文】

- Kanno E, Kawakami K, Miyairi S, Tanno H, Otomaru H, Hatanaka A, Sato S, Ishii K, Hayashi D, Shibuya N, Imai Y, Gotoh N, Maruyama R, Tachi M. Neutrophil-derived tumor necrosis factor- α contributes to acute wound healing promoted by *N*-(3-oxododecanoyl)-L-homoserine lactone from *Pseudomonas aeruginosa*. *J Dermatol Sci*. 2013;70(2):130-8.
- Kudo D, Uno K, Aoyagi T, Akahori Y, Ishii K, Kanno E, Maruyama R, Kushimoto S, Kaku M, Kawakami K. Low-dose interferon- α treatment improves survival and inflammatory responses in a mouse model of fulminant acute respiratory distress syndrome. *Inflammation*. 2013;36(4):812-20.
- Hatashi D, Kawakami K, Ito K, Ishii K, Tanno H, Imai Y, Kanno E, Maruyama R, Shimokawa H, Tachi M. Low-energy extracorporeal shock wave therapy enhances skin wound healing in diabetic mice: a critical role of endothelial nitric oxide synthase. *Wound Repair Regen*. 2012;20(6):887-95.
- 菅野恵美, 丹野寛大, 館正弘. 皮膚創傷治癒過程におけるbFGF産生へのTNF- α の関与. *日本褥瘡学会誌*. 2012;14(2):113-20.
- Kanno E, Kawakami K, Ritsu M, Ishii K, Tanno H, Toriyabe S, Imai Y, Maruyama R, Tachi M. Wound healing in skin promoted by inoculation with *Pseudomonas aeruginosa* PAO1: the critical role of tumor necrosis factor- α secreted from infiltrating neutrophils. *Wound Repair Regen*. 2011;19(5):608-21.
- Kanno E, Toriyabe S, Zhang L, Imai Y, Tachi M. Biofilm formation on rat skin wounds by *Pseudomonas aeruginosa* carrying the gene fluorescent protein gene. *Exp Dermatol*. 2010;19(2):154-6.
- 芳賀麻有, 丸山良子. 日本古来の「香」が自立神経系に及ぼす影響. *日本看護技術学会誌*. 2010;9(3):34-9.
- Maruyama R. The effect of ambient particulate matter on cardiovascular responses. *Eurozoru Kenkyu*. 2008;23(3):187-192.

【主な著書】

- 菅野恵美, 館正弘. In: 真田弘美, 大浦紀彦, 溝上祐子, 市岡滋(編). *ナースのためのアドバンスド創傷ケア*. 東京: 照林社; 2012.
- 大久保暢子, 菱沼典子, 縄秀志, 丸山良子, 山本真千子, 深井喜代子, et al. In: 沼典子(編). *ケーススタディ看護形態機能学 臨床実践と人体の構造・機能・病態の知識をつなぐ*. 東京: 南江堂; 2010.

研究分野名	看護教育・管理学分野
-------	------------

1. 分野構成(2014年4月1日時点)

教授:朝倉京子、事務補佐員 1 名 大学院(博士課程)2名、大学院(修士課程)4名、卒業研究生 4名

2. 主な研究テーマ

<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護職の職業移動と心理社会的労働環境に関する研究 2. 看護現象のジェンダー分析に関する研究 3. 看護職の専門職的自律性、自律的な臨床判断、反省的思考に関する研究

3. 主な研究業績(2008年4月以降)

<p>【主な研究論文】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 朝倉京子, 籠玲子. 中期キャリアにあるジェネラリスト・ナースの自律的な判断の様相. 日本看護科学会誌, 2013;33(4):43-52. ・ Tei-Tominaga M, Asakura T, <u>Asakura K</u>. Stigma towards nurses with mental illnesses: a study of nurses and nurse managers in hospitals in Japan. Int J Ment Health Nurs. 2013;23(4):316-25. ・ Togari T, <u>Satoh M</u>, Otemori R, Yonekura Y, Yokoyama Y, Kimura M, Tanaka W, Yamazaki Y. Sence of coherence in mothers and children, family relationships and participation in decision-making at home: an analysis based on Japanese parent-child pair data. 2012;27(2):148-56. ・ 渡邊生恵, 杉山敏子. 一般病床患者と看護師による療養環境評価の特性. 日本看護研究学会雑誌. 2012;35(5):117-28. ・ <u>Asakura K</u>, <u>Watanabe I</u>. The Survival Strategy of Male Nurses in Rural Areas of Japan. Jpn J Nurs Sci. 2011;8(2):194-202. ・ <u>Watanabe I</u>, Kuriyama S, Kakizaki M, Sone T, Ohmori-Matsuda K, Nakaya N, Hozawa A, Tsuji I. Green tea and death from pneumonia in Japan: the Ohsaki cohort study. Am J Clin Nutr. 2009;90(3):672-9. ・ 籠玲子,朝倉京子.病院の外科病棟に勤務する看護師の役割認知とそれに関わる体験. 看護研究. 2008;41(1):61-72. <p>【主な受賞】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>Asakura K</u>, <u>Watanabe I</u>. The Survival Strategy of Male Nurses in Rural Areas of Japan. Jpn J Nurs Sci. 2011;8(2):194-202. (平成 23 年度東北大学男女共同参画奨励賞(沢柳賞)研究部門賞受賞) ・ <u>Shimojo Y</u>, <u>Asakura K</u>, Satoh M, Watanabe I. Relationships between Work-family Organizational Culture, Organizational Commitment, and Intention to Stay in Japanese Registered Nurses. IOCH; Work Organization and Psychosocial Factors 2014 Congress; 2014 Sep; Adelaide, Australia. (Student Award for the Best Poster 受賞)

研究分野名	老年・在宅看護学分野
-------	------------

1. 分野構成(2014年4月1日時点)

講師:齋藤美華、助手:坂川奈央

2. 主な研究テーマ

1. 訪問看護におけるケアとケアの統合に関する研究
2. 定年退職後の高齢男性を対象とした地域活動への参加支援プログラムの開発
3. 高齢者の予想される死における看護職の看取り教育プログラム開発
4. 認知症高齢者の排尿習慣化訓練の適応基準とプロトコールの開発

3. 主な研究業績(2008年4月以降)

【主な研究論文】

- ・ 齋藤美華, 坂川奈央, 大槻久美, 川原礼子:高齢者の褥瘡ケアに関する訪問看護師の医行為の内容とその判断理由. 北日本看護学会誌. 2013;16(1):33-42.
- ・ 坂川奈央:米国高齢者施設の査察報告第2報—米国における要介護高齢者の生活実態と意思決定に関する考察—. 東北大学医学部保健学科紀要. 2014;23(1):1-8.
- ・ 坂川奈央:米国高齢者施設の査察報告第1報—米国高齢者施設のケアの質の管理システムにみる我が国の課題—. 東北大学医学部保健学科紀要. 2013;22(2):51-60.
- ・ 齋藤美華, 大槻久美, 川原礼子:訪問看護師の裁量拡大に対する当該職種の見解の内容東北大学医学部保健学科紀要. 2012;21(1):33-39.
- ・ 川原礼子, 齋藤美華, 大槻久美:訪問看護場面の尿閉に対する医行為の実態およびその認識 アセスメント状況と看護師の判断でできると考え得る理由. 看護実践の科学. 2012;37(2):30-7.
- ・ 齋藤美華, 大槻久美, 川原礼子:高齢者の排便ケアに関する医行為が訪問看護師の判断で行えると考えた理由. 日本老年看護学会誌. 2012;16(2):65-71.
- ・ 齋藤美華, 齋藤美咲, 半沢みどり, 阿部由美, 角張範子, 齋藤真美, 大槻久美, 川原礼子:外来化学療法を受けている高齢がん患者の生活への思い. 北日本看護学会誌. 2010;13(1):21-9.
- ・ 齋藤美華, 川原礼子:アセスメントがよくわかる看護過程 認知症患者の看護ケア. ナーシングカレッジ. 医学芸術社. 2010;14(9):59-77.
- ・ 森鍵祐子, 齋藤美華, 川原礼子:家族看護学を学習した学生の興味・関心の変化 —教員が演じるロールプレイングの演習を通して—. 北日本看護学会誌. 2008;10(2):33-40.

【主な著書】

- ・ 川原礼子.: バリテーション療法・その他. In: 日本臨床増刊号 認知症学(下)その解明と治療の最新知見. 大阪: 日本臨床社; 2011. p. 136-9.
- ・ 川原礼子, 山田智恵理(監訳). 愛はあなたの手の中に—ナースが贈るこころのチキンスープ—. 東京: 看護の科学社; 2008.
- ・ 川原礼子(訳). In: 山田智恵理(監訳).看護の重要コンセプト 20 看護分野における概念分析の試み.東京: エルゼビア・ジャパン社; 2008. p. 91-122, 155-71, 209-24, 285-98.

研究分野名	地域ケアシステム看護学分野
-------	---------------

1. 分野構成(2014年4月1日時点)

教授:末永カツ子、准教授:高橋香子、助教:栗本鮎美
大学院(修士課程)1名、卒業研究生6名

2. 主な研究テーマ

本分野では、地域の健康・生活課題に対応できる協働の地域保健活動方法論に関する研究や被災地の住民・関係者と協働したコミュニティ再生のための研究に取り組んでいます。また、2014年4月に開設した大学院保健師養成コースの教育・研究にも携わっており、今後その成果を検証していきたいと考えます。

【主な研究テーマ】

1. ヘルスプロモーションと公衆衛生看護に関する研究
2. 地域のエンパワメントと地域ケアシステムに関する研究
3. 地域保健福祉活動における協働の活動方法論に関する研究
4. 被災地の保健師活動に関する研究
5. 被災地におけるコミュニティ・エンパワメントに関する研究

3. 主な研究業績(2008年4月以降)

【主な研究論文】

- ・ 真溪淳子, 末永カツ子, 高橋香子, 今野勇子, 佐々木久美子, 佐々木秀美, 佐藤幸子, 高橋いく子, 水沼一子. アクションラーニングを用いた保健師のリーダーシップ開発研修に関する考察. 東北大学医学部保健学科紀要. 2013;22(1):25-33.
- ・ 伊藤加奈子, 末永カツ子. 保健師が参画する実践コミュニティの意義に関する一考察. 東北大学医学部保健学科紀要. 2012;21(1):41-49.
- ・ Tsubota-Utsugi M, Ito-Sato R, Ohkubo T, Kikuya M, Asayama K, Metoki H, Fukushima N, Kurimoto A, Tsubono Y, Imai Y. Health behaviors as predictors for declines in higher-level functional capacity in older adults: the Ohasama study. J Am Geriatr Soc. 2011;59(11):1993-2000.
- ・ 栗本鮎美, 栗田圭一, 大久保孝義, 坪田(宇津木)恵, 浅山敬, 高橋香子, 末永カツ子, 佐藤洋, 今井潤. 日本語版 Lubben Social Network Scale 短縮版(LSNS-6)の作成と信頼性および妥当性の検討. 老年医学会雑誌. 2011;48(2):149-157.
- ・ 末永カツ子. 【ライフステージを通じた支援】 発達障害のある人の自立をめざす地域ケアシステムの構築に向けて. LD 研究. 2010; 19(2): 113-120.
- ・ Utsugi MT, Ohkubo T, Kikuya M, Kurimoto A, Sato RI, Suzuki K, Metoki H, Hara A, Tsubono Y, Imai Y. Fruit and vegetable consumption and the risk of hypertension determined by self measurement of blood pressure at home: the Ohasama study. Hypertens Res. 2008;31(7):1435-43.

【主な著書】

- ・ 末永カツ子. 障害者と福祉. In: 増田雅暢, 島田美喜(編). ナーシング・グラフィカ⑨ 健康支援と社会保障社会福祉と社会保障(第2版第4刷). メディカ出版: 大阪; 2012. p. 90-106.
- ・ 末永カツ子. 地域看護管理者に求められるリーダーシップ. In: 日本看護協会(監修). 第2版 新版 保健師業務要覧. 東京: 日本看護協会出版会; 2010. p. 100-3.
- ・ 末永カツ子, 平野かよ子. 地域保健管理の諸相. In: 日本看護協会(監). 第2版 新版 保健師業務要覧. 東京: 日本看護協会出版会; 2010. p. 92-9.
- ・ 末永カツ子. 活動を支える概念:公共性. In: 中西睦子(監). TACS シリーズ 10 実践地域看護学. 東京: 建帛社; 2010. p. 61-4.

研究分野名	地域保健学分野
-------	---------

1. 分野構成(2014年4月1日時点)

教授:南 優子 大学院(修士課程)1名

2. 主な研究テーマ

<p>がん・自己免疫疾患などの難治性慢性疾患の危険因子・予後因子を解明し、その成果を疾病予防活動や臨床の場に提供することを目的に研究に取り組んでいる。</p> <p>【主な研究テーマ】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳がんの疫学 2. 各種がんの記述疫学・分析疫学 3. 自己免疫疾患の疫学 4. 疫学方法論に関する研究

3. 主な研究業績(2008年4月以降)

<p>【主な研究論文】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Seki T, Nishino Y, Tanji F, Maemondo M, Takahashi S, Sato I, Kawai M, Minami Y. Cigarette smoking and lung cancer risk according to histologic type in Japanese men and women. <i>Cancer Sci.</i> 2013;104(11):1515-22. ・ Collaborative Group on Hormonal Factors in Breast Cancer (Kawai M, Minami Y, Tsuji I, Fukao A) Menarche, menopause, and breast cancer risk: individual participant meta-analysis, including 118 964 women with breast cancer from 117 epidemiological studies. <i>Lancet Oncol.</i> 2012;13(11):1141-51. ・ Kawai M, Kakugawa Y, Nishino Y, Hamanaka Y, Ohuchi N, Minami Y. Reproductive factors and breast cancer risk in relation to hormone receptor and menopausal status in Japanese women. <i>Cancer Sci.</i> 2012;103(10):1861-70. ・ Kawai M, Minami Y, Nishino Y, Fukamachi K, Ohuchi N, Kakugawa Y. Body mass index and survival after breast cancer diagnosis in Japanese women. <i>BMC Cancer.</i> 2012 Apr 17;12:149. doi:10.1186/1471-2407-12-149. ・ Minami Y, Nishino Y, Kawai M, Kakugawa Y. Being breastfed in infancy and adult breast cancer risk among Japanese women. <i>Cancer Causes Control.</i> 2012;23(2):389-98. ・ Minami Y, Hirabayashi Y, Nagata C, Ishii T, Harigae H, Sasaki T. Intake of vitamin B6 and dietary fiber and clinical course of systemic lupus erythematosus: a prospective study of Japanese female patients. <i>J Epidemiol.</i> 2011;21(4):246-54. ・ Kawai M, Minami Y, Kakizaki M, Kakugawa Y, Nishino Y, Fukao, A, Tsuji I, Ohuchi N. Alcohol consumption and breast cancer risk in Japanese women: the Miyagi Cohort study, <i>Breast Cancer Res Treat.</i> 2011;128(3):817-25. ・ Kawai M, Minami Y, Kuriyama S, Kakizaki M, Kakugawa Y, Nishino Y, Ishida T, Fukao A, Tsuji I, Ohuchi N. Adiposity, adult weight change and breast cancer risk in postmenopausal Japanese women: the Miyagi Cohort Study. <i>Br J Cancer.</i> 2010;103(9):1443-7. ・ Minami Y, Tochigi T, Kawamura S, Tateno H, Hoshi S, Nishino Y, Kuwahara M. Height, urban-born and prostate cancer risk in Japanese men. <i>Jpn J Clin Oncol.</i> 2008;38(3):205-13.

研究分野名	公衆衛生看護学分野
-------	-----------

1. 分野構成(2014年4月1日時点)

教授:大森純子、助教:田口敦子、研究補佐員1名、卒業研究生7名

2. 主な研究テーマ

米国の公衆衛生領域で主流となっている(CBPR:Community Based Participatory Research)という研究スタイルを用い、保健師など保健行政の関係職種や住民の方々と一緒に、「"地域への愛着"を育む健康増進プログラムの開発」、「近隣住民間の交流促進プログラムの開発」などに取り組み、個人変容と社会変容に参画しています。また、住民ボランティアと保健行政の関係職種がどのように協働していけばよいかについても探索しています。

【主な研究テーマ】

1. 文化と健康観・ヘルスプロモーションに関する研究
2. 地域への愛着と健康に関するプログラム開発
3. 行政と住民ボランティアの効果的な協働方法および評価に関する研究

3. 主な研究業績(2014年1月以降) ※2014年1月に分野新設のため

【主な研究論文】

- ・ 大森純子, 小林真朝, 小野若菜子, 麻原きよみ. コミュニティアセスメントの実践的演習の成果. 聖路加看護大学紀要. 2014;40:105-11.
- ・ 大森純子. 原発事故復興期における放射線防護文化の形成 —保健師の立場から—. 医療放射線防護. 2014;68:58-62.
- ・ 大森純子. リスクコミュニケーションの向こう側 —放射線防護からはじまる健康文化の形成—. 医療放射線防護. 2014;69:33-6.
- ・ 大森純子, 小西恵美子, 麻原きよみ. 健康課題としての放射線防護 保健師による実際的な活動モデルに向けて・3 保健師の実践へのヒント①:ベラルーシ視察報告から学ぶ. 保健師ジャーナル. 2014;70(7):626-30.
- ・ Taguchi A, Nagata S, Naruse T, Nagata S, Yamaguchi T, Murashima S. Identification of the need for home visiting nurse: development of a new assessment tool Int J Integr Care. 2014;14.

【主な著書】

- ・ 大森純子. In: 斎藤清二, 山田富秋, 本山方子(編). 質的心理学フォーラム選書 1 インタビューという実践. 東京: 新曜社; 2014.
- ・ 大森純子. In: 佐伯和子(編). 衛生看護学テキスト 2 公衆衛生看護技術. 東京: 医歯薬出版; 2014.
- ・ 田口敦子, 永田智子, 村嶋幸代(分担執筆). 在宅高齢者を支える—医療・介護・看取り—:Advances in Aging and Health Research 2013. 愛知: 長寿科学振興財団; 2014.

【主な学会発表】

- ・ 三森寧子, 高橋和子, 大森純子, 酒井太一, 齋藤美華, 小林真朝, 小野若菜子, 安齋ひとみ, 宮崎紀枝, 戸田亜紀子, 三笠幸恵. 向老期世代の“地域への愛着”を測定する尺度の開発(第3報) —健康関連 QOLとの関連性—. 第2回日本公衆衛生看護学会学術集会; 2014 Jan 12-13; 小田原.
- ・ 酒井太一, 大森純子, 高橋和子, 三森寧子, 齋藤美華, 小林真朝, 小野若菜子, 宮崎紀枝, 安齋ひとみ, 戸田亜紀子, 三笠幸恵. 向老期世代の“地域への愛着”を測定する尺度の開発(第1報) —“地域への愛着”尺度項目の検討—. 第2回日本公衆衛生看護学会学術集会; 2014 Jan 12-13; 小田原.
- ・ 高橋和子, 大森純子, 酒井太一, 三森寧子, 齋藤美華, 小林真朝, 小野若菜子, 安齋ひとみ, 宮崎紀枝, 戸田亜紀子, 三笠幸恵. 向老期世代の“地域への愛着”を測定する尺度の開発(第2報) —関連要因の検討—. 第2回日本公衆衛生看護学会学術集会; 2014 Jan 12-13; 小田原.

研究分野名	成人看護学分野
-------	---------

1. 分野構成(2014年4月1日時点)

教授:今谷 晃、講師:菊池史子、卒業研究生3名

2. 主な研究テーマ

1. 胃粘膜上皮細胞の分化制御と胃癌に関する研究
2. *Helicobacter pylori* に対する免疫応答に関する研究
3. 粘膜免疫応答による上皮細胞の細胞内シグナル伝達機構の解明
4. 上部消化管疾患と遺伝子多型に関する研究
5. 緩和ケア病棟における終末期患者に関わるリハビリテーションスタッフと看護職との協働に関する研究
6. 終末期リハビリテーションと患者・家族感情との関連に関する質的研究
7. 看護師自身のケア評価とケア満足度に関する研究

3. 主な研究業績(2008年4月以降)

【主な受賞】

- ・ 佐藤典子, 佐藤しのぶ, 菊地淳子, 齋藤明美, 菊池愛, 佐々木知子, 菊地史子, 緩和ケア病棟で終末期リハを行っている患者に関わる家族の思い. 第15回東北緩和医療研究会青森大会; 2011Sept 23; 青森. (ベストプレゼンテーション賞)

研究分野名	がん看護学分野
-------	---------

1. 分野構成(2014年4月1日時点)

教授:佐藤富美子、助教:佐藤菜保子
 大学院(博士課程)2名、大学院(修士課程)1名、卒業研究生8名

2. 主な研究テーマ

がん看護学分野は、がんの罹患や治療によって影響を受けた個人や家族のクオリティ・オブ・ライフ(Quality of Life;QOL)に関する看護理論の開発をテーマに研究に取り組んでいます。

【主な研究テーマ】

1. 乳がん患者の術後上肢機能障害予防改善に向けた介入効果に関する研究
2. 膵癌患者の治療に伴うQOL維持向上に関する研究
3. 前立腺がん術後患者のテレナーシング介入効果に関する研究
4. がん患者の治療選択プロセスにおける看護支援に関する研究
5. がん治療を受ける患者の症状マネジメントに関する研究
6. がん患者および家族のストレスと看護介入に関する研究

3. 主な研究業績(2008年4月以降)

【主な研究論文】

- ・ Sato F, Ishida T and Ohuchi N. The perioperative educational program for improving upper arm dysfunction in patients with breast cancer: a controlled trial. *Tohoku J Exp Med.* 2014;232:115-22.
- ・ Sato N, Suzuki N, Sasaki A, Aizawa E, Obayashi T, Kanazawa M, Mizuno T, Kano M, Aoki M, Fukudo S. Corticotropin-Rel Corticotropin-releasing hormone receptor 1 gene variants in irritable bowel syndrome. *PLoS ONE.* 2012;7(9):e42450.
- ・ 佐藤富美子. 術後1年までの乳がん体験者における患側上肢の苦痛に関連する要因の検討. *日本保健医療行動科学会年報.* 2012;27:157-170.
- ・ 佐藤菜保子, 皆川州正, 福土審. 医療従事者の「終末期患者支援認知行動尺度」の開発—看護職を対象とした検討—. *心身医学.* 2012;52(1):45-33.
- ・ 佐藤富美子. 乳がん体験者の術後上肢機能障害に対する主観的認知と客観的評価の関連. *日本がん看護学会誌.* 2009;23(2):33-41.

【主な著書】

- ・ 佐藤富美子. 医療機関と医療従事者の職務の機能と役割. In: 清水英佑, 佐藤富美子, 福本正勝(編). *社会保障と公衆衛生.* 東京: 医学評論社; 2013. p. 244-64.
- ・ 佐藤富美子. 生殖系機能障害のある患者の看護・乳がん患者の看護・前立腺がん患者の看護・子宮がん患者の看護. In: 黒田裕子(編). *成人看護学第2版.* 東京: 医学書院; 2013. p. 508-29.
- ・ 佐藤富美子. 乳がん患者のアセスメントと看護. In: 黒田裕子(編). *成人看護学.* 東京: 医学書院; 2009. p. 482-9.
- ・ 佐藤富美子. 頭頸部のアセスメント、眼のアセスメント、乳房のアセスメント. In: 小野田千枝子(監). 高橋照子, 芳賀佐和子, 佐藤富美子(編). *実践! フィジカル・アセスメント—看護者としての基礎技術 改訂第3版.* 東京: 金原出版; 2008. p. 35-61, 94-100.

【主な受賞】

- ・ 佐々木彩加, 佐藤菜保子, 鈴木直輝, 金澤素, 青木正志, 福土審. 過敏性腸症候群におけるコルチコロピン放出ホルモン関連遺伝子多型. *Japan Gut Club.* 2012 Nov 24; 東京. (特別奨励賞)

研究分野名	緩和ケア看護学分野
-------	-----------

1. 分野構成(2014年4月1日時点)

教授:宮下光令, 助教:佐藤一樹, 事務補佐員 2 名
 大学院(博士課程)2名, 大学院(修士課程)3名, 卒業研究生 8 名

2. 主な研究テーマ

緩和ケア看護学分野は、「がん」などの疾病により身体的・心理的・社会的・スピリチュアルな苦痛を抱える患者さまやご家族の QOL (Quality of Life: 生活の質) を維持し向上させることにより、患者さまやご家族が苦痛なく安心して生活することを支えるための看護の提供を目的に研究に取り組んでいます。

【主な研究テーマ】

1. 進行がん患者, 家族の QOL 向上に向けた支援方法の開発
2. 緩和ケアや終末期ケアの質の評価と実態調査
3. 緩和ケアや終末期ケアに関する卒前・卒後教育に関する研究
4. がん以外の疾患に対する緩和ケアや終末期ケアに関する研究

3. 主な研究業績(2009年10月以降) ※2009年10月に分野新設のため

【主な研究論文】

- ・ Kinoshita H, Maeda I, Morita T, Miyashita M, Yamagishi A, Shirahige Y, Takebayashi T, Yamaguchi T, Igarashi A, Eguchi K. Place of Death and the Differences in Patient Quality of Death and Dying and Caregiver Burden. J Clin Oncol. (in press)
- ・ Miyashita M, Kawakami S, Kato D, Yamashita H, Igaki H, Nakano K, Kuroda Y, Nakagawa K. The importance of good death components among cancer patients, the general population, oncologists and oncology nurses in Japan: Patients prefer "fighting against cancer." Support Care Cancer. (in press)
- ・ Miyashita M, Wada M, Morita T, Ishida M, Onishi H, Tsuneto S, Shima Y. Care Evaluation Scale-Patient version: Measuring the quality of the structure and process of palliative care from the patient's perspective. J Pain Symptom Manage.2014;48(1):110-8.
- ・ Sato K, Shimizu M, Miyashita M. Which quality of life instruments are preferred by cancer patients in Japan? Comparison of the European Organization for Research and Treatment of Cancer Quality of Life Questionnaire-C30, and the Functional Assessment of Cancer Therapy-General. Support Care Cancer.2014;22(12):3135-41.
- ・ Sato K, Inoue Y, Umeda M, Ishigamori I, Igarashi A, Togashi S, et al. A Japanese region-wide survey of the knowledge, difficulties, and self-reported palliative care practices among nurses. Jpn J Clin Oncol. 2014;44(8):718-28
- ・ Morita T, Miyashita M, Yamagishi A, Akiyama M, Akizuki N, Hirai K, Imura C, Kato M, Kizawa Y, Shirahige Y, Yamaguchi T, Eguchi K. Effects of a programme of interventions on regional comprehensive palliative care for patients with cancer: a mixed-methods study. Lancet Oncol. 2013;14(7):638-46.
- ・ Shinjo T, Morita T, Hirai K, Miyashita M, Sato K, Tsuneto S, Shima Y. Care for imminently dying cancer patients: family members' experiences and recommendations. J Clin Oncol. 2010;28(1):142-8.

【主な著書】

- ・ 宮下光令, 佐藤一樹, 清水恵, et al. In 宮下光令(編). ナーシング・グラフィカ 成人看護学 7 緩和ケア. 大阪: メディカ出版; 2013. 286p.

【主な受賞】

- ・ 佐藤一樹, 宮下光令, 森田達也, 恒藤暁, 志真泰夫. 緩和ケア病棟で提供された終末期鎮静の関連要因と遺族による緩和ケアの質評価への影響. 第 16 回日本緩和医療学会学術大会; 2011 July 29-30; 札幌. (最優秀演題賞)

研究分野名	小児看護学分野
-------	---------

1. 分野構成(2014年4月1日時点)

教授:塩飽 仁、助教:鈴木祐子、助手(兼):井上由紀子
大学院(博士課程後期)4名、大学院(博士課程前期)4名、卒業研究生5名

2. 主な研究テーマ

小児看護学分野は、子どもと家族を発達上のライフイベントに応じて支援する看護を追求している分野です。特に子どもと家族を心理・社会的に支える看護の研究、教育、実践に力点を置き、東北大学病院との **unification** や、学校、地域、医療機関、他大学などとの連携のもとに活動しています。

我々の分野の研究、教育、実践のおもなテーマは以下の通りです。

【主な研究テーマ】

1. 子どもと家族を心理・社会的に支える看護支援の開発
2. 神経症や軽度発達障害の子どもの療育支援と家族へのメンタルヘルスケア
3. 悪性疾患の子どもと家族のトータルケア

3. 主な研究業績(2008年4月以降)

【主な研究論文】

- ・名古屋祐子, 塩飽仁, 鈴木祐子. 看取りの時期にある小児がんの子どもとその親をケアする看護師が抱える葛藤. 日本小児看護学会誌. 2013;22(2):41-7.
- ・名古屋祐子, 塩飽仁, 鈴木祐子, 井上由紀子, 谷地館千恵. 遺族と医療者への面接から得られた治療が困難な時期にある小児がんの子どもに必要な要素. 日本小児がん看護学会誌. 2013;8(1):38-49.
- ・名古屋祐子, 塩飽仁, 鈴木祐子, 井上由紀子, 谷地館千恵. 遺族と医療者への面接から得られた治療が困難な時期にある小児がんの子どもを支える家族に必要な要素. 日本小児がん看護学会誌. 2013;(1):50-8.
- ・入江亘, 塩飽仁, 鈴木祐子, 和田雪. 小児がん患児の父親が患児とのかかわりに抱く思い—小児がん患児の父親とその他の長期入院を要する患児の父親の比較—. 小児がん看護. 2012;7:28-38.
- ・佐藤志保, 佐藤幸子, 塩飽仁. 採血を受ける子どもの非効果的対処行動の関連要因の検討. 日本看護学研究学会雑誌. 2011;34(4):23-31.
- ・高見三奈, 佐藤幸子, 塩飽仁. 神経症患児の両親の役割受容と親役割行動の特徴—子どもの精神的健康および家族機能評価との関連—. 日本小児看護学会誌. 2010;19(1):25-36.
- ・高見三奈, 佐藤幸子, 塩飽仁. 親の役割受容と親役割行動が子どもの評価する家族機能と精神的健康に与える影響. 日本看護学研究学会雑誌. 2009;32(2):55-63.
- ・佐藤幸子, 塩飽仁, 山本三奈, 藤田愛. 神経症・心身症児の不応行動の分析. 日本看護学研究学会雑誌. 2008;31(5):63-9.

【主な著書】

- ・塩飽仁, 井上由紀子. 精神疾患と看護「看護総論」「疾患をもった小児の看護」. In: 奈良間美保, 丸光恵(編). 系統看護学講座専門 23 小児看護学 2 小児臨床看護各論. 東京: 医学書院; 2011. 460-73.
- ・塩飽仁ほか. 第 8 章 トータルケア 心理面へのケア「総論」「時期別ケア; 診断時の心理と看護, 再発時の支援」, 特別な配慮が必要な問題「ボディイメージの変化, 小児がんのサイコオンコロジー」. In: 丸 光恵, 石田也寸志(監). ココからはじめる小児がん看護. 東京: へるす出版; 2009. 250-74.

【主な受賞】

- ・佐藤志保, 佐藤幸子, 塩飽仁. 採血を受ける子どもの非効果的対処行動の関連要因の検討. 日本看護学研究学会雑誌. 2011;34(4):23-31. (日本看護学研究学会平成 24 年度奨励賞)
- ・高見三奈, 佐藤幸子, 塩飽仁. 親の役割受容と親役割行動が子どもの評価する家族機能と精神的健康に与える影響. 日本看護学研究学会雑誌. 2009;32(2):55-63. (日本看護学研究学会平成 22 年度奨励賞)

研究分野名	精神看護学分野
-------	---------

1. 分野構成(2014年4月1日時点)

教授:齋藤秀光、講師:吉井初美、助教:光永憲香、
大学院(博士課程)2名、大学院(修士課程)3名、卒業研究生10名

2. 主な研究テーマ

精神看護学分野は、看護師を主とする職業人、精神障害者およびその家族のメンタルヘルスを支援することを目的とした研究に取り組んでいる。精神障害者に関しては、精神疾患の発症ないし再発予防やスティグマ対策などの研究を、家族に関しては、精神科以外の患者の家族に対する研究を行っている。

【主な研究テーマ】

1. 看護師のメンタルヘルス支援
2. 精神疾患の発症予防および再発予防の支援
3. 精神障害者に対するスティグマ対策
4. 家族のメンタルヘルス支援

3. 主な研究業績(2008年4月以降)

【主な研究論文】

- ・ 松本和紀, 濱家由美子, 光永憲香, 内田知宏, 砂川恵美, 大室則幸, 桂雅宏, 松岡洋夫. サイコーンズ早期段階における CBT の活用. 精神神経学雑誌. 2013;115(4):390-98.
- ・ Yoshii H. Qualitative study of stigmatization of mental illness in the Japanese workplace: the experience of mentally disabled people. Health. 2013;5(9):1378-85.
- ・ 吉井初美, 北村信隆, 齋藤秀光, 赤澤宏平. 統合失調症患者の口腔衛生支援:レビュー. 総合病院精神医学. 2013;25:268-76.
- ・ Yoshii H, Watanabe Y, Kitamura H, Akazawa K. Schizophrenia knowledge and attitudes toward help-seeking among Japanese fathers and mothers of high school students. Health. 2013;5(3A):497-503.
- ・ Yoshii H, Watanabe Y, Mazumder AH, Kitamura H, Akazawa K. Stigma toward schizophrenia among parents of high school students. Global Journal of Health Science. 2013;5(6):46-53.
- ・ 齋藤秀光, 富永美弥, 高松幸生, 伊藤文晃, 井藤佳恵, 山崎尚人, 上埜高志, 島田 哲, 田島つかさ, 中保利通, 吉田寿美子, 松岡洋夫. 緩和ケアにおける家族への精神的支援. 精神医学. 2012;54:419-426.
- ・ 吉井初美. 職場での精神障害者に対するスティグマ問題. 産業精神保健. 2012;20(2):135-141.
- ・ 齋 二美子. 精神科熟練看護師が捉えたうつ病患者に対する退院支援を判断するための患者の反応と介入過程. 日本精神保健看護学会誌. 2011;20(1):10-20.
- ・ 山口紗穂, 上埜高志, 齋藤秀光, 佐藤喜根子, 菊地紗耶, 齋 二美子, 加藤道代, 明城光三, 上原茂樹, 小野寺 弘. 妊産褥婦の心理社会的状態に関する研究—宮城県内の助産師外来利用者を対象にして—. 東北大学医学部保健学科紀要. 2011;20:81-89.

【主な著書】

- ・ 齋藤秀光. In: 精神保健福祉白書編集委員会(編). 精神保健福祉白書 2012 年度版. 東京: 中央法規出版株式会社; 2011. p. 153.
- ・ 齋藤秀光. てんかん. In: 精神保健福祉白書編集委員会(編). 精神保健福祉白書 2011 年度版. 東京: 中央法規出版株式会社; 2010. p.151.
- ・ 齋藤秀光. てんかん. In: 石井厚(監修). 新版精神保健第 2 版. 東京: 医学出版社; 2010. p. 91-7.

【主な受賞】

- ・ 濱家由美子, 内田知宏, 光永憲香, 大室則幸, 松本和紀, 松岡洋夫. 顕在発症後早期の psychosis に対する心理的アプローチ—個別的な早期支援プログラムの試み— 第 5 回日本統合失調症学会; 2010 Mar 26-27; 福岡.(奨励賞)

研究分野名	周産期看護学分野
-------	----------

1. 分野構成(2014年4月1日時点)

教授:佐藤喜根子、准教授:小山田信子 大学院(博士課程)1名、大学院(修士課程)4名、卒業研究生6名

2. 主な研究テーマ

<p>周産期看護学分野は、妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期を含む次世代の育成に繋がる子育てなど、女性や家族の健康に関することを、その時代に応じつつ様々な価値観の変化に伴う問題解決に対して、周産期女性やご家族が安心して生活することを支えるための助産活動の提供を目的に研究に取り組んでいます。</p> <p>【主な研究テーマ】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 周産期にある女性のメンタルヘルスケアに関する研究 2. 周産期医療体制の研究 3. 東日本大震災が周産期女性に及ぼす影響に関する研究 4. 助産師の自立支援に必要な卒後教育体制に関する研究 5. 地方における看護・助産教育成立過程の研究 6. 学生の看護助産技術修得過程の研究
--

3. 主な研究業績(2008年4月以降)

<p>【主な研究論文】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>小山田信子</u>, 高橋みや子. 明治期の宮城県における看護婦の教育制度と身分法の成立過程-縣立宮城病院附属看護婦養成所開校までの背景-. 日本看護歴史学会誌. 2008;21:56-67. ・ <u>佐藤喜根子</u>, <u>佐藤祥子</u>. 妊娠期からの継続した心理的支援が周産期女性の不安・抑うつに及ぼす効果. 日本母性衛生. 2010;51:215-25. ・ 金澤悠介, 倉元直樹, <u>小山田信子</u>, 吉沢豊子. 看護系大学の入試構造に見る高大接続問題. 大学入試研究ジャーナル. 2011:49-57. ・ <u>佐藤喜根子</u>:東日本大震災が母親のメンタルヘルスに与えた影響,助産雑誌,10,858-863,2012. 東日本大震災が母親のメンタルヘルスに与えた影響. 助産雑誌. 2012;10:858-63. ・ 菊池綾子, <u>小山田信子</u>, <u>佐藤喜根子</u>, <u>佐藤祥子</u>. 第2子誕生後2ヵ月経過した男性の家族に対する意識. 北日本看護学会誌. 2013;16:1-12. ・ Yoshii H, Saito H, Kikuchi S, Ueno T, <u>Sato K</u>. Maternal Anxiety 16 Months after the Great East Japan Earthquake Disaster Area: First Report. Health. 2014;6(10):870-8. ・ Yoshii H, Saito H, Kikuchi S, Ueno T, <u>Sato K</u>. Report on maternal anxiety 16 months after the great East Japan earthquake disaster: anxiety over radioactivity. Glob J Health Sci. 2014;6(6):36862. <p>【主な受賞】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>佐藤祥子</u>, 塩野悦子. 初妊婦の自己概念の変化への戸惑い. 第24回日本助産学会学術集会; 2010 Mar 20-21; 筑波. (優秀ポスター賞) ・ <u>佐藤喜根子</u>, 菊池笑加, <u>小山田信子</u>, <u>佐藤祥子</u>. 東日本大震災が子育て中(乳児期)の母親の心理に及ぼす影響. 第41回日本女性心身医学会; 2012 Aug 4-5; 東京. (優秀演題賞) ・ 菊池笑加, <u>佐藤喜根子</u>, <u>小山田信子</u>, <u>佐藤祥子</u>. 震災前後に子どもが誕生した父親の生活と心身の健康状態-東日本大震災から1年4ヶ月後の調査-. 第15回日本母性看護学会; 2013 July 6-7; 仙台. (優秀ポスター賞)
--

研究分野名	ウイメンズヘルス看護学分野
-------	---------------

1. 分野構成(2014年4月1日時点)

教授:吉沢豊子、准教授:跡上富美、助教:中村康香、事務補佐員1名
大学院(博士後期課程)4名、大学院(博士前期課程)3名

2. 主な研究テーマ

女性の健康に係わることを広く研究し、一生涯にわたる女性の健康の向上およびQOLの向上を目指し、研究に取り組んでいます。

【主な研究テーマ】

1. 家族形成時期の coparenting に関する研究
2. 妊娠先行婚女性の家族形成過程に関する研究
3. 切迫早産妊婦に関する研究
4. 女性の下肢浮腫、冷え症に関する研究

3. 主な研究業績(2008年4月以降)

【主な研究論文】

- ・吉沢豊予子. 特集 看護学において若手研究者をどう育てるか? (I) 将来の看護学を構築する卓越した若手研究者をどう育てるか. 看護研究. 2014;47(1):6-13.
- ・Sato M, Atogami F, Nakamura Y, Kusaka Y, Yoshizawa T. Remote community-based public health nursing during a disaster: an ethnographic case study in Japan. Australas Emerg Nurs J. 2014;17(3):106-11.
- ・跡上富美, 中村康香, 武石陽子, 伊藤直子, 吉沢豊予子. 妊娠先行型結婚をした女性の妊娠経過における快適性の変化. 日本母性看護学会誌. 2014;14(1):50-6.
- ・日下裕子, 吉沢豊予子, 中野弘枝, 鈴木花菜, 千葉美貴, 竹内真帆, 中村康香. リンパ浮腫予防教育プログラムの開発—知識教育に焦点をあてて—. リンパ浮腫管理の研究と実践. 2013;1(1):33-41.
- ・Takeuchi M, Yoshizawa T, Kusaka Y, Furusawa Y, Nakamura Y, Atogami F, Niikura H. Detecting subclinical secondary lymphoedema using bioimpedance: A preliminary study. J Lymphoedema; 2013;8(2):16-20.
- ・今村麻乃, 中村康香, 跡上富美, 吉沢豊予子. 入院している切迫早産妊婦の肯定的な体験について. 母性衛生. 2013;54(2):346-53.
- ・Nakamura Y, Takeishi Y, Atogami F, Yoshizawa T. Assessment of the QOL in Japanese pregnant women: comparison among hospitalized, outpatient and non-pregnant women. Nurs Health Sci. 2012;14:182-8.
- ・Nakamura Y, Atogami F, Yoshizawa T. Assessment of maternal psychosocial adaptation in pre-labor hospitalized pregnant women in Japan. Nurs Rep. 2011;1(1):35-9.

【主な著書】

- ・新道幸恵(監). 吉沢豊予子, 跡上富美, 中村康香(企画). メディカエクセレント DVD シリーズ手掌圧が見てわかる! [分娩介助技術]-分娩介助のポジショニングと可視化された手掌圧で技術の向上に役立つ. 大阪: メディカ出版; 2013.
- ・吉沢豊予子, 跡上富美, 中村康香, 他. In: 中野仁雄, 新藤幸恵, 遠藤俊子. 新体系看護学全書 母性看護学 1 母性看護学概論/ウイメンズヘルスと看護. 東京: メヂカルフレンド社; 2012.
- ・中村康香, 他. In: 中野仁雄, 遠藤俊子, 新藤幸恵(編). 新体系看護学全書 母性看護学 2 マタニティサイクルにおける母子の健康と看護. 東京: メヂカルフレンド社; 2012.

【主な受賞】

- ・武石陽子, 中村康香, 跡上富美, 吉沢豊予子. 妊娠期の快適性に関する尺度の開発. 第6回日本母性看護学会学術論文賞 2012.
- ・跡上富美. 平成23年度東北大学医学部・医学系研究科教育貢献賞 2012 Mar.
- ・中村康香. 第2回日本母性看護学会学術論文賞 2008.

4. カリキュラム

4-1. 学部カリキュラム

【平成 26 年度 看護学専攻専門教育科目】

区 分	授 業 科 目	単位数		時間	開設年次・セメスター・時間数								備 考							
		必修	選択		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次									
					1	2	3	4	5	6	7	8								
専 門 基 礎 科 目	人間の理解科目	医療解剖学	2		60	30	30													
	人間の理解科目	生体機能学Ⅰ	1		30	30														
	人間の理解科目	生体機能学Ⅱ	1		30		30													
	人間の理解科目	代謝学	2		30		30													
	人間の理解科目	遺伝情報学 ※1		1	15															15
	人間の理解科目	免疫学	2		30			30												
	人間の理解科目	発達心理学	1		15	15														
	人間の理解科目	生命倫理	1		15		15													
	人間の理解科目	病理学	2		30			30												
	人間の理解科目	病原微生物学	1		30	30														
	人間の理解科目	臨床薬理学	2		30				30											
	人間の理解科目	家族関係論	1		15					15										
	人間の理解科目	公衆衛生学	1		30				30											
	人間の理解科目	健康の支援科目	社会保障制度論	1		15														15
	人間の理解科目	健康の支援科目	保健医療福祉行政論	1		15					15									
	人間の理解科目	健康の支援科目	国際保健学	1		15														15
	人間の理解科目	健康の支援科目	食生活論	1		15		15												
	人間の理解科目	健康の支援科目	運動生活論	1		15			15											
	人間の理解科目	健康の支援科目	リハビリテーション学	1		15			15											
	人間の理解科目	健康の支援科目	看護情報演習	1		30					30									
人間の理解科目	健康の支援科目	医療経済学		1	15														15	
人間の理解科目	健康の支援科目	看護管理・政策論	2		30														30	
人間の理解科目	健康の支援科目	看護教育学	1		15														15	
専 門 教 育 科 目	看護基幹科目	看護学原論Ⅰ	1		15	15														
		看護学原論Ⅱ	1		15		15													
		看護技術論Ⅰ	1		30			30												
		看護技術論Ⅱ	2		60			30	30											
		看護技術論Ⅲ	1		30					30										
		看護技術論Ⅳ	1		30					30										
		看護研究原論	1		15					15										
		基礎看護学実習Ⅰ	1		45		45													
		基礎看護学実習Ⅱ	2		90					90										
		看護展開科目	成人看護学原論	1		15			15											
	成人看護方法論Ⅰ		2		60				60											
	成人看護方法論Ⅱ		2		60					60										
	成人看護学実習Ⅰ		3		135							135								
	成人看護学実習Ⅱ		3		135							135								
	老年看護学原論		1		15			15												
	老年看護方法論		2		60				60											
	老年看護学実習		3		135							135								
	小児看護学原論		1		15			15												
	小児看護方法論		2		60				30	30										
	小児看護学実習		3		135							135								
	精神看護学原論		1		15				15											
	精神看護方法論		2		60					60										
	精神看護学実習		3		135							135								
	女性健康科学原論		1		15				15											
	母性看護方法論		2		60					60										
	母性看護学実習		3		135							135								
	地域看護学原論		1		15			15												
	地域看護方法論	2		45				45												
	地域看護学実習	1		45					45											
	在宅看護論	1		30						30										
	緩和ケア看護論	1		15						15										
	助産学原論 ※1		1	15							15									
	助産診断学 ※1		2	60								60								助産師の国家試験受験資格を希望する者は※1の科目は必修となる。
助産技術学 ※1		3	90								30	60								
助産管理論 ※1		1	15															15		
新生児看護論 ※1		1	30							30										
助産学実習 ※1		8	360										180	180						
総合科目	総合看護学実習	2		90									90							
	学術英語	1		15						15										
	チーム医療	1		15															15	
	卒業研究	3		90									30	30	30					

卒業要件：全学教育科目41単位、専門教育科目86単位（専門基礎科目27単位、専攻専門科目59単位）、合計127単位以上修得
 ※開設セメスター等は変更する場合もあるので、その年度の時間割やシラバスで確認してください。

4-2. 大学院カリキュラム

【平成 26 年度 保健学専攻博士課程（前期 2 年の課程）】

科目区分	授業科目	一般コース		代表教員	科目区分	授業科目	一般コース		代表教員
		必修	選択				必修	選択	
共通選択科目	看護学研究方法論		2	吉沢	基礎・健康開発看護学領域	看護アセスメント学特論Ⅰ		2	丸山
	看護学研究のための統計学		2	宮下		看護アセスメント学特論Ⅱ		2	丸山
	看護倫理		2	朝倉		看護アセスメント学セミナー		4	丸山
	理論看護学アプローチ		2	朝倉		看護教育・管理学特論Ⅰ		2	朝倉
	医療教育論		2	小山田		看護教育・管理学特論Ⅱ		2	朝倉
	医療・看護政策論		2	末永		看護教育・管理学特論セミナー		4	朝倉
	がん科学		2	今谷		老年保健看護学特論		2	齋藤（美）
	がん診療トレーニング		2	今谷		老年リハビリテーション看護学特論		2	菊地
	先端放射線科学概論		2	町田		老年保健看護学セミナー		4	看護学コース教員
	検査医学概論		2	林		地域ケアシステム看護学特論Ⅰ		2	末永
	災害医学概論		2	張替		地域ケアシステム看護学特論Ⅱ		2	末永
	医用動物学		1	清水		地域ケアシステム看護学セミナー		4	末永
	分子・遺伝生物学Ⅰ		1	中山（啓）		地域保健学セミナー		4	南
	医学統計学入門		2	山口		公衆衛生看護学特論Ⅰ		2	大森
	医学データ解析入門		2	山口		公衆衛生看護学特論Ⅱ		2	大森
特別研究科目	論文研究	10		各指導教授	看護学コース （保健師必修科目） （保健師選択科目）	公衆衛生看護学特論Ⅲ		4	大森
	課題研究		5	各指導教員		公衆衛生看護学セミナー		4	大森
						公衆衛生看護学原論		2	大森
						公衆衛生看護学活動論Ⅰ		2	大森
						公衆衛生看護学活動論Ⅱ		4	大森
						地域ケアシステム看護学活動論Ⅰ		4	末永
						地域ケアシステム看護学活動論Ⅱ		4	末永
						疫学		2	南
						保健統計学		2	南
						保健医療福祉行政特論		3	南
						公衆衛生看護学実習Ⅰ		2	大森
						公衆衛生看護学実習Ⅱ		2	大森
						地域ケアシステム看護学実習Ⅰ		3	末永
						地域ケアシステム看護学実習Ⅱ		3	末永
						公共哲学		2	末永
					社会システム論		2	末永	
					環境保健論		2	南	
					災害メンタルヘルス論		2	富田[災害]	

科目区分	授業科目	一般コース		代表教員	科目区分	授業科目	一般コース		代表教員
		必修	選択				必修	選択	
専門科目 看護学コース 家族支援看護学領域	コンサルテーション論		2	塩飽	専門科目 看護学コース 家族支援看護学領域	小児看護学特論Ⅰ		2	塩飽
	臨床薬理学		2	今谷		小児看護学特論Ⅱ		2	塩飽
	フィジカルアセスメント		2	佐藤(富)		小児看護学セミナーⅠ		4	塩飽
	病態生理学		2	塩飽		小児看護学セミナーⅡ		2	塩飽
	がん看護学特論Ⅰ		2	佐藤(富)		小児看護学セミナーⅢ		2	塩飽
	がん看護学特論Ⅱ		2	佐藤(富)		小児専門看護学実習Ⅰ		2	塩飽
	がん看護学セミナーⅠ		2	佐藤(富)		小児専門看護学実習Ⅱ		8	塩飽
	がん看護学セミナーⅡ		2	佐藤(富)		リエゾン精神看護論		2	齋藤(秀)
	緩和ケア看護学特論Ⅰ		2	宮下		家族のメンタルヘルス論		2	齋藤(秀)
	緩和ケア看護学特論Ⅱ		2	宮下		精神保健看護学セミナー		4	齋藤(秀)
	緩和ケアトレーニング		1	宮下		周産期看護学特論		2	佐藤(喜)
	緩和ケア看護学セミナーⅠ		2	宮下		周産期メンタルヘルスケア論		2	佐藤(喜)
	緩和ケア看護学セミナーⅡ		2	宮下		周産期看護学セミナー		4	佐藤(喜)
	がん看護専門看護学実習Ⅰ		2	佐藤(富)		女性生涯看護学特論Ⅰ		2	吉沢
がん看護専門看護学実習Ⅱ		6	佐藤(富)	女性生涯看護学特論Ⅱ		2	吉沢		
がん看護専門看護学実習Ⅲ		2	宮下	ウィメンズヘルス看護学セミナー		4	吉沢		

【平成26年度 保健学専攻博士課程（後期3年の課程）】

科目区分	授業科目	必修	選択	代表教員	科目区分	授業科目	必修	選択	代表教員		
										共通科目	共通選択科目
基礎・健康開発看護学セミナーⅡ	2	末永									
家族支援看護学セミナーⅠ	2	塩飽									
家族支援看護学セミナーⅡ	2	吉沢									
基礎・健康開発看護学特論	2	丸山									
特別研究科目	保健学論文研究	8		各指導教授		家族支援看護学特論		2	塩飽		

※次の各号により、16単位以上を修得すること。

1. 共通科目のうちから、指導教員の指示により、2単位以上。
2. 領域別の専門科目から、指導教員の指示により、4単位以上。
3. 保健学論文研究8単位。

5. 教員

5-1. 現在の教員一覧（2014年4月現在）

【基礎・健康開発看護学領域】

看護アセスメント学分野

教授 丸山良子（看護師・保健師、博士（医学））

講師 菅野恵美（看護師・保健師、博士（医学））

看護教育・管理学分野

教授 朝倉京子（看護師・保健師、博士（看護学））

老年・在宅看護学分野

講師 齋藤美華（看護師・保健師、博士（看護学））

助手 坂川奈央（看護師・保健師、修士（看護学））

地域ケアシステム看護学分野

教授 末永カツ子（看護師・保健師、博士（教育学））

准教授 高橋香子（看護師・保健師、修士（障害科学））

助教 栗本鮎美（看護師・保健師、修士（医科学））

地域保健学分野

教授 南優子（医師、博士（医学））

公衆衛生看護学分野

教授 大森純子（看護師・保健師、博士（看護学））

助教 田口敦子（看護師・保健師、修士（保健学））

【家族支援看護学領域】

成人看護学分野

教授 今谷晃（医師、博士（医学））

講師 菊地史子（看護師、博士（障害科学））

がん看護学分野

教授 佐藤富美子（看護師・保健師、博士（看護学））

助教 佐藤菜保子（看護師、博士（医学））

緩和ケア看護学分野

教授 宮下光令（看護師・保健師、博士（保健学））

助教 佐藤一樹（看護師・保健師、博士（保健学））

小児看護学分野

教授 塩飽仁（看護師・保健師、博士（医学））

助教 鈴木祐子（看護師・保健師、修士（看護学））

助手 井上由紀子（看護師・保健師、修士（看護学）、小児看護専門看護師）

※東北大学病院助手と兼務

精神看護学分野

教授 齋藤秀光（医師、博士（医学））

講師 吉井初美（看護師・精神保健福祉士、博士（医学））

助教 光永憲香（看護師・保健師、修士（看護学））

周産期看護学分野

教授 佐藤喜根子 (看護師・助産師、博士 (教育学))

准教授 小山田信子 (看護師・助産師、修士 (看護学))

ウイメンズヘルス看護学分野

教授 吉沢豊子 (看護師・助産師・保健師、博士 (看護学))

准教授 跡上富美 (看護師・助産師・保健師、博士 (健康科学))

助教 中村康香 (看護師・助産師・保健師、博士 (看護学))

※学位の記載形式は、「学位 (専攻分野)」で統一した

(例えば、実際に授与された学位は「博士 (医学)」ではなく「医学博士」である場合がある)

5-2. これまで在籍した教員一覧 (平成 15 年度～現在、現職除く、所属・職位は最終在籍時のもの)

石田真知子	看護管理学分野 教授	(平成 15 年 10 月 ～平成 19 年 3 月)
板垣恵子	基礎看護学分野 教授	(平成 15 年 10 月 ～平成 19 年 3 月)
伊藤美由紀	成人病態学分野 助教	(平成 15 年 10 月 ～平成 20 年 3 月)
大槻久美	老年保健学分野 助手	(平成 21 年 4 月 ～平成 25 年 3 月)
柏倉栄子	がん看護学分野 准教授	(平成 15 年 10 月 ～平成 26 年 3 月)
河合賢朗	地域保健学分野 助教	(平成 23 年 4 月 ～平成 24 年 11 月)
川原礼子	老年保健学分野 教授	(平成 17 年 4 月 ～平成 25 年 3 月)
小林光樹	成人看護学分野 教授	(平成 15 年 10 月 ～平成 23 年 3 月)
今野弘子	助手	(平成 15 年 10 月 ～平成 16 年 3 月)
齋二美子	精神看護学分野 准教授	(平成 16 年 4 月 ～平成 24 年 3 月)
齋藤ひろみ	地域看護学分野 教授	(平成 15 年 10 月 ～平成 18 年 3 月)
櫻井香澄	がん看護学分野 助手	(平成 21 年 4 月 ～平成 21 年 8 月)
佐藤祥子	周産期看護学分野 助教	(平成 15 年 10 月 ～平成 26 年 3 月)
佐藤千代子	基礎看護技術学分野 助手	(平成 17 年 9 月 ～平成 18 年 3 月)
佐藤みほ	看護教育・管理学分野 助教	(平成 22 年月 ～平成 26 年 3 月)
佐藤理恵	母子病態学分野 助手	(平成 15 年 10 月 ～平成 16 年 11 月)
杉山敏子	看護アセスメント学分野 准教授	(平成 15 年 10 月 ～平成 20 年 9 月)
鈴木和広	地域ケアシステム看護学分野 助教	(平成 18 年 4 月 ～平成 22 年 3 月)
關亦明子	看護アセスメント学分野 講師	(平成 20 年 10 月 ～平成 22 年 3 月)
高林俊文	母子病態学分野 教授	(平成 15 年 10 月 ～平成 20 年 7 月)
富澤弥生	小児看護学分野 助手	(平成 15 年 10 月 ～平成 18 年 3 月)
根本良子	がん看護学分野 教授	(平成 15 年 10 月 ～平成 21 年 3 月)
平野かよ子	国際看護管理学分野 教授	(平成 20 年 4 月 ～平成 25 年 3 月)
森鍵祐子	老年看護学分野 助教	(平成 18 年 4 月 ～平成 21 年 3 月)
藪田歩	家族・発達精神看護学分野 助手	(平成 21 年 4 月 ～平成 22 年 2 月)
和田雪	家族・発達精神看護学分野 助教	(平成 19 年 4 月 ～平成 22 年 3 月)
渡邊生恵	看護アセスメント学分野 助教	(平成 15 年 10 月 ～平成 26 年 3 月)

6. 各種データ

6-1. 学部入試情報

【一般入試倍率・入学率】

	募集人員	志願者	倍率	合格者	入学者
平成 16 年度入学試験（前期）	50	130	2.6 倍	54	51
平成 16 年度入学試験（後期）	20	140	7.0 倍	20 (1)	18
平成 17 年度入学試験（前期）	50	120	2.4 倍	56	53
平成 17 年度入学試験（後期）	20	110	5.5 倍	22	19
平成 18 年度入学試験（前期）	50	91	1.8 倍	56	51
平成 18 年度入学試験（後期）	20	108	5.4 倍	24 (2)	19
平成 19 年度入学試験（前期）	50	111	2.2 倍	56	52
平成 19 年度入学試験（後期）	20	88	4.4 倍	25 (1)	17
平成 20 年度入学試験	55	114	2.1 倍	56	53
平成 21 年度入学試験	55	123	2.2 倍	57	54
平成 22 年度入学試験	55	167	3.0 倍	56	52
平成 23 年度入学試験	55	156	2.8 倍	58	57
平成 24 年度入学試験	55	140	2.5 倍	56	53
平成 25 年度入学試験	55	134	2.4 倍	58	52
平成 26 年度入学試験	55	123	2.2 倍	60	55

※「合格者」は追加合格者の人数を含まない、() 内は追加合格者の人数を示す

【AO 入試倍率・入学率】

	募集人員	志願者	倍率	合格者	入学者
平成 20 年度入学試験（AO）	15	55	3.7 倍	19	19
平成 21 年度入学試験（AO）	15	43	2.9 倍	17	17
平成 22 年度入学試験（AO）	15	54	3.6 倍	20	20
平成 23 年度入学試験（AO）	15	49	3.3 倍	17	17
平成 24 年度入学試験（AO）	15	57	3.8 倍	15	15
平成 25 年度入学試験（AO）	15	35	2.3 倍	16	16
平成 26 年度入学試験（AO）	15	34	2.3 倍	15	15

6-2. 大学院入試情報

【修士課程入試倍率・入学者数（看護学専攻のみ）】

	募集人員	志願者	倍率	合格者	入学者	
					全体	専門看護師 コース
平成 20 年度入学試験	24	21	0.9 倍	17	17	1
平成 21 年度入学試験	24	13	0.5 倍	11	10	3
平成 22 年度入学試験	24	21	0.9 倍	16	14	3
平成 23 年度入学試験	24	15	0.6 倍	13	13	5
平成 24 年度入学試験	24	13	0.5 倍	12	11	3
平成 25 年度入学試験	24	11	0.5 倍	9	9	2
平成 26 年度入学試験	24	15	0.6 倍	11	11	4

※ 募集人員は、保健学専攻 3 コース（看護学、放射線技術科学、検査技術科学）全体での人数

※ 倍率は、保健学専攻 3 コース全体での募集人員に対する看護学コース志願者の比

【博士課程入試倍率・入学者数（看護学専攻のみ）】

	募集人員	志願者	倍率	合格者	入学者
平成 22 年度入学試験	10	4	0.4 倍	4	4
平成 23 年度入学試験	10	5	0.5 倍	4	4
平成 24 年度入学試験	10	9	0.9 倍	7	7
平成 25 年度入学試験	10	12	1.2 倍	10	8
平成 26 年度入学試験	10	6	0.6 倍	4	3

※ 募集人員は、保健学専攻 3 コース（看護学、放射線技術科学、検査技術科学）全体での人数

※ 倍率は、保健学専攻 3 コース全体での募集人員に対する看護学コース志願者の比

6-3. 学部卒業後の進路

【国家試験受験資格取得状況（新卒者）】

	保健師	助産師	看護師
平成 19 年度卒業	73	20	63
平成 20 年度卒業	76	15	66
平成 21 年度卒業	73	15	63
平成 22 年度卒業	80	16	70
平成 23 年度卒業	69	13	66
平成 24 年度卒業	73	15	71
平成 25 年度卒業	69	13	69

※ 助産師コースは選抜制

【国家試験合格状況（新卒者+既卒者）】

	保健師			助産師			看護師		
	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率
平成 19 年度施行	73	69	95%	20	19	95%	64	63	98%
平成 20 年度施行	77	77	100%	16	16	100%	67	65	97%
平成 21 年度施行	73	68	93%	15	8	53%	63	63	100%
平成 22 年度施行	81	79	98%	19	19	100%	70	70	100%
平成 23 年度施行	73	70	96%	13	13	100%	66	66	100%
平成 24 年度施行	75	74	99%	16	15	94%	71	68	96%
平成 25 年度施行	70	67	96%	14	12	86%	72	72	100%

【学部卒業後の進路】

	卒業数	就職				進学		
		看護師	助産師	保健師	一般職	大学院	各種学校・大学等	その他
平成 19 年度卒業	73	35	14 (1)	8	1	8 (1)	5	3
平成 20 年度卒業	76	38	9	14	2	6	5	2
平成 21 年度卒業	73	45 (1)	8 (1)	8 (1)	2	9 (1)	2	1
平成 22 年度卒業	80	62 (11)	15 (11)	6	0	4	3	1
平成 23 年度卒業	69	44 (4)	12 (4)	12	1	1	1	2
平成 24 年度卒業	73	49 (3)	12 (3)	5	1	7	1	1
平成 25 年度卒業	69	42 (1)	11 (1)	9	0	8	0	0

※ () は、重複してカウントした人数

6-4. 大学院修了後の進路

【修士課程】

	学位取得	博士課程 進学	大学教員	看護学校 教員	看護師・ 助産師	保健師	その他
平成 21 年度修了	8	1	1	0	5	0	1
平成 22 年度修了	10	1	1	0	6	2	0
平成 23 年度修了	13	2 (1)	2 (1)	1	6	2	1
平成 24 年度修了	16	2	0	0	11	1	2
平成 25 年度修了	9	2	0	0	6	0	1

※ () は、重複してカウントした数

※ 社会人院生であった学生が博士課程に進学後も仕事を継続した場合は、就職者には含まなかった

【専門看護師取得状況】（認定数は平成 26 年 12 月現在）

	がん看護専門看護師		小児看護専門看護師	
	修了数	認定数	修了数	認定数
平成 21 年度修了	0	-	—	—
平成 22 年度修了	2	2 (100%)	—	—
平成 23 年度修了	1	0 (0%)	—	—
平成 24 年度修了	2	2 (100%)	6	4 (67%)
平成 25 年度修了	2	2 (100%)	1	0 (0%)

※ 「修了者」は、専門看護師認定審査の受験資格を有する修了者の人数

※ 「認定数」は、専門看護師の認定審査に合格したものの人数

※ 専門看護師認定審査の有資格者のなかには、専門看護師の認定を希望しない者も含まれる

【博士課程】

	学位取得	教育機関・研究機関		看護師・ 助産師	保健師	その他
		大学教員	その他			
平成 24 年度修了	0	—	—	—	—	—
平成 25 年度修了	2	1	1	0	0	0

6-5. 大学院修了者の学位論文一覧

【修士課程】

平成 21 年度（2009 年度）

- ・ 鎌田美千代. 看護師の与薬業務における医療情報と医療行為の乖離の分析. (平野かよ子教授)
- ・ 河村真人. 長野県佐久地域の 2008/09 シーズンにおける季節性インフルエンザ流行時での医療機関受診の検討. (丸山良子教授)
- ・ 佐々木康之輔. Evaluation of respiratory pattern on human heart rate variability (心拍変動における呼吸の評価). (丸山良子教授)
- ・ 庄司香織. エストロゲンと加齢が自律神経活動の調節に及ぼす影響. (丸山良子教授)
- ・ 関智示. 褥婦に出現する産褥早期の下肢浮腫の経時的変化と弾性ストッキングの効果に関する検討. (吉沢豊子教授)
- ・ 武石陽子. 妊娠期の快適性に関する尺度の開発. (吉沢豊子教授)
- ・ 武田晶子. 子どもの病気のイメージと「自分の病気について知ること」の意識および保護者の意識の実態とそれらの関連. (塩飽仁教授)
- ・ 松井憲子. 敗血症と全身性炎症反応症候群患者の自律神経活動の変化について. (丸山良子教授)

平成 22 年度（2010 年度）

- ・ 青木咲奈枝. がん患者の外来放射線治療による有害事象の苦痛度とクオリティ・オブ・ライフの関連. (佐藤富美子教授)
- ・ 伊藤加奈子. 中堅保健師の OJT と実践コミュニティに関する研究. (末永カツ子教授)
- ・ 桂田かおり. 死産・新生児死亡を経験した父親の「子どもの死の実感プロセス」. (佐藤喜根子教授)
- ・ 鎌倉美穂. 貯血式自己血採血をモデルとした循環血液量減少が循環動態と自律神経活動に及ぼす影響. (丸山良子教授)
- ・ 坂村佐知. 妊娠先行型結婚夫婦の関係性が養育環境に及ぼす影響—早産児を出産した女性を対象にして—. (吉沢豊子教授)
- ・ 佐々木理衣. 初発乳がん術後補助化学療法を受ける患者の気がかりとソーシャル・サポートの関連. (佐藤富美子教授)
- ・ 千葉春香. 出生体重が循環動態と自律神経活動に及ぼす影響. (丸山良子教授)
- ・ 永井瑞希. 女子長距離選手における月経異常が自律神経系・心血管系・運動パフォーマンスに及ぼす影響. (丸山良子教授)
- ・ 芳賀麻有. 睡眠時姿勢特性と自律神経活動および呼吸機能との関連性の検討. (丸山良子教授)
- ・ 平尾由美子. 在宅療養高齢者の足爪白癬の罹患状況、管理の実態、および QOL への影響に関する研究. (川原礼子教授)

平成 23 年度（2011 年度）

- ・ 荒屋敷純子. 東日本大震災発生から一週間の看護職の労働実態～性別・婚姻が災害時の労働に与えた影響～. (吉沢豊子教授)
- ・ 井上芙蓉子. がん診療に携わる看護師の緩和ケアに関する知識・困難感・実践の実態と関連要因—日本の 4 地域全体を対象とした多施設調査—. (宮下光令教授)

- ・岡野恵. 小児病棟に勤務するチャイルドライフスペシャリストの役割と機能に関する研究～子ども中心の医療を推進するスペシャリストとは～. (平野かよ子教授)
- ・菊池綾子. 第2子誕生後2か月経過した男性の家族に対する意識. (佐藤喜根子教授)
- ・熊谷賀代. 正常新生児の生後1か月までの体重増減量と完全母乳育児継続の関連要因の明確化. (吉沢豊子教授)
- ・小松恵. 高齢者の看取りにおいて、訪問看護師が「よい」あるいは「心残り」と感じた背景の研究. (川原礼子教授)
- ・佐々木久美子. 産業看護職におけるCSR(企業の社会的責任)の認識プロセス. (末永カツ子教授)
- ・品川優理. 乳癌患者に対する喫煙の影響—乳癌細胞株とタバコ煙抽出物を用いた検討—. (丸山良子教授)
- ・高橋奈津子. 介護老人保健施設に入所している高齢者の下肢浮腫に関する調査—加齢、日常生活における影響因子、および利尿薬との関連性について—. (川原礼子教授)
- ・竹内真帆. Changes in the lower limb of patients before and after Gynecologic surgery including LND: implication for early lymphedema assessment (婦人科リンパ節廓清術後の下肢の変化—続発性リンパ浮腫の早期発見に向けて—). (吉沢豊子教授)
- ・丹治史也. Personality and All-cause, Cause-specific Mortality in Japan: the Miyagi Cohort Study (パーソナリティと全死因、死因別死亡リスクに関する前向きコホート研究). (南優子教授)
- ・成沢香織. 外来で分子標的治療を受けているがん患者の症状体験とQOLの関連. (佐藤富美子教授)
- ・藪田歩. 統合失調症をもつ患者の家族心理教育の効果. (齋藤秀光教授)

平成24年度(2012年度)

- ・五十嵐美幸. がん患者の死亡場所に関連する要因—死亡票情報を用いた分析と都道府県別医療社会的指標を用いた分析. (川原礼子教授)
- ・石川涼. 知的障害を伴わない発達障害をもつ子どもの発見から就学における関係者の役割および連携に関する実態調査. (塩飽仁教授)
- ・烏日古木拉. 出生体重が血圧および自律神経活動に及ぼす影響—モンゴル族の若年成人を対象にした検証. (丸山良子教授)
- ・菅野雄介. 看護師による看取りのケアの質の評価尺度の信頼性・妥当性と関連要因の探索. (宮下光令教授)
- ・菊池笑加. 震災前後に子どもが誕生した父親の生活と心身の健康状態—東日本大震災から1年4か月後の調査—. (佐藤喜根子教授)
- ・日下由利子. 看護師と患児および保護者が認識する病名と病状説明時における看護師の対応についての実態調査. (塩飽仁教授)
- ・佐山恭子. 入院した子どものきょうだいと母親が評価するきょうだい自身の人格的成長に関する調査研究. (塩飽仁教授)
- ・関貴子. 喫煙と肺がん罹患リスクに関する組織型別症例対照研究. (南優子教授)
- ・高田望. 看護師の「集中治療室における積極的治療から看取りの医療」への意思決定参画に関する基礎的研究. (平野かよ子教授)

- ・ 千葉みゆき. 化学療法を受ける転移再発大腸がん患者の心理的適応に関連する要因の検討. (佐藤富美子教授)
- ・ 名古屋祐子. 遺族と医療者への面接から得られた看取りの時期にある小児がんの子どもと家族に必要な要素. (塩飽仁教授)
- ・ 納谷さくら. がん患者のオピオイドに対する懸念と疼痛コントロールの関連. (佐藤富美子教授)
- ・ 真溪淳子. アクションラーニングによる地域看護管理者研修の意義. (末永カツ子教授)
- ・ 三谷綾子. 青年期以降の胆道閉鎖症患者の QOL とレジリエンスの特徴に関する調査研究. (塩飽仁教授)
- ・ 門間典子. 大学病院に勤務する中高年看護師の仕事継続要因の分析. (平野かよ子教授)
- ・ 谷地館千恵. 看護師が認識する子どものターミナルケアについてのインタビュー調査. (塩飽仁教授)

平成 25 年度 (2013 年度)

- ・ 菅野喜久子. 東日本大震災の被災沿岸地域の医療者へのインタビュー調査に基づく災害時におけるがん緩和ケア・在宅医療の在り方に関する研究. (宮下光令教授)
- ・ 木村智一. 児童養護施設の福祉職, 施設長, 看護師がとらえている児童養護施設の看護師の現状と役割の実態調査. (塩飽仁教授)
- ・ 日下裕子. リンパ浮腫発症の可能性に直面した時に感じる不本意さと不確かさ—婦人科がんサバイバーの経験から—. (吉沢豊子教授)
- ・ 下條祐也. 妻・母親役割を担う看護職の職業継続意思に影響する要因の検討—両立支援的組織風土に注目して—. (朝倉京子教授)
- ・ 長坂沙紀. 高機能広汎性発達障害当事者がセルフアドボカシー活動を行うまでの体験. (末永カツ子教授)
- ・ 包薩日娜. **Effect of low birth weight on inflammation biomarkers and autonomic function in healthy young adults** (若年健常者における出生体重が炎症性マーカーおよび自律神経機能に及ぼす影響). (丸山良子教授)
- ・ 本田涼. 第 2 子が NICU に入院した母親の第 1 子への思いと対応. (佐藤喜根子教授)
- ・ 三滝亜弥. 産業看護職が体験するリアリティショックと対処に関する研究. (末永カツ子教授)
- ・ 横田則子. 外来で化学療法を受けるがん患者の埋め込み型中心静脈ポート留置部位と生活の支障との関連. (佐藤富美子教授)

【博士課程】

平成 25 年度 (2013 年度)

- ・ 有永洋子. アロマセラピーと簡易エクササイズを用いたセルフケアプログラムによる乳がん治療関連リンパ浮腫管理に関する研究 (佐藤富美子教授)
- ・ 清水恵. 受療行動調査におけるがん患者の療養生活の質の評価のための項目の適切性に関する研究 (宮下光令教授)

6-6. 業績数の推移

【業績数の推移】

	原著論文・総説 (査読あり)		原著論文・総説 (査読なし)、 紀要、解説	著書	国際学会 発表	国内学会 発表
	英文論文	和文論文				
平成 20 年 (2008 年)	4	11	20	9	3	44
平成 21 年 (2009 年)	7	6	13	6	8	56
平成 22 年 (2010 年)	20	11	23	6	17	114
平成 23 年 (2011 年)	17	14	24	10	10	84
平成 24 年 (2012 年)	30	22	17	9	22	89
平成 25 年 (2013 年)	24	25	27	9	13	115
合計	102	89	124	49	73	502

※ 大学院が設置された平成 20 年以降のもの

※ 教員・学生が保健学専攻に所属している期間中に発表された業績のみを数えた

※ 査読のない原著論文は「原著論文・総説 (査読なし)、紀要、解説」に含めた

※ 重複カウントあり

【外部資金獲得の推移】

	新規研究費		継続研究費		その他 外部資金
	主任研究	分担研究	主任研究	分担研究	
平成 20 年 (2008 年)	11	6	4	2	0
平成 21 年 (2009 年)	8	9	10	6	0
平成 22 年 (2010 年)	11	7	11	14	3
平成 23 年 (2011 年)	14	5	14	13	1
平成 24 年 (2012 年)	20	13	19	11	3
平成 25 年 (2013 年)	19	23	22	18	0
合計	83	63	80	64	7

※ 大学院が設置された平成 20 年 4 月以降のもの

※ 継続研究費は延数

7. 研究業績 (2008年4月～2013年12月)

研究業績は、東北大学大学院医学系研究科保健学専攻が設置された2008年以降2013年12月までの業績について、教員が保健学専攻に所属している期間中に発表された業績を分野別に掲載する。

(「外部資金獲得」のみ2008年4月～2014年3月とした)

7-1. 原著論文・総説 (査読あり)

【看護アセスメント学分野】

1. Maruyama R. The effect of ambient particulate matter on cardiovascular responses. *Eurozoru Kenkyu*. 2008;23(3):187-92.
2. 菅野恵美, 鳥谷部荘八, 館正弘. ラット皮膚潰瘍創における緑膿菌バイオフィルムの微細構造. 形態・機能. 2008;6(2):111-8.
3. Kanno E, Toriyabe S, Zhang L, Imai Y, Tachi M. Biofilm formation on rat skin wounds by *Pseudomonas aeruginosa* carrying the gene fluorescent protein gene. *Exp Dermatol*. 2010;19(2):154-6.
4. 芳賀麻有, 丸山良子. 日本古来の「香」が自立神経系に及ぼす影響. *日本看護技術学会誌*. 2010;9(3):34-9.
5. Kanno E, Kawakami K, Ritsu M, Ishii K, Tanno H, Toriyabe S, Imai Y, Maruyama R, Tachi M. Wound healing in skin promoted by inoculation with *Pseudomonas aeruginosa* PAO1: the critical role of tumor necrosis factor- α secreted from infiltrating neutrophils. *Wound Repair Regen*. 2011;19(5):608-21.
6. Hatashi D, Kawakami K, Ito K, Ishii K, Tanno H, Imai Y, Kanno E, Maruyama R, Shimokawa H, Tachi M. Low-energy extracorporeal shock wave therapy enhances skin wound healing in diabetic mice: a critical role of endothelial nitric oxide synthase. *Wound Repair Regen*. 2012;20(6):887-95.
7. Tanaka M, Ishii K, Miyazato A, Maki A, Abe Y, Miyasaka T, Yamamoto H, Akahori Y, Fue M, Takahashi Y, Kanno E, Maruyama R, Kawakami K. TLR9-dependent activation of bone marrow-derived dendritic cells by URA5 DNA from *Cryptococcus neoformans*. *Infect Immun*. 2012;80(2):778-86.
8. 菅野恵美, 丹野寛大, 館正弘. 皮膚創傷治癒過程におけるbFGF産生へのTNF- α の関与. *日本褥瘡学会誌*. 2012;14(2):113-20.
9. Kanno E, Kawakami K, Miyairi S, Tanno H, Otomaru H, Hatanaka A, Sato S, Ishii K, Hayashi D, Shibuya N, Imai Y, Gotoh N, Maruyama R, Tachi M. Neutrophil-derived tumor necrosis factor- α contributes to acute wound healing promoted by N-(3-oxododecanoyl)-L-homoserine lactone from *Pseudomonas aeruginosa*. *J Dermatol Sci*. 2013;70(2):130-8.
10. Kudo D, Toyama M, Aoyagi T, Akahori Y, Yamamoto H, Ishii K, Kanno E, Maruyama R, Kaku M, Kushimoto S, Kawakami K. Involvement of High Mobility Group Box 1 and the therapeutic effect of recombinant thrombomodulin in a mouse model of severe acute respiratory distress syndrome. *Clinical Exp Immunol*. 2013;173(2):276-87.
11. Kudo D, Uno K, Aoyagi T, Akahori Y, Ishii K, Kanno E, Maruyama R, Kushimoto S, Kaku M, Kawakami K. Low-dose interferon- α treatment improves survival and inflammatory responses in a mouse model of fulminant acute respiratory distress syndrome. *Inflammation*. 2013;36(4):812-20.
12. Tanno H, Kawakami K, Kanno E, Ishii K, Hayashi D, Maruyama R, Tachi M. Role of invariant natural killer T cells in the skin wound healing. *東北医誌*. 2013;125:144-5.

【看護教育・管理学分野】

13. 籠玲子, 朝倉京子. 病院の外科病棟に勤務する看護師の役割認知とそれに関わる体験. *看護研究*. 2008;41(1):61-72.

14. Watanabe I, Kuriyama S, Kakizaki M, Sone T, Ohmori-Matsuda K, Nakaya N, Hozawa A, Tsuji I. Green tea and death from pneumonia in Japan; the Ohsaki cohort study. *Am J Clin Nutr.* 2009;90(3):672-9.
15. Hozawa A, Kuriyama S, Watanabe I, Kakizaki M, Ohmori K, Sone T, Nagai M, Sugawara Y, Nitta A, Qiang L, Ohkubo T, Murakami Y, Tsuji I. Participation in health check-ups and mortality using propensity score matched cohort analyses. *Prev Med.* 2010;51:397-402.
16. 朝倉京子, 朝倉隆司, 平野裕子, 兵藤智佳. 日比 EPA 締結後のフィリピンにおける看護の情勢・政策の現状—フィリピン人看護師の国際移動を支える社会システムの現状と日本進出の可能性 (第2報). *看護管理.* 2010;20(6):516-9.
17. Asakura K, Watanabe I. The Survival Strategy of Male Nurses in Rural Areas of Japan. *Jpn J Nurs Sci.* 2011;8(2):194-202.
18. Togari T, Satoh M, Yamazaki Y, Otemori R. The development of Japanese 13-item version of psychological sense of school membership scale for Japanese urban high school students. *School Health.* 2011;7:62-72.
19. Togari T, Satoh M, Otemori R, Yonekura Y, Yokoyama Y, Kimura M, Tanaka W, Yamazaki Y. Sense of coherence in mothers and children, family relationships and participation in decision-making at home: an analysis based on Japanese parent-child pair data. *Health Promot Int.* 2012;27(2):148-56.
20. 渡邊生恵, 杉山敏子. 一般病床患者と看護師による療養環境評価の特性. *日本看護研究学会雑誌.* 2012;35(5):117-28.
21. Sugawara Y, Kakizaki M, Nagai M, Tomata Y, Hoshi R, Watanabe I, Nishino Y, Kuriyama S, Tsuji I. Lactation pattern and the risk for hormone-related female cancer in Japan: the Ohsaki Cohort Study. *Eur J Cancer Prev.* 2013;22(2):187-92.
22. Tei-Tominaga M, Asakura T, Asakura K. Stigma towards nurses with mental illnesses: a study of nurses and nurse managers in hospitals in Japan. *Int J Ment Health Nurs.* 2013;23(4):316-25.
23. 朝倉京子, 籠玲子. 中期キャリアにあるジェネラリスト・ナースの自律的な判断の様相. *日本看護科学会誌.* 2013;33(4):43-52.

【老年・在宅看護学分野】

24. 森鍵祐子, 大竹まり子, 赤間明子, 鈴木育子, 佐藤千史, 小林淳子, 叶谷由佳. 急性期病院における早期退院支援を目的としたスクリーニング票の導入. *日本在宅ケア学会誌.* 2008;12(1):26-34.
25. 森鍵祐子, 齋藤美華, 川原礼子. 家族看護学を学習した学生の興味・関心の変化 —教員が演じるロールプレイングの演習を通して—. *北日本看護学会誌.* 2008;10(2):33-40.
26. 齋藤美華, 齋藤美咲, 半沢みどり, 阿部由美, 角張範子, 齋藤真美, 大槻久美, 川原礼子. 外来化学療法を受けている高齢がん患者の生活への思い. *北日本看護学会誌.* 2010;13(1):21-9.
27. 川原礼子, 齋藤美華, 大槻久美. 訪問看護場面の尿閉に対する医行為の実態およびその認識 アセスメント状況と看護師の判断でできると考え得る理由. *看護実践の科学.* 2012;37(2):30-7.
28. 齋藤美華, 大槻久美, 川原礼子. 高齢者の排便ケアに関する医行為が訪問看護師の判断で行えると考えた理由. *日本老年看護学会誌.* 2012;16(2):65-71.
29. 齋藤美華, 坂川奈央, 大槻久美, 川原礼子. 高齢者の褥瘡ケアに関する訪問看護師の医行為の内容とその判断理由. *北日本看護学会誌.* 2013;16(1):33-42.

【地域ケアシステム看護学分野】

30. Utsugi MT, Ohkubo T, Kikuya M, Kurimoto A, Sato RI, Suzuki K, Metoki H, Hara A, Tsubono Y, Imai Y. Fruit and vegetable consumption and the risk of hypertension determined by self measurement of blood pressure at home: the Ohasama study. *Hypertens Res.* 2008;31(7):1435-43.
31. 大井孝, 栗本結美, 板橋志保, 三好慶忠, 水戸祐子, 水尻大希, 服部佳功, 伊藤理恵, 鈴木和広, 細川彩, 平野幹雄, 大久保孝義, 細川徹, 栗田主一, 今井潤, 渡邊誠. 中高齢者の抑うつに関わる歯科的要因: 大迫研究. *老年歯科医学.* 2009;23(3):308-18.

32. Tsubota-Utsugi M, Ito-Sato R, Ohkubo T, Kikuya M, Asayama K, Metoki H, Fukushima N, Kurimoto A, Tsubono Y, Imai Y. Health behaviors as predictors for declines in higher-level functional capacity in older adults: the Ohasama study. *J Am Geriatr Soc.* 2011;59(11):1993-2000.
33. 栗本鮎美, 栗田主一, 大久保孝義, 坪田 (宇津木) 恵, 浅山敬, 高橋香子, 末永カツ子, 佐藤洋, 今井潤. 日本語版 Lubben Social Network Scale 短縮版 (LSNS - 6)の作成と信頼性および妥当性の検討. *老年医学会雑誌.* 2011;48(2):149-57.
34. Naruse T, Taguchi A, Nagata S, Kuwahara Y, Murashima S. Prevalence of home visiting nurse service clients who received insufficient number of nurse visits in the Japanese long-term care insurance. *看護科学研究.* 2012;10:2-8.
35. 田口敦子, 永田智子, 成瀬昂, 栗原雄樹, 福田敬, 山田雅子, 吉池由美子, 八巻心太郎, 中尾杏子, 田上豊, 村嶋幸代. 訪問看護の潜在ニーズを含めたニーズの推計. *厚生指標.* 2012;59(4):16-22.
36. Murayama H, Taguchi A, Murashima S. Exploring the ideal combination of activity satisfaction and burden among health promotion volunteers: a cross-sectional study in Japan. *BMC Public Health.* 2013;13:205.
37. Taguchi A, Naruse T, Kuwahara Y, Satoko N, Murashima S. Home visiting nurse agencies for community dwelling elderly at nighttime in Japan. *Home Health Care Manage Practice.* 2013;25(6):256-63.
38. 成瀬昂, 田口敦子, 永田智子, 栗原雄樹, 村嶋幸代. 居宅介護支援専門員によって同一日に訪問サービスを頻回に必要と判断される要介護者の発現率と対象像の明確化. *日本公衆衛生雑誌.* 2013;6(6):370-6.

【地域保健学分野】

39. Fujita M, Tase T, Kakugawa Y, Hoshi S, Nishino Y, Nagase T, Ito K, Niikura H, Yaegashi N, Minami Y. Smoking, earlier menarche and low parity as independent risk factors for gynecologic cancers in Japanese: a case-control study. *Tohoku J Exp Med.* 2008;216(4):297-307.
40. Minami Y, Tochigi T, Kawamura S, Tateno H, Hoshi S, Nishino Y, Kuwahara M. Height, urban-born and prostate cancer risk in Japanese men. *Jpn J Clin Oncol.* 2008;38(3):205-13.
41. Kakuta Y, Nakaya N, Nagase S, Fujita M, Koizumi T, Okamura C, Niikura H, Ohmori K, Kuriyama S, Tase T, Ito K, Minami Y, Yaegashi N, Tsuji I. Case-control study of green tea consumption and the risk of endometrial endometrioid adenocarcinoma. *Cancer Causes Control.* 2009;20(5):617-24.
42. Kawai M, Minami Y, Kuriyama S, Kakizaki M, Kakugawa Y, Nishino Y, Ishida T, Fukao A, Tsuji I, Ohuchi N. Adiposity, adult weight change and breast cancer risk in postmenopausal Japanese women: the Miyagi Cohort Study. *Br J Cancer.* 2010;103(9):1443-7.
43. Kawai M, Minami Y, Kuriyama S, Kakizaki M, Kakugawa Y, Nishino Y, Ishida T, Fukao A, Tsuji I, Ohuchi N. Reproductive factors, exogenous female hormone use and breast cancer risk in Japanese: the Miyagi Cohort Study. *Cancer Causes Control.* 2010;21(1):135-45.
44. Kawai M, Minami Y, Kakizaki M, Kakugawa Y, Nishino Y, Fukao A, Tsuji I, Ohuchi N. Alcohol consumption and breast cancer risk in Japanese women: the Miyagi Cohort study. *Breast Cancer Res Treat.* 2011;128(3):817-25.
45. Minami Y, Hirabayashi Y, Nagata C, Ishii T, Harigae H, Sasaki T. Intake of vitamin B6 and dietary fiber and clinical course of systemic lupus erythematosus: a prospective study of Japanese female patients. *J Epidemiol.* 2011;21(4):246-54.
46. Collaborative Group on Hormonal Factors in Breast Cancer (Kawai M, Minami Y, Tsuji I, Fukao A). Menarche, menopause, and breast cancer risk: individual participant meta-analysis, including 118 964 women with breast cancer from 117 epidemiological studies. *Lancet Oncol.* 2012;13(11):1141-51.

47. Kawai M, Kakugawa Y, Nishino Y, Hamanaka Y, Ohuchi N, Minami Y. Reproductive factors and breast cancer risk in relation to hormone receptor and menopausal status in Japanese women. *Cancer Sci.* 2012;103(10):1861-70.
48. Kawai M, Minami Y, Nishino Y, Fukamachi K, Ohuchi N, Kakugawa Y. Body mass index and survival after breast cancer diagnosis in Japanese women. *BMC Cancer.* 2012;12:149.
49. Minami Y, Nishino Y, Kawai M, Kakugawa Y. Being breastfed in infancy and adult breast cancer risk among Japanese women. *Cancer Causes Control.* 2012;23(2):389-98.
50. Kawai M, Kakugawa Y, Nishino Y, Hamanaka Y, Ohuchi N, Minami Y. Anthropometric factors, physical activity, and breast cancer risk in relation to hormone receptor and menopausal status in Japanese women: a case-control study. *Cancer Causes Control.* 2013;24(5):1033-44.
51. Seki T, Nishino Y, Tanji F, Maemondo M, Takahashi S, Sato I, Kawai M, Minami Y. Cigarette smoking and lung cancer risk according to histologic type in Japanese men and women. *Cancer Sci.* 2013;104(11):1515-22.

【がん看護学分野】

52. 佐藤富美子, 黒田裕子. 術後1年までの乳がん体験者の上肢機能障害に対する主観的認知とクオリティ・オブ・ライフの関連. *日本看護科学学会誌.* 2008;28(2):28-36.
53. 佐藤富美子. 乳がん体験者の術後上肢機能障害に対する主観的認知尺度の作成と信頼性および妥当性の検討. *日本がん看護学会誌.* 2008;22(1):31-42.
54. 佐藤菜保子, 小澤信義, 金澤素, 福土審. 肥満妊婦の妊娠リスク認知と行動に関する研究. *心身医学.* 2009;49:997-1006.
55. 佐藤富美子. 乳がん体験者の術後上肢機能障害に対する主観的認知と客観的評価の関連. *日本がん看護学会誌.* 2009;23(2):33-41.
56. 伊藤直子, 佐藤富美子, 佐藤和佳子. 療養病床における経管栄養者の頸部関節可動域と意識障害者およびADLの特性. *日本老年看護学会学会誌老年看護学.* 2010;14(2):68-74.
57. 齋藤智子, 佐藤富美子. 外来で化学療法を受けるがん患者のセルフケア行動と自己効力感の関連. *日本がん看護学会誌.* 2010;24(1):23-34.
58. 佐藤大介, 佐藤富美子. 術後1年までの前立腺がん患者の機能障害に対する対処行動とQOLの関連. *日本がん看護学会誌.* 2010;24(2):15-23.
59. 長谷川直人, 佐藤和佳子, 佐藤富美子ほか. 居宅高齢者の健康状態と健康管理の特徴—前期・後期高齢者別の検討. *厚生の指標.* 2010;57(2):35-42.
60. Sato N, Suzuki N, Sasaki A, Aizawa E, Obayashi T, Kanazawa M, Mizuno T, Kano M, Aoki M, Fukudo S. Corticotropin-releasing hormone receptor 1 gene variants in irritable bowel syndrome. *PLoS ONE.* 2012;7(9):e42450.
61. 佐藤菜保子, 皆川州正, 福土審. 医療従事者の「終末期患者支援認知行動尺度」の開発—看護職を対象とした検討—. *心身医学.* 2012;52(1):45-33.
62. 佐藤富美子. 術後1年までの乳がん体験者における患側上肢の苦痛に関連する要因の検討. *日本保健医療行動科学学会年報.* 2012;27:157-170.
63. Arinaga Y. Holistic management of lymphoedema in Japan: Two contrasting cases. *J Lymphoedema.* 2012;7(2):42-9.

【緩和ケア看護学分野】(2009年10月以降)

64. Fukahori H, Miyashita M, Morita T, Ichikawa T, Akizuki N, Akiyama M, Shirahige Y, Eguchi K. Administrators' perspectives on end-of-life care for cancer patients in Japanese long-term care facilities. *Support Care Cancer.* 2009;17(10):1247-54.
65. Misawa T, Miyashita M, Kawa M, Abe K, Abe M, Nakayama Y, Given CW. Validity and reliability of the Japanese version of the Caregiver Reaction Assessment Scale (CRA-J) for community-dwelling cancer patients. *Am J Hosp Palliat Care.* 2009;26(5):334-40.
66. Nakazawa Y, Miyashita M, Morita T, Umeda M, Oyagi Y, Ogasawara T. The palliative care knowledge test: reliability and validity of an instrument to measure palliative care knowledge among health professionals. *Palliat Med.* 2009;23(8):754-66.

67. Sato K, Miyashita M, Morita T, Suzuki M. The long-term effect of a population-based educational intervention focusing on end-of-life home care, life-prolongation treatment, and knowledge about palliative care. *J Palliat Care*. 2009;25(3):206-12.
68. Akazawa T, Akechi T, Morita T, Miyashita M, Sato K, Tsuneto S, Shima Y, Furukawa TA. Self-perceived burden in terminally ill cancer patients: a categorization of care strategies based on bereaved family members' perspectives. *J Pain Symptom Manage*. 2010;40(2):224-34.
69. Ando M, Kawamura R, Morita T, Hirai K, Miyashita M, Okamoto T, Shima Y. Value of religious care for relief of psycho-existential suffering in Japanese terminally ill cancer patients: the perspective of bereaved family members. *Psychooncology*. 2010;19(7):750-5.
70. Ando M, Morita T, Miyashita M, Sanjo M, Kira H, Shima Y. Effects of bereavement life review on spiritual well-being and depression. *J Pain Symptom Manage*. 2010;40(3):453-9.
71. Ando M, Morita T, Miyashita M, Sanjo M, Kira H, Shima Y. Factors that influence the efficacy of bereavement life review therapy for spiritual well-being;a qualitative analysis. *Support Care Cancer*. 2010;19(2):309-14.
72. Choi J, Miyashita M, Hirai K, Sato K, Morita T, Tsuneto S, Shima Y. Preference of place for end-of-life cancer care and death among bereaved Japanese families who experienced home hospice care and death of a loved one. *Support Care Cancer*. 2010;18(11):1445-53.
73. Fujisawa D, Miyashita M, Nakajima S, Ito M, Kato M, Kim Y. Prevalence and determinants of complicated grief in general population. *J Affect Disord*. 2010;127(1-3):352-8.
74. Igarashi A, Morita T, Miyashita M, Kiyohara E, Inoue S. Changes in medical and nursing care after admission to palliative care units: a potential method for improving regional palliative care. *Support Care Cancer*. 2010;18(9):1107-13.
75. Miyashita M, Yasuda M, Baba R, Iwase S, Teramoto R, Nakagawa K, Kizawa Y, Shima Y. Inter-rater reliability of proxy simple symptom assessment scale between physician and nurse: a hospital-based palliative care team setting. *Eur J Cancer Care (Engl)*. 2010;19(1):124-30.
76. Nakazawa Y, Miyashita M, Morita T, Umeda M, Oyagi Y, Ogasawara T. The palliative care self-reported practices scale and the palliative care difficulties scale: reliability and validity of two scales evaluating self-reported practices and difficulties experienced in palliative care by health professionals. *J Palliat Med*. 2010;13(4):427-37.
77. Okamoto T, Ando M, Morita T, Hirai K, Kawamura R, Mitsunori M, Sato K, Shima Y. Religious care required for Japanese terminally ill patients with cancer from the perspective of bereaved family members. *Am J Hosp Palliat Care*. 2010;27(1):50-4.
78. Sasahara T, Miyashita M, Umeda M, Higuchi H, Shinoda J, Kawa M, Kazuma K. Multiple evaluation of a hospital-based palliative care consultation team in a university hospital: activities, patient outcome, and referring staff's view. *Palliat Support Care*. 2010;8(1):49-57.
79. Shinjo T, Morita T, Hirai K, Miyashita M, Sato K, Tsuneto S, Shima Y. Care for imminently dying cancer patients: family members' experiences and recommendations. *J Clin Oncol*. 2010;28(1):142-8.
80. Shinjo T, Morita T, Miyashita M, Sato K, Tsuneto S, Shima Y. Care for the bodies of deceased cancer inpatients in Japanese palliative care units. *J Palliat Med*. 2010;13(1):27-31.
81. Sugiura M, Miyashita M, Sato K, Tsuneto S, Matoba M, Sano M, Shima Y. Analysis of factors related to the use of opioid analgesics in regional cancer centers in Japan. *J Palliat Med*. 2010;13(7):841-6.
82. Yamagishi A, Morita T, Miyashita M, Sato K, Tsuneto S, Shima Y. The care strategy for families of terminally ill cancer patients who become unable to take nourishment orally: recommendations from a nationwide survey of bereaved family members' experiences. *J Pain Symptom Manage*. 2010;40(5):671-83.

83. 新城拓也, 森田達也, 平井啓, 宮下光令, 佐藤一樹, 恒藤暁, 志真泰夫. 主治医による死亡確認や臨終の立ち会いが、家族の心理に及ぼす影響についての調査研究. *Palliat Care Res.* 2010;5(2):162-70.
84. Deno M, Miyashita M, Fujisawa D, Nakajima S, Ito M. The relationships between complicated grief, depression, and alexithymia according to the seriousness of complicated grief in the Japanese general population. *J Affect Disord.* 2011;135(1-3):122-7.
85. Deno M, Tashiro M, Miyashita M, Asakage T, Takahashi K, Saito K, Busujima Y, Mori Y, Saito H, Ichikawa Y. Developing the social distress scale for head and neck cancer outpatients in Japan. *Palliat Support Care.* 2011;9(2):165-72.
86. Hirai K, Kudo T, Akiyama M, Matoba M, Shiozaki M, Yamaki T, Yamagishi A, Miyashita M, Morita T, Eguchi K. Public awareness, knowledge of availability, and readiness for cancer palliative care services: a population-based survey across four regions in Japan. *J Palliat Med.* 2011;14(8):918-22.
87. Miyashita M, Narita Y, Sakamoto A, Kawada N, Akiyama M, Kayama M, Suzukamo Y, Fukuhara S. Health-related quality of life among community-dwelling patients with intractable neurological diseases and their caregivers in Japan. *Psychiatry Clin Neurosci.* 2011;65(1):30-8.
88. Sato K, Miyashita M. Development of a scale for "difficulties felt by ICU nurses providing end-of-life care" (DFINE): a survey study. *Intensive Crit Care Nurs.* 2011;27(4):202-10.
89. Shin DW, Choi J, Miyashita M, Choi JY, Kang J, Baik YJ, Mo HN, Choi JS, Son YS, Lee HS. Measuring comprehensive outcomes in palliative care: validation of the Korean version of the Good Death Inventory. *J Pain Symptom Manage.* 2011;42(4):632-42.
90. Shin DW, Choi JE, Miyashita M, Choi JY, Kang J, Baik YJ, Mo HN, Park J, Kim HJ, Park EC. Cross-cultural application of the Korean version of the European Organization for Research and Treatment of Cancer Quality of Life Questionnaire-Core 15-Palliative Care. *J Pain Symptom Manage.* 2011;41(2):478-84.
91. Takenouchi S, Miyashita M, Tamura K, Kizawa Y, Kosugi S. Evaluation of the End-of-Life Nursing Education Consortium-Japan faculty development program: validity and reliability of the 'End-of-Life Nursing Education Questionnaire. *J Hospice Palliat Nurs.* 2011;13(6):368-75
92. Yoshida S, Hirai K, Morita T, Shiozaki M, Miyashita M, Sato K, Tsuneto S, Shima Y. Experience with prognostic disclosure of families of Japanese patients with cancer. *J Pain Symptom Manage.* 2011;41(3):594-603.
93. 石井容子, 宮下光令, 佐藤一樹, 小澤竹俊. 遺族、在宅医療・福祉関係者からみた、終末期がん患者の在宅療養において家族介護者が体験する困難に関する研究. *日本がん看護学会誌.* 2011;25(1):24-36.
94. 古村和恵, 宮下光令, 木澤義之, 川越正平, 秋月伸哉, 山岸暁美, 的場元弘, 鈴木聡, 木下寛也, 白髭豊, 森田達也, 江口研二. 進行がん患者と遺族のがん治療と緩和ケアに対する要望—821名の自由記述からの示唆. *Palliat Care Res.* 2011;6(2):237-45.
95. 杉浦宗敏, 宮下光令, 佐藤一樹, 森田達也, 佐野元彦, 的場元弘, 恒藤暁, 志真泰夫. がん診療連携拠点病院における緩和ケア提供に関する薬剤業務等の全国調査. *日本緩和医療薬学雑誌.* 2011;4(1):23-30.
96. 杉浦宗敏, 宮下光令, 佐藤一樹, 森田達也, 佐野元彦, 的場元弘, 恒藤暁, 志真泰夫. がん診療連携拠点病院における緩和ケア提供体制と薬剤業務の困難感. *日本緩和医療薬学雑誌.* 2011;4(4):103-9.
97. Akechi T, Miyashita M, Morita T, Okuyama T, Sakamoto M, Sagawa R, Uchitomi Y. Good death in elderly adults with cancer in Japan based on perspectives of the general population. *J Am Geriatr Soc.* 2012;60(2):271-6.
98. Akiyama M, Takebayashi T, Morita T, Miyashita M, Hirai K, Matoba M, Akizuki N, Shirahige Y, Yamagishi A, Eguchi K. Knowledge, beliefs, and concerns about opioids, palliative care, and homecare of advanced cancer patients: a nationwide survey in Japan. *Support Care Cancer.* 2012;20(5):923-31.

99. Choi JE, Miyashita M, Hirai K, Sato K, Morita T, Tsuneto S, Shima Y, Kim BH. Making the Decision for Home Hospice: Perspectives of Bereaved Japanese Families who had Loved Ones in Home Hospice. *Jpn J Clin Oncol.* 2012;42(6):498-505.
100. Deno M, Tashiro M, Miyashita M, Asakage T, Takahashi K, Saito K, Busujima Y, Mori Y, Saito H, Ichikawa Y. The mediating effects of social support and self-efficacy on the relationship between social distress and emotional distress in head and neck cancer outpatients with facial disfigurement. *Psychooncology.* 2012;21(2):144-52.
101. Furukawa F, Tanaka N, Miyashita M, Shikimori H, Kanazawa H. A Protective Mattress Development for Patients with Peripheral Vascular Disease. *人間工学.* 2012;48(4):196-203.
102. Igarashi A, Miyashita M, Morita T, Akizuki N, Akiyama M, Shirahige Y, Eguchi K. A scale for measuring feelings of support and security regarding cancer care in a region of Japan: a potential new endpoint of cancer care. *J Pain Symptom Manage.* 2012;43(2):218-25.
103. Ishii Y, Miyashita M, Sato K, Ozawa T. Family's difficulties in caring for a cancer patient at the end of life at home in Japan. *J Pain Symptom Manage.* 2012;44(4):552-62.
104. Ishii Y, Miyashita M, Sato K, Ozawa T. Family's Difficulty Scale in End-of-Life Home Care: A New Measure of the Family's Difficulties in Caring for Patients with Cancer at the End of Life at Home from Bereaved Family's Perspective. *J Palliat Med.* 2012;15(2):210-5.
105. Ito M, Nakajima S, Fujisawa D, Miyashita M, Kim Y, Shear MK, Ghesquiere A, Wall MM. Brief measure for screening complicated grief: reliability and discriminant validity. *PLoS One.* 2012;7(2):e31209.
106. Morita T, Miyashita M, Yamagishi A, Akizuki N, Kizawa Y, Shirahige Y, Akiyama M, Hirai K, Matoba M, Yamada M, Matsumoto T, Yamaguchi T, Eguchi K. A region-based palliative care intervention trial using the mixed-method approach: Japan OPTIM study. *BMC Palliat Care.* 2012;11(1):2.
107. Nakazawa Y, Miyashita M, Morita T, Misawa T, Tsuneto S, Shima Y. The current status and issues regarding hospital-based specialized palliative care service in Japanese Regional Cancer Centers: a nationwide questionnaire survey. *Jpn J Clin Oncol.* 2012;42(5):432-41.
108. Sato K, Miyashita M, Morita T, Tsuneto S, Shima Y. Family member perspectives of deceased relatives' end-of-life options on admission to a palliative care unit in Japan. *Support Care Cancer.* 2012;20(5):893-900.
109. Shin DW, Choi JE, Miyashita M, Choi JY, Kang J, Baik YJ, Mo HN, Kim YS, Heo DS, Shin HJ. Measuring the Structure and process of end-of-life care of Korea: Validation of Korean version of Care Evaluation Scale (CES). *J Pain Symptom Manage.* 2012;44(4):615-625.
110. Yamagishi A, Morita T, Miyashita M, Ichikawa T, Akizuki N, Shirahige Y, Akiyama M, Eguchi K. Providing palliative care for cancer patients: the views and exposure of community general practitioners and district nurses in Japan. *J Pain Symptom Manage.* 2012;43(1):59-67.
111. Yamagishi A, Morita T, Miyashita M, Igarashi A, Akiyama M, Akizuki N, Shirahige Y, Eguchi K. Pain intensity, quality of life, quality of palliative care, and satisfaction in outpatients with metastatic or recurrent cancer: a Japanese, nationwide, region-based, multicenter survey. *J Pain Symptom Manage.* 2012;43(3):503-14.
112. Yamagishi A, Morita T, Miyashita M, Yoshida S, Akizuki N, Shirahige Y, Akiyama M, Eguchi K. Preferred place of care and place of death of the general public and cancer patients in Japan. *Support Care Cancer.* 2012;20(10):2575-82.
113. 市原香織, 宮下光令, 福田かおり, 茅根義和, 清原恵美, 森田達也, 田村恵子, 葉山有香, 大石ふみ子. 看取りのケアにおける Liverpool Care Pathway 日本語版の意義と導入可能性: 緩和ケア病棟 2 施設におけるパイロットスタディ. *Palliat Care Res.* 2012;7(1):149-62.
114. 大園康文, 石井容子, 宮下光令. 訪問看護師から見た終末期がん患者の在宅療養に関する問題とその解決策. *日本がん看護学会誌.* 2012;26(3):52-60.

115. 木下寛也, 松本禎久, 阿部恵子, 宮下光令, 森田 達也. がん専門病院緩和ケア病棟の運営方針が地域の自宅がん死亡率に及ぼす影響. *Palliat Care Res.* 2012;7(2):348-53.
116. 白髭豊, 野田剛稔, 北條美能留, 後藤慎一, 富安志郎, 出口雅浩, 奥平定之, 安中正和, 平山美香, 吉原律子, 船本太栄子, 五十嵐歩, 宮下光令, 森田達也. OPTIM プロジェクト前後での病院から在宅診療への移行率と病院医師・看護師の在宅の視点の変化. *Palliat Care Res.* 2012;7(2):389-94.
117. 森田達也, 宮下光令, 井上芙蓉子, 佐藤一樹, 五十嵐歩, 五十嵐美幸, 山口拓洋, 橋本修二. 遺族調査にもとづく自宅死亡を希望していると推定されるがん患者数. *Palliat Care Res.* 2012;7(2):403-7.
118. 森田達也, 秋月伸哉, 鈴木聡, 木下寛也, 白髭豊, 宮下光令. 異なる集計方法による地域での専門緩和ケアサービス利用数の比較. *Palliat Care Res.* 2012;7(2):374-81.
119. 森田達也, 野末よし子, 花田芙蓉子, 宮下光令, 鈴木聡, 木下寛也, 白髭豊, 江口研二. 地域対象の緩和ケアプログラムによる医療福祉従事者の自覚する変化: OPTIM-study. *Palliat Care Res* 2012;7(1):121-35.
120. 森田達也, 野末よし子, 宮下光令, 小野宏志, 藤島百合子, 白髭豊, 川越正平. 在宅緩和ケアを担う診療所として在宅特化型診療所とドクターネットは相互に排他的か? *Palliat Care Res.* 2012;7(1):317-22.
121. 山田博英, 小田切拓也, 津村明美, 井村千鶴, 宮下光令, 森田達也. 患者・遺族調査から作成した医療者向け冊子「がん患者さん・ご家族の声」. *Palliat Care Res.* 2012;7(1):342-7.
122. Deno M, Miyashita M, Fujisawa D, Nakajima S, Ito M. The influence of alexithymia to psychological distress according to the seriousness of complicated grief and the time from bereavement in the Japanese general population. *J Affect Disord.* 2013;149(1-3):202-8.
123. Kinoshita S, Miyashita M. Evaluation of end-of-life cancer care in the ICU: perceptions of the bereaved family in Japan. *Am J Hosp Palliat Med.* 2013;30(3):225-30.
124. Kizawa Y, Morita T, Hamano J, Nagaoka H, Miyashita M, Tsuneto S. Specialized Palliative Care Services in Japan: A Nationwide Survey of Resources and Utilization by Patients With Cancer. *Am J Hosp Palliat Care.* 2013;30(6):552-5.
125. Morita T, Miyashita M, Yamagishi A, Akiyama M, Akizuki N, Hirai K, Imura C, Kato M, Kizawa Y, Shirahige Y, Yamaguchi T, Eguchi K. Effects of a programme of interventions on regional comprehensive palliative care for patients with cancer: a mixed-methods study. *Lancet Oncol.* 2013;14(7):638-46.
126. Morita T, Sato K, Miyashita M, Akiyama M, Kato M, Kawagoe S, Kinoshita H, Shirahige Y, Yamakawa S, Yamada M, Eguchi K. Exploring the perceived changes and the reasons why expected outcomes were not obtained in individual levels in a successful regional palliative care intervention trial: an analysis for interpretations. *Support Care Cancer.* 2013;21(12):3393-402.
127. Muta R, Sanjo M, Miyashita M, Wakabayashi R, Ando E, Morita T, Tsuneto S, Shima Y. What bereavement follow-up does family member request in Japanese palliative care units? A qualitative study. *Am J Hosp Palliat Med.* 2013;31(5):485-94.
128. Nakano K, Sato K, Katayama H, Miyashita M. Living with pleasure in daily life at the end of life: Recommended care strategy for cancer patients from the perspective of physicians and nurses. *Palliat Support Care.* 2013;11(5):405-13.
129. Shirado A, Morita T, Akazawa T, Miyashita M, Sato K, Tsuneto S, Shima Y. Both maintaining hope and preparing for death: effects of physicians' and nurses' behaviors from bereaved family members' perspectives. *J Pain Symptom Manage.* 2013;45(5):848-58.
130. Takeuchi M, Yoshizawa T, Kusaka Y, Furusawa Y, Nakamura Y, Atogami F, Niikura H. Detecting subclinical secondary lymphoedema using bioimpedance: A preliminary study. *J Lymphoedema.* 2013;8(2):16-20.

131. 安藤早紀, 原田真里子, Weitzner MA, 久慈瑞希, 清水恵, 佐藤一樹, 宮下光令. Caregiver Quality of Life Index - Cancer (CQOLC) 日本語版の信頼性・妥当性の検証. *Palliat Care Res.* 2013;8(2):286-92.
132. 小野寺麻衣, 熊田真紀子, 大桐規子, 浅野玲子, 小笠原喜美代, 後藤あき子, 柴田弘子, 庄子由美, 仙石美枝子, 山内かず子, 門間典子, 宮下光令. 看護師のがん看護に関する困難感尺度の作成. *Palliat Care Res.* 2013;8(2):240-7.
133. 日下裕子, 吉沢豊予子, 中野弘枝, 鈴木花菜, 千葉美貴, 竹内真帆, 中村康香. リンパ浮腫予防教育プログラムの開発—知識教育に焦点をあてて—. *リンパ浮腫管理の研究と実践.* 2013;1(1):33-41.
134. 坂口幸弘, 宮下光令, 森田達也, 恒藤暁, 志真泰夫. ホスピス・緩和ケア病棟で近親者を亡くした遺族の複雑性悲嘆、抑うつ、希死念慮. *Palliat Care Res.* 2013;8(2):203-10.
135. 坂口幸弘, 宮下光令, 森田達也, 恒藤暁, 志真泰夫. ホスピス・緩和ケア病棟で死亡した患者の遺族における遺族ケアサービスの評価とニーズ. *Palliat Care Res.* 2013;8(2):217-22.
136. 佐藤一樹, 志真泰夫, 羽川瞳, 安部奈津子, 竹内真帆, 宮下光令. 緩和ケア病棟は10年間にどう変わったか: 施設概要と利用状況に見られる変化と平均在棟日数との関連. *Palliat Care Res.* 2013;8(2):264-72.
137. 中野貴美子, 佐藤一樹, 片山はるみ, 宮下光令. 終末期がん患者が「明るさを失わずに過ごす」ための医療者の支援のあり方—緩和ケア病棟の医師・看護師を対象としたエキスパート・インタビュー調査—. *緩和ケア.* 2013;23(3):250-6.
138. 西智弘, 森雅紀, 松本禎久, 佐藤恭子, 上元洵子, 宮本信吾, 三浦智史, 厨芽衣子, 中野貴美子, 佐藤一樹, 下井辰徳, 田上恵太, 江角悠太, 坂井大介, 古川孝広, 森田達也. 緩和ケア医を志す若手医師の教育・研修に関連したニーズ—質的研究の結果から—. *Palliat Care Res.* 2013;8(2):184-91.
139. 宮内貴子, 宮下光令, 山口拓洋. 無作為化クロスオーバー試験による進行期がん患者の倦怠感に対するリフレクソロジーの有用性の検討. *がん看護.* 2013;18(3):395-400.
140. 森田達也, 佐藤一樹, 五十嵐美幸, 宮下光令. 患者・遺族の緩和ケアの質評価・quality of life, 医師・看護師の困難感と施設要因との関連. *緩和ケア.* 2013;23(6):497-501.

【小児看護学分野】

141. 遠藤由美子, 山本三奈, 小林尚美, 藤田愛, 塩飽仁. 思春期にある子どもをもつ中年期女性の心身の健康 アイデンティティおよび女性性受容の特徴. 更年期と加齢のヘルスケア. 2008;7(1):40-48.
142. 佐藤幸子, 塩飽仁, 山本三奈, 藤田愛. 神経症・心身症児の不応行動の分析. *日本看護学研究学会雑誌.* 2008;31(5):63-69.
143. 山本三奈, 佐藤幸子, 塩飽仁. 両親の役割受容. 親役割行動と思春期にある子どもの精神的健康との関連. *小児保健研究.* 2008;67(2):349-356.
144. 高見三奈, 佐藤幸子, 塩飽仁. 親の役割受容と親役割行動が子どもの評価する家族機能と精神的健康に与える影響. *日本看護学研究学会雑誌.* 2009;32(2):55-63.
145. 高見三奈, 佐藤幸子, 塩飽仁. 神経症患児の両親の役割受容と親役割行動の特徴—子どもの精神的健康および家族機能評価との関連—. *日本小児看護学会誌.* 2010;19(1):25-36.
146. 佐藤幸子, 塩飽仁, 遠藤芳子, 佐藤志保. 子どもの心のケアに関する看護師のニーズ調査. *北日本看護学会誌.* 2011;13(2):17-23.
147. 佐藤志保, 佐藤幸子, 塩飽仁. 採血を受ける子どもの非効果的対処行動の関連要因の検討. *日本看護学研究学会雑誌.* 2011;34(4):23-31.
148. 入江亘, 塩飽仁, 鈴木祐子, 和田雪. 小児がん患児の父親が患児とのかかわりに抱く思い—小児がん患児の父親とその他の長期入院を要する患児の父親の比較—. *小児がん看護.* 2012;7:28-38.
149. 白井史, 内田雅代, 梶山祥子, 足立美紀, 小川純子, 塩飽仁, 小原美江, 石川福江. 小児がんの子どもの悪心・嘔吐に関する症状マネジメントにおける看護師のかかわり. *日本小児がん看護学会誌.* 2013;8(1):57-67.
150. 名古屋祐子, 塩飽仁, 鈴木祐子, 井上由紀子, 谷地館千恵. 遺族と医療者への面接から得られた治療が困難な時期にある小児がんの子どもに必要な要素. *日本小児がん看護学会誌.* 2013;8(1):38-49.

151. 名古屋祐子, 塩飽仁, 鈴木祐子, 井上由紀子, 谷地館千恵. 遺族と医療者への面接から得られた治療が困難な時期にある小児がんの子どもを支える家族に必要な要素. 日本小児がん看護学会誌. 2013;8(1): 50-58.
152. 名古屋祐子, 塩飽仁, 鈴木祐子. 看取りの時期にある小児がんの子どもとその親をケアする看護師が抱える葛藤. 日本小児看護学会誌. 2013;22(2):41-47.
153. 名古屋祐子, 塩飽仁, 鈴木祐子. 東日本大震災後に友人関係の破綻を契機として心身の不調を訴えた思春期の子どもへの看護介入報告. 北日本看護学会誌. 2013;16(1):25-31.
154. 名古屋祐子, 葛西香織, 梅津愛歌, 塩飽仁, 鈴木祐子, 富澤弥生. 小児造血器腫瘍で入院治療した経験をもつ子どもが原籍校の友人に対して抱く思い. 小児保健研究. 2013;72(4):564-570.
155. 名古屋祐子, 佐藤咲恵, 塩飽仁, 鈴木祐子. 骨髄移植を受ける子どもに行ったプレパレーション 2 例の検討. 日本小児看護学会誌. 2013;22(1):88-94.

【精神看護学分野】

156. 齋二美子. 中高年女性うつ病患者の退院後の家事と直面した困難. 日本精神保健看護学会誌. 2009;(18)1:28-37.
157. 齋二美子. 中高年女性うつ病患者にとってのパンフレットを活用した個別心理教育の意味. 日本精神看護学会誌. 2010;19(1):94-104.
158. 齋二美子. 精神科熟練看護師が捉えたうつ病患者に対する退院支援を判断するための患者の反応と介入過程. 日本精神保健看護学会誌. 2011;20(1):10-20.
159. 齋二美子. 精神科病院における身体合併症治療の現状と課題 看護の視点から. 精神医療. 2011;63:38-49.
160. Yoshii H, Watanabe Y, Kitamura H, Ling Y, Akazawa K. Social Distance toward schizophrenia among parents of adolescents. *Health*. 2012;4(7):386-91.
161. Yoshii H, Watanabe Y, Kitamura H, Mazumder AH, Akazawa K. Association of social distance toward schizophrenia with help-seeking among mothers of adolescents in Japan. *Health*. 2012;4(12):1346-51.
162. Yoshii H, Watanabe Y, Kitamura H, Nan Z, Akazawa K. Effect of an Education Program on Improving Help-Seeking Among Parents of Junior and Senior High School Students in Japan. *Glob J Health Sci*. 2011;4(1):33-41.
163. Yoshii H, Watanabe Y, Kitamura H, Sakai Y, Akazawa K. Factors Associated With an Absence of Effect of an Education Program for Improving Knowledge of Schizophrenia. *Glob J Health Sci*. 2012;4(4):42-7.
164. 齋藤秀光, 富永美弥, 高松幸生, 伊藤文晃, 井藤佳恵, 山崎尚人, 上埜高志, 島田哲, 田島つかさ, 中保利通, 吉田寿美子, 松岡洋夫. 緩和ケアにおける家族への精神的支援. 精神医学. 2012;54: 419-26.
165. 吉井初美. 職場での精神障害者に対するスティグマ問題. 産業精神保健. 2012;20(2):135-41.
166. Yoshii H, Watanabe Y, Kitamura H, Akazawa K. Schizophrenia knowledge and attitudes toward help-seeking among Japanese fathers and mothers of high school students. *Health*. 2013;5(3A):497-503.
167. Yoshii H, Watanabe Y, Mazumder AH, Kitamura H, Akazawa K. Stigma toward schizophrenia among parents of high school students. *Glob J Health Sci*. 2013;5(6):46-53.
168. Yoshii H. Negative feelings experienced by people with mental disorder in the workplace: a qualitative study. *Health*. 2013;5(9):1360-6.
169. Yoshii H. Qualitative study of stigmatization of mental illness in the Japanese workplace: the experience of mentally disabled people. *Health*. 2013;5(9):1378-85.
170. 松本和紀, 濱家由美子, 光永憲香, 内田知宏, 砂川恵美, 大室則幸, 桂雅宏, 松岡洋夫. サイコーシス早期段階における CBT の活用. 精神神経学雑誌. 2013;115(4):390-398.
171. 吉井初美, 北村信隆, 齋藤秀光, 赤澤宏平. 統合失調症患者の口腔衛生支援: レビュー. 総合病院精神医学. 2013;25:268-76.

【周産期看護学分野】

172. 小山田信子, 高橋みや子. 明治期の宮城県における看護婦の教育制度と身分法の成立過程-縣立宮城病院附属看護婦養成所開校までの背景-. 日本看護歴史学会誌. 2008;21:56-67.
173. 佐藤喜根子, 佐藤祥子. 妊娠期からの継続した心理的支援が周産期女性の不安・抑うつに及ぼす効果. 日本母性衛生. 2010;51:215-25.
174. 金澤悠介, 倉元直樹, 小山田信子, 吉沢豊子. 看護系大学の入試構造に見る高大接続問題. 大学入試研究ジャーナル. 2011;21:49-57.
175. 佐藤喜根子. 東日本大震災が母親のメンタルヘルスに与えた影響. 助産雑誌. 2012;10:858-63.
176. 菊池綾子, 小山田信子, 佐藤喜根子, 佐藤祥子. 第2子誕生後2ヵ月経過した男性の家族に対する意識. 北日本看護学会誌. 2013;16:1-12.

【ウイメンズヘルス看護学分野】

177. 中村康香. 妊娠経過における妊娠の受容を高める看護援助の効果 快適さの体験に焦点を当てた看護介入を行なって. 日本母性看護学会誌. 2008;8:1-8.
178. Nakamura Y. Encouraging positive reactions to pregnancy in first-time mothers. Br J Midwifery. 2009;17:48-53.
179. 中村康香. マタニティダイアリーを妊娠初期から妊娠末期に継続的に使用した効果について. 母性衛生. 2009;50(1):42-8.
180. Nakamura Y. Nursing intervention to enhance acceptance of pregnancy in first-time mothers: Focusing on the comfortable experiences of pregnant women. Jpn J Nurs. 2010;7:29-36.
181. Nakamura Y, Atogami F, Yoshizawa T. Assessment of maternal psychosocial adaptation in pre-labor hospitalized pregnant women in Japan. Nurs Rep. 2011;1(1):35-9.
182. 金澤悠介, 倉元直樹, 小山田信子, 吉沢豊予子. 看護系大学の入試構造に見る高大接続問題. 大学入試研究ジャーナル. 2011;21:49-57.
183. 鳴野理絵, 吉沢豊子, 中村康香, 跡上富美, 今村栄吏子. 現代の更年期女性における体型と QOL・更年期症状の関連. 母性衛生. 2011;52(2):263-9.
184. 武石陽子, 中村康香, 跡上富美, 吉沢豊予子. 妊娠期の快適性に関する尺度の開発. 日本母性看護学会誌. 2011;11(1):11-8.
185. 松浦志保, 吉沢豊予子. Bed Rest 治療を余儀なくされた妊婦の心理的状況の記述 入院から入院後2~3週間まで. 母性衛生. 2011;51(4):647-54.
186. Nakamura Y, Takeishi Y, Atogami F, Yoshizawa T. Assessment of the QOL in Japanese pregnant women: comparison among hospitalized, outpatient and non-pregnant women. Nurs Health Sci. 2012;14:182-8.
187. 中村康香, 跡上富美, 竹内真帆, 吉沢豊予子. 切迫早産妊婦の入院中における妊娠の受けとめ. 母性衛生. 2012;53(2):313-21.
188. 中村康香. 切迫早産で入院中の妊婦に必要な看護支援とは-入院生活の実態を知ってケアに生かす. 助産雑誌. 2012;66:222-8.
189. Takeuchi M, Yoshizawa T, Kusaka Y, Furusawa Y, Nakamura Y, Atogami F, Niikura H. Detecting subclinical secondary lymphoedema using bioimpedance: A preliminary study. J Lymphoedema. 2013;8(2):16-20.
190. 今村麻乃, 中村康香, 跡上富美, 吉沢豊予子. 入院している切迫早産妊婦の肯定的な体験について. 母性衛生. 2013;54(2):346-53.
191. 日下裕子, 吉沢豊予子, 中野弘枝, 鈴木花菜, 千葉美貴, 竹内真帆, 中村康香. リンパ浮腫予防教育プログラムの開発-知識教育に焦点をあてて-. リンパ浮腫管理の研究と実践. 2013;1(1):33-41.

7-2. 原著論文・総説（査読なし）、紀要、解説

【看護アセスメント学分野】

1. 千葉春香, 丸山良子. 文献からみた出生体重と血圧の関係. 東北大学医学部保健学科紀要. 2010;19(2):81-93.
2. 菅野恵美, 館正弘. 皮膚の構造と機能. 理学療法. 2013;30(4):387-93.
3. 菅野恵美, 館正弘. 褥瘡の部位・状態による創傷被覆材の選び方と使い分け. 薬局. 2013;64(12):106-12.

【看護教育・管理学分野】

4. Asakura K. Differing levels of autonomy between Japanese and non-Japanese nurses in Japan and their effects on non-Japanese nurse's professionalism in the workplace. Research Papers of International Workshop: Transnational Care Studies. 2008;42-45.
5. 朝倉京子. 佐藤典子著『看護職の社会学』（書評）. 保健医療社会学論集. 2008;18(2):113-4.
6. 渡邊生恵, 柏倉栄子, 杉山敏子. 入院患者による療養環境の評価に関する定性的調査. 東北大学医学部保健学科紀要. 2008;17(1):37-47.
7. 朝倉京子, 朝倉隆司, 平野裕子, 兵藤智佳. 日比間の経済連携協定（Economic Partnership Agreement; EPA）による外国人看護師受け入れをめぐる諸問題. 東北大学医学部保健学科紀要. 2009;18(2):67-74.
8. 朝倉京子. 看護科学の現在と展望—ジェンダーの視座から—東北医学雑誌. 2009;121(2):149-52.
9. 朝倉京子. 上野千鶴子さんに質問をよせて. 看護教育. 2010;51(15):458.
10. 朝倉京子. 男性看護者の“サバイバル”論—ジェンダーの視点から考察する—. 看護教育. 2011;52(4):285-89.
11. 朝倉京子. 男性看護師はどうやって生き残るのか. クレリイェール. 2012;627:1-2.
12. 朝倉京子. APAのエッセンスを押さえた日本語論文執筆マニュアル（書評：APAに学ぶ看護系論文執筆のルール）. 看護教育. 2013;54(4):305.
13. 朝倉京子. 日本の農村地域における男性看護師の生存方略. 東北医学会誌. 2013;125:166-7.
14. 富永真己, 朝倉隆司, 朝倉京子. 新卒看護師の職業準備性の測定ツール「レディネス尺度」の信頼性と妥当性の検討. 兵庫医療大学紀要. 2013;1(1):27-33.

【老年・在宅看護学分野】

15. 小野寺紘平, 齋藤美華. 高齢男性の介護予防事業への参加のきっかけと自主的な地域活動への継続参加の要因に関する研究. 東北大学医学部保健学科紀要. 2008;17(2):107-16.
16. 斉藤旭代, 水沼久実, 森鍵祐子, 齋藤美華. 新興住宅地域の後期高齢女性が住民主体による介護予防事業に参加することの意味. 東北大学医学部保健学科紀要. 2008;17(2):117-26.
17. 齋藤美華, 下山田鮎美, 瀬川香子, 芳賀博. 農村積雪地域において閉じこもり予防事業を展開する保健師の行為およびその意味づけ. 東北大学医学部保健学科紀要. 2008;17(1):49-58.
18. 齋藤美華, 森鍵祐子, 小野あつ子, 川原礼子. 高齢透析患者の日常生活の充実感と自己効力感および透析コントロール状況に関する研究. 東北大学医学部保健学科紀要. 2008;17(1):29-36.
19. 齋藤美華. 農村文化に基づく介護予防事業に関する民族誌学的研究. 平成18年度～平成19年度科学研究費補助金（若手研究（B））研究成果報告書. 2008
20. 森鍵祐子, 齋藤美華, 川原礼子. 看護学生が高齢者と生活するときに気をつけたいこと—テキスト解析による自由記述の分析—. 東北大学医学部保健学科紀要. 2008;17(1):15-22.
21. 川原礼子, 齋藤美華, 森鍵祐子. 訪問看護師における残存機能評価の視点・方法について. 東北大学医学部保健学科紀要. 2009;18(1):31-6.
22. 川原礼子. その人らしく人生を終えることを支える—トータルケアの観点から—. 北日本看護学会誌. 2010;12(2):1-4.
23. 川原礼子. 看取りの思想. 家族看護. 2010;8(1):136.
24. 川原礼子. 市町村新型インフルエンザ対策行動計画策定の手引き試案Ⅰ. 平成21年度厚生労働科学研究費補助金（特別研究事業）. 2010;25:6.

25. 齋藤美華, 川原礼子. アセスメントがよくわかる看護過程 認知症患者の看護ケア. ナーシングカレッジ. 2010;14(9):59-77.
26. 川原礼子. 災害看護 それはこれまでの人生を問われるもの—東日本大震災の復興および被災者支援活動から—. 看護教育. 2010;52(7):540-50.
27. 齋藤美華. 定年退職後の高齢男性ボランティアの活動に関する記述的研究. 平成 21 年度～平成 22 (23) 年度科学研究費補助金 (若手研究 (B)) 研究成果報告書. 2011
28. 門間典子, 後藤えり子, 石井幹子, 川原礼子. 日本大震災における大学病院災害看護 —とっさに行われた看護行為に焦点をあてて—. 看護実践の科学. 2011;36(12):37-42.
29. 石井幹子, 後藤えり子, 門間典子, 川原礼子. 東日本大震災における東北大学病院の災害看護 看護管理室の活動報告. 看護管理. 2012;22(3):211-6.
30. 石井幹子, 後藤えり子, 門間典子, 川原礼子. 東日本大震災における東北大学病院の災害看護シフト調整とケアマネジメント. 看護管理. 2012;2(3):223-7.
31. 齋藤美華, 大槻久美, 川原礼子. 訪問看護師の裁量拡大に対する当該職種の見解の内容. 東北大学医学部保健学科紀要. 2012;21(1):33-39.
32. 仙石美枝子, 五十嵐ひとみ, 町田雄一郎, 石井幹子, 門間典子, 川原礼子. 東日本大震災における東北大学病院地域医療連携センターの活動. 看護実践の科学. 2012;37(6):46-51
33. 高橋直子, 太田亮一, 川原礼子. 東日本大震災における災害看護・介護活動報告 —ある介護老健施設の入所者たちは穏やかであった—. 看護実践の科学. 2012;37(9):61-8.
34. 坂川奈央. 米国高齢者施設の査察報告第 1 報—米国高齢者施設のケアの質の管理システムにみる我が国の課題—. 東北大学医学部保健学科紀要. 2013;22(2):51-60.

【地域ケアシステム看護学分野】

35. 齋藤美華, 下山田鮎美, 瀬川香子, 芳賀博. 農村積雪地域において閉じこもり予防事業を展開する保健師の行為およびその意味づけ. 東北大学医学部保健学科紀要. 2008;17(1):23-30.
36. 末永カツ子. 今, 求められる保健師の行う保健指導とは. 公衆衛生情報みやぎ. 2008;(376):16-8.
37. 瀬川香子. 効果的な活動に必要な行政保健師を確保するために: 地域・住民に根ざした活動が保健師増員を後押しする. 公衆衛生情報. 2008;38(11):49.
38. 末永カツ子. 保健師の自主的な研究会の意義について考える～地域交流会に参加した学生の理解学び～. 公衆衛生情報みやぎ. 2009;(388):21-3.
39. 末永カツ子, 平野かよ子, 瀬川香子, 鈴木和広, 栗本鮎美. 公共的活動における協働の推進要件に関する検討. 東北大学医学部保健学科紀要. 2010;19(1):41-52.
40. 末永カツ子. 【ライフステージを通じた支援】 発達障害のある人の自立をめざす地域ケアシステムの構築に向けて. LD 研究. 2010;19(2):113-20.
41. 末永カツ子. アスベスト問題への取組から学ぶ. 公衆衛生情報みやぎ. 2010;(398):28-30.
42. 瀬川香子, 末永カツ子, 平野かよ子, 鈴木和広, 栗本鮎美. 公共的活動における公共空間の意味に関する検討. 東北大学医学部保健学科紀要. 2010;19(1):31-40.
43. 高橋香子, 末永カツ子, 栗本鮎美, 上埜高志. 住民の主体的な健康づくり活動の推進要件に関する検討. 東北大学医学部保健学科紀要. 2010;19(2):73.
44. 平野かよ子, 末永カツ子, 瀬川香子, 鈴木和広, 栗本鮎美. 保健と福祉領域の専門家の公共的活動への転換過程に関する検討. 東北大学医学部保健学科紀要. 2010;19(1):23-30.
45. 平野かよ子, 末永カツ子, 鳩野洋子, 中板育美, 反町吉秀, 妹尾栄一. 【弱者への暴力にどう挑む?】 保健師等の地域保健従事者への住民からの暴力. 保健師ジャーナル. 2010;66(10):903-8.
46. 亀岡淳一, 塩飽仁, 町田好男, 三浦昌人, 高橋香子, 仲田栄子, 石井恵子, 宮下光令, 石井誠一, 金塚完, 吉沢豊子. 東北大学保健学科の授業改善への取り組み 学生による授業評価と Faculty Development の実施を中心として. 東北大学医学部保健学科紀要. 2011;20(2):69-80.
47. 佐々木久美子, 末永カツ子, 藪田歩. 産業看護職における CSR(企業の社会的責任)の認識プロセス. 東北大学医学部保健学科紀要. 2011;20(1):7-23.
48. 高橋香子, 末永カツ子, 栗本鮎美, 上埜高志. 健康づくりリーダーの主体的健康行動に関する検討. 東北大学医学部保健学科紀要. 2011;20(1):17-24.

49. 山口佳子, 平野かよ子, 齋藤真理子, 中板育美, 田中百合子, 奥山則子, 末永カツ子, 塚原洋子, 大熊八重, 俵麻紀. 保健師の活動方法を継承するための視聴覚教材(DVD)ができました. 保健師ジャーナル. 2011;67(9):806-9.
50. 荒川美穂子, 田口敦子. やりがいと魅力のある健康推進員活動をめざしてー保健所と市の協働による推進員支援検討会の取り組みー. 公衆衛生情報. 2012;42(5):28-31.
51. 伊藤加奈子, 末永カツ子. 保健師が参画する実践コミュニティの意義に関する一考察. 東北大学医学部保健学科紀要. 2012;21(1):41-9.
52. 村嶋幸代, 田口敦子. 地域包括ケアシステムの構築に向けて: 看護がすすめる地域包括ケア. 保健の科学. 2012;54(11):760-5.
53. 佐藤幸子, 末永カツ子, 鈴木昌子, 菅原恵理子. 【発達障害児支援の「みる」「つなぐ」「動かす」】 発達障害児者支援における「みる」「つなぐ」「動かす」 仙台市における取り組みから学んだこと. 保健師ジャーナル. 2013;69(12):962-9.
54. 真溪淳子, 末永カツ子, 高橋香子, 今野勇子, 佐々木久美子, 佐々木秀美, 佐藤幸子, 高橋いく子, 水沼一子. アクションラーニングを用いた保健師のリーダーシップ開発研修に関する考察. 東北大学医学部保健学科紀要. 2013;22(1):25-33.

【地域保健学分野】

55. 大内憲明, 河合賢朗, 南優子. マンモグラフィ検診の国際比較. 乳癌の臨床. 2008;23(3):173-81.
56. 河合賢朗, 角川陽一郎, 南優子. ハイリスク乳癌に対する乳癌検診をどうするか、疫学的にみた乳がん罹患リスク. 日乳癌検診学会誌. 2013;22(2):203-211.

【成人看護学分野】

57. 菊地史子, 伊藤美智子, 中條庸子, 嶋育子, 赤間和子, 石上節子. 緩和ケアセンターに従事する看護師のケアに対する自己評価の検討ー現任教育の課題に焦点を当ててー. 東北大学医学部保健学科紀要. 2011;20(1):33-44.

【がん看護学分野】

58. 阿部咲子, 佐藤富美子, 長谷川直人. 壮年期 2 型糖尿病患者の外出産業利用時における自己管理行動の実態と影響要因. 日本看護協会第 38 回日本看護学会論文集 成人看護Ⅱ. 2008;39:394-6.
59. 叶谷由佳, 佐藤幸子, 小林淳子, 佐藤和佳子, 布施淳子, 田中幸子, 古瀬みどり, 細谷たき子, 佐藤富美子ほか. 卒業試験を国試モードに一学科ぐるみの取り組みと教員にとっての意義. 看護教育. 2008;49(8):663-667.
60. 高橋由香利, 佐藤富美子, 長谷川直人. 2 型糖尿病患者の通院中断及び再開に至った要因の検討. 日本看護協会第 38 回日本看護学会論文集 成人看護Ⅱ. 2008;39:145-7.
61. 渡邊綾子, 佐藤富美子, 長谷川直人. 胃がん術後患者が家族・医療者から受けているソーシャル・サポートと QOL の関連. 日本看護協会第 38 回日本看護学会論文集 成人看護Ⅱ. 2008;39:188-90.
62. 塩野悦子, 吉田俊子, 丸山真紀子, 北沢亜子, 大沼朱美, 佐藤菜保子, 渡邊聡子, 山本あい子. 看護職を対象とした災害への備え教育実施後の継続調査. 宮城大学看護学部紀要. 2009;12:9-19
63. 佐藤富美子. がんサバイバーの QOL を高める看護介入. 東北医誌. 2010;122:151-3.
64. 長谷川直人, 佐藤和佳子, 佐藤富美子, 船山恵美, 大島扶美, 今野日出子, 佐藤千鶴. 居宅要支援高齢者の健康状態と健康管理の特徴ー前期・後期高齢者別の検討. 厚生指針. 2010;57(2):35-42.
65. 長谷川直人, 佐藤富美子, 佐藤大介. 「慢性病者の生活を理解する教育方法」による学生の学び. 東北大学医学部保健学科紀要. 2011;20(1):25-32.
66. 佐藤富美子. 看護大学教員・看護師を対象としたフィジカルアセスメントの効果. 東北大学医学部保健学科紀要. 2012;21(1):25-32.
67. 佐藤富美子. 乳がん術後上肢機能障害の予防改善に向けた介入プログラムの作成. 東北大学医学部保健学科紀要. 2012;21(2):65-75.

【緩和ケア看護学分野】 (2009 年 10 月以降)

68. 宮下光令. がん診療連携拠点病院における緩和ケアの提供体制の調査と緩和ケアの質の評価に関する研究について. 緩和医療学. 2009;11(4):356-66.

69. 宮下光令, 佐藤一樹, 清水恵. 緩和ケアの質の評価. 東北大学医学部保健学科紀要. 2010;19(2):63-71.
70. 宮下光令, 清水恵. LCP 日本語版の概要と使用方法. 臨床看護. 2010;36(14):1829-37.
71. 宮下光令. 緩和ケアの質の評価. 東北医誌. 2010;122:167-9.
72. 宮下光令. 特集にあたって -再考: 看取りのケア: リバプール・ケア・パスウェイを用いた看取りのケアの質向上. 臨床看護. 2010;36(14):1812-4.
73. 宮下光令. 明日の看護に生かすデスカンファレンス 第12回 デスカンファレンスのまとめ: 連載を振り返って. 看護技術. 2010;56(14):64-70.
74. 亀岡淳一, 塩飽仁, 町田好男, 三浦昌人, 高橋香子, 仲田栄子, 石井恵子, 宮下光令, 石井誠一, 金塚完, 吉沢豊子. 東北大学保健学科の授業改善への取り組み -学生による授業評価と Faculty Development の実施を中心として-. 東北大学医学部保健学科紀要. 2011;20(2):69-80.
75. 清水恵, 宮下光令. 終末期がん患者の家族のメンタルヘルス. 腫瘍内科. 2011;8(1):24-32.
76. 庄村雅子, 宮下光令, 佐藤一樹, 布施恵子. がん看護における緩和ケアの発展を担う鍵 JCSN-SIG ホスピスケアにおける実践・教育・研究活動の広がり. 緩和ケア. 2011;21(4):450-1.
77. 宮下光令. 看取りのケアにおけるクリニカルパスの活用. 消化器外科ナーシング 2011;16(5):421.
78. 菅野喜久子. 【多職種協働で推進する医療の力 先進的かつ効果を上げアウトカム評価がなされている事例より】各専門職が高い役割意識をもちチームの存在感を高める 院内における緩和ケアチームの役割と専従看護師の活躍. 看護管理. 2012;22(6):456-61.
79. 佐藤一樹. 日本ホスピス緩和ケア協会の調査データからみた緩和ケア病棟の現状. (編) 日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団「ホスピス・緩和ケア白書」編集委員会. ホスピス緩和ケア白書 2012. 2012;10-7.
80. 宮下光令. がん診療連携拠点病院の緩和ケアの動向と現状. (編) 日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団「ホスピス・緩和ケア白書」編集委員会. ホスピス緩和ケア白書 2012. 2012;30-9.
81. 宮下光令, 柴信, 下川 宏. 循環器看護の最前線を知る (第9回) 末期心不全の緩和ケアを考える. Heart. 2012;2(5):501-11.
82. 宮下光令. 【いまさら聞けない臨床試験の読み方、活かし方】QOL 評価 QOL はどう評価されているの? 薬事. 2012;54(13):2159-65.
83. 菅野喜久子. 【根拠に基づいた看取りのケア】臨死期にある患者・家族ケア. がん看護. 2013;18(7):679-83.
84. 菅野雄介, 茅根義和, 池永昌之, 宮下光令. 英国での看取りのケアのクリニカルパス Liverpool Care Pathway の動向. 緩和ケア. 2013;23(6):464-7.
85. 菅野雄介. 【根拠に基づいた看取りのケア】看取りのケアのクリニカルパス. がん看護. 2013;18(7):684-8.
86. 佐藤一樹. 【根拠に基づいた看取りのケア】看取りの時期での治療・ケアの見直し. がん看護. 2013;18(7):711-4.
87. 佐藤一樹. 遺族の声を臨床に生かす J-HOPE 研究 (多施設遺族調査) からの学び J-HOPE 研究からのメッセージ. がん看護. 2013;18(5):553-7.
88. 佐藤一樹, 宮下光令, 森田達也. 緩和ケア普及のための地域プロジェクト(1) 緩和ケア普及のための地域プロジェクトで使用した評価尺度. 保健の科学. 2013;55(4):230-5.
89. 清水恵, 白土明美, 牟田理恵子, 吉田沙蘭. 遺族の声を臨床に生かす J-HOPE 研究(多施設遺族調査)からの学び (第3回) 先々について話し合う. がん看護. 2013;18(7):738-43.
90. 清水恵. 【根拠に基づいた看取りのケア】看取り期の家族ケア. がん看護. 2013;18(7):715-7.
91. 竹内真帆. 【根拠に基づいた看取りのケア】グリーフケア. がん看護. 2013;18(7):727-9.
92. 宮下光令, 今井涼生, 渡邊奏子. データでみる日本の緩和ケアの現状. ホスピス緩和ケア白書 2013. 2013;54-69.
93. 宮下光令, 菅野雄介. 【根拠に基づいた看取りのケア】遺族によるわが国のがん患者の終末期ケア・看取りケアの質の評価. がん看護. 2013;18(7):675-8.

【小児看護学分野】

94. 井上由紀子, 塩飽仁. 小児がんにおける子どもと家族への看護ケアの継続的支援. 小児看護. 2008;31(11):1498-504.
95. 塩飽仁, 井上由紀子. 小児看護外来におけるきょうだい支援. 小児看護. 2009;32(10):1304-8.
96. 塩飽仁. 学校教育につなげたい病気の子どもの心理・社会支援. 育療. 2009;43:19-34.
97. 井上由紀子. 小児看護外来. 臨牀看護. 2011;37(12):1699-704.
98. 亀岡淳一, 塩飽仁, 町田好男, 三浦昌人, 高橋香子, 仲田栄子, 石井恵子, 宮下光令, 石井誠一, 金塚完, 吉沢豊子. 東北大学保健学科の授業改善への取り組み—学生による授業評価と Faculty Development の実施を中心として—. 東北大学医学部保健学科紀要. 2011;20(2):69-80.
99. 塩飽仁. 個人として看護師としての体験と想い. 心と社会. 2011;42(3):80-84.
100. 塩飽仁. 子どもの患者の自立. ナーシング・トゥデイ. 2011;26(3):2-3.
101. 井上由紀子. NICUにおける子どもと家族の倫理的課題と支援. 小児看護. 2012;35(8):1008-14.
102. 井上由紀子, 塩飽仁. 白血病の再発時のケア. 小児看護臨時増刊号. 2013;36(8):1126-33.
103. 塩飽仁. 企画編集 ; 特集子どもの白血病—最新の知識と基本的ケア—. 小児看護臨時増刊号. 2013;36(8).
104. 塩飽仁. 小児看護外来における看護教員のケア活動. 小児看護. 2013;36(2):197-203.

【精神看護学分野】

105. 齋二美子. 中高年女性うつ病患者が発症時に置かれた状況と対象者自身の認識. 日本看護学会 論文集 : 地域看護. 2009;39:143-5.
106. 齋藤真紀, 齋二美子. デイケア通所している統合失調症患者の服薬に対する認識と行動. 日本看護学会論文集: 精神看護. 2011;41:92-5.
107. 山口紗穂, 上埜高志, 齋藤秀光, 佐藤喜根子, 菊地紗耶, 齋二美子, 加藤道代, 明城光三, 上原茂樹, 小野寺弘. 妊産褥婦の心理社会的状態に関する研究—宮城県内の助産師外来利用者を対象にして—. 東北大学医学部保健学科紀要. 2011;20:81-9.
108. 齋藤秀光, 菊地紗耶, 松岡洋夫, 上埜高志, 佐藤喜根子. 助産師外来での支援. 精神科治療学. 2013;28:715-20.
109. 松本和紀, 濱家由美子, 光永憲香, 内田知宏, 砂川恵美, 大室則幸, 桂雅宏, 松岡洋夫. 【統合失調症の認知行動療法(CBTp)-わが国での現状と今後の展望-】サイコーシス早期段階における CBT の活用. 精神神経学雑誌. 2013;115(4):390-8.
110. 吉井初美, 光永憲香, 齋藤秀光. 我が国の初発統合失調症患者の母親に関する研究動向と支援課題. 東北大学医学部保健学科紀要. 2013;22(1):1-6.

【周産期看護学分野】

111. 佐藤喜根子. 平成 19 年度助産師確保モデル事業報告. 2008;1-132.
112. 金澤悠介, 倉元直樹, 小山田信子, 吉沢豊予子. 看護系大学の量的拡大に伴う大学入試設計の問題. 東北大学高等教育開発推進センター紀要. 2009;5:15.
113. 佐藤喜根子. なるほど健康雑学: 「妊婦の健康管理」河北新報全 3 回. 2009 June-July.
114. 佐藤喜根子. 平成 20 年度助産師確保モデル事業報告. 2009;1-130.
115. 佐藤喜根子. 平成 21 年度助産師確保モデル事業報告. 2010;1-212.
116. 倉元直樹, 小山田信子, 吉沢豊子. 看護系大学学生の進路選択と履修経験に関する予備調査. 東北大学高等教育センター紀要. 2011;7:69.
117. 佐藤喜根子. 平成 22 年度助産師確保モデル事業報告. 2011;1- 27.
118. 山口紗穂, 上埜高志, 齋藤秀光, 佐藤喜根子, 菊地紗耶, 齋二美子, 加藤道代, 明城光三, 上原茂樹, 小野寺弘. 妊産褥婦の心理社会的状態に関する研究—宮城県内の助産師外来利用者を対象にして—. 東北大学医学部保健学科紀要. 2011;20:81-9.
119. 倉元直樹, 小山田信子, 吉沢豊子. 看護系大学生の進路選択と履修経験に関する予備調査. 東北大学高等教育開発推進センター紀要. 2012;7:69-76.
120. 佐藤喜根子. 東日本大震災が母親のメンタルヘルスに与えた影響. 厚労省 “次世代育成基盤研究” 「震災時の妊婦・保健的課題に関する研究」報告. 2013;39-46.

【ウイメンズヘルス看護学分野】

121. 中村康香. 妊娠経過における妊娠の受容を高める看護援助 快適さの体験に焦点を当てた看護介入の効果からみて. 東北大学医学部保健学科紀要. 2008;17:83-4.
122. 金澤悠介, 倉元直樹, 小山田信子, 吉沢豊予子. 看護系大学の量的拡大に伴う大学入試設計の問題ー実情把握のための基礎分析ー. 東北大学高等教育開発推進センター紀要. 2010;5:15-27.
123. 跡上富美. 妊娠先行婚女性の家族形成過程の特徴. 東北大学医学部保健学科紀要. 2011;20(1):45-54.
124. 亀岡淳一, 塩飽仁, 町田好男, 三浦昌人, 高橋香子, 仲田栄子, 石井恵子, 宮下光令, 石井誠一, 金塚完, 吉沢豊子. 東北大学保健学科の授業改善への取り組み・学生による授業評価と Faculty Development の実施を中心として. 東北大学医学部保健学科紀要. 2011;20(2):69-80.

7-3. 著書

【看護アセスメント学分野】

1. 齋野幸子, 菅野恵美, 松田友美 (訳). In: 渡辺皓, 菊地憲明, 館正弘 (監訳). 創傷管理の必須知識. 東京: エルゼビア・ジャパン社; 2008.
2. 大久保暢子, 菱沼典子, 縄秀志, 丸山良子, 山本真千子, 深井喜代子, et al. In: 沼典子 (編). ケーススタディ看護形態機能学 臨床実践と人体の構造・機能・病態の知識をつなぐ. 菱東京: 南江堂; 2010.
3. 菅野恵美, 館正弘. In: 溝上祐子 (編). 創傷ケアの基礎知識と実践. 大阪: メディカ出版; 2011.
4. 菅野恵美, 館正弘. In: 真田弘美, 大浦紀彦, 溝上祐子, 市岡滋 (編). ナースのためのアドバンスド創傷ケア. 東京: 照林社; 2012.
5. 菅野恵美, 館正弘. In: 市岡滋 (編). 創傷のすべて. 東京: 克誠堂出版; 2012.

【看護教育・管理学分野】

6. 佐藤みほ. 第 8 章 高校生の SOC と幼い頃の家族の習慣. In: 山崎喜比古・戸ヶ里泰典 (編). 思春期のストレス対処能力 SOC. 東京: 有信堂; 2011. p. 137-51.

【老年・在宅看護学分野】

7. 川原礼子, 山田智恵理 (監訳). 愛はあなたの手の中にーナースが贈るこころのチキンスープー. 東京: 看護の科学社; 2008.
8. 川原礼子 (訳). In: 山田智恵理 (監訳). 看護の重要コンセプト 20 看護分野における概念分析の試み. 東京: エルゼビア・ジャパン社; 2008. p. 91-122, 155-71, 209-24, 285-98.
9. 川原礼子. バリデーション療法・その他. In: 日本臨床増刊号 認知症学 (下) その解明と治療の最新知見. 大阪: 日本臨床社; 2011. p. 136-9.

【地域ケアシステム看護学分野】

10. 末永カツ子. 福祉関係機関とそのシステム ①発達障害者支援センターの設置と役割. In: 宮本信也, 石塚謙二, 西牧雅義他 (監修). 特別支援教育の基礎-確かな支援のできる教師・保育士になるために. 東京: 東京書籍; 2009. p. 276-80.
11. 末永カツ子, 平野かよ子. 地域保健管理の諸相. In: 日本看護協会 (監修). 第 2 版 新版 保健師業務要覧. 東京: 日本看護協会出版会; 2010. p. 92-9.
12. 末永カツ子. 活動を支える概念: 公共性. In: 中西睦子 (監修). TACS シリーズ 10 実践地域看護学. 東京: 建帛社; 2010. p. 61-4.
13. 末永カツ子. 地域看護管理者に求められるリーダーシップ. In: 日本看護協会 (監修). 第 2 版 新版 保健師業務要覧. 東京: 日本看護協会出版会; 2010. p. 100-3.
14. 平野かよ子, 中板育美, 鳩野洋子, 末永カツ子, 妹尾栄一, 反町吉秀. 地域保健福祉領域において住民から受ける「暴力防止のためのマニュアル」. 保健師等の地域保健従事者が住民から受ける暴力等の危機管理のあり方に関する研究班. 2011.

15. 末永カツ子. 障害者と福祉. 増田雅暢, 島田美喜 (編) ナーシング・グラフィカ⑨ 健康支援と社会保障社会福祉と社会保障 (第2版第4刷). 大阪: メディカ出版; 2012. p. 90-106.
16. 永田智子, 田口敦子, 栗原雄樹. In: 一般社団法人 全国訪問看護事業協会 (監修). 地域でチャレンジするすべてのナースへ 看護の事業所解説ガイド Q&A. 東京: 日本看護協会出版会; 2012.

【がん看護学分野】

17. 佐藤富美子. 医療機関と医療従事者の職務の機能と役割. In: 清水英佑, 佐藤富美子, 福本正勝 (編). 社会保障と公衆衛生. 東京: 医学評論社; 2008. p. 244-64.
18. 佐藤富美子. 頭頸部のアセスメント、眼のアセスメント、乳房のアセスメント. In: 小野田千枝子 (監修). 高橋照子, 芳賀佐和子, 佐藤富美子 (編). 実践! フィジカル・アセスメントー看護者としての基礎技術 改訂第3版. 東京: 金原出版; 2008. p. 35-61, 94-100.
19. 佐藤富美子. 乳がん患者のアセスメントと看護. In: 黒田裕子 (編). 成人看護学. 東京: 医学書院; 2009. p. 482-9.
20. 佐藤富美子. 生殖系機能障害のある患者の看護・乳がん患者の看護・前立腺がん患者の看護・子宮がん患者の看護. In: 黒田裕子 (編). 成人看護学第2版. 東京: 医学書院; 2013. p. 508-29.

【緩和ケア看護学分野】(2009年10月以降)

21. 宮下光令. QOL 尺度. In: 内富庸介, 小川朝生 (編). 精神腫瘍学. 東京: 医学書院; 2011. p. 215-26.
22. 宮下光令. 緩和ケアにおける研究課題. In: 梅田恵, 射場典子 (編). 看護学テキスト NICE 緩和ケア. 東京: 南江堂; 2011. p. 259-62.
23. 宮下光令. がん治療への緩和ケアの併用で生存期間が延長するのか?. In: 道又元裕, ed. ケアの根拠 第2版 看護の疑問に答える 180のエビデンス. 東京: 日本看護協会出版会; 2012. p. 118.
24. 佐藤一樹. 緩和ケアと生命倫理. In: 宮下光令 (編). ナーシング・グラフィカ 成人看護学7 緩和ケア. 大阪: メディカ出版; 2013. p. 242-55.
25. 佐藤一樹. 臨死期のケア. In: 宮下光令 (編). ナーシング・グラフィカ 成人看護学7 緩和ケア. 大阪: メディカ出版; 2013. p. 206-27.
26. 清水恵. 社会的ケア. In: 宮下光令 (編). ナーシング・グラフィカ 成人看護学7 緩和ケア. 大阪: メディカ出版; 2013. p. 146-55.
27. 宮下光令 (編). ナーシング・グラフィカ 成人看護学7 緩和ケア. 東京: メディカ出版; 2013. 286p.
28. 宮下光令, 清水陽一, 佐藤一樹. 身体症状とその治療・看護. In: 宮下光令 (編). ナーシング・グラフィカ 成人看護学7 緩和ケア. 大阪: メディカ出版; 2013. p. 44-125.
29. 宮下光令, 中保利通. 緩和ケア. In: 吉川史隆, 倉智博久, 平松祐司. 産科婦人科疾患最新の治療 2013-2015. 東京: 南江堂; 2013. p. 263-4.

【小児看護学分野】

30. 塩飽仁. 実践に必要な倫理的配慮と QOL. In: 朝倉次男 (監修). 子どもを理解する～「こころ」「からだ」「行動」へのアプローチ～. 東京: へるす出版; 2008. p. 5-14
31. 塩飽仁ほか. 第8章トータルケア心理面へのケア「総論」「時期別ケア; 診断時の心理と看護, 再発時の支援」, 特別な配慮が必要な問題「ボディイメージの変化, 小児がんのサイコオンコロジー」. In: 丸光恵, 石田也寸志 (監修). ココからはじめる小児がん看護. 東京: へるす出版; 2009. p. 250-74
32. 塩飽仁, 井上由紀子. 精神疾患と看護「看護総論」「疾患をもった小児の看護」. In: 奈良間美保, 丸光恵 (編). 系統看護学講座専門 23 小児看護学 2 小児臨床看護各論. 東京: 医学書院; 2011. p. 460-73.
33. 塩飽仁. 子どもたちが「日常」を取り戻すための支援を. In: 日本看護協会出版会編集部編. ルポ・そのとき看護はナース発東日本大震災レポート. 東京: 日本看護協会出版会; 2011. p. 536-9.

【精神看護学分野】

34. 斎藤秀光. てんかん. In: 石井厚 (監修). 新版精神保健第2版. 東京: 医学出版社; 2010. p. 91-7.
35. 斎藤秀光. てんかん. In: 精神保健福祉白書編集委員会 (編). 精神保健福祉白書 2011 年度版. 東京: 中央法規出版株式会社; 2010. p.151.

36. 斎藤秀光. てんかん. In: 精神保健福祉白書編集委員会 (編). 精神保健福祉白書 2012 年度版. 東京: 中央法規出版株式会社; 2011. p. 153.

【周産期看護学分野】

37. 佐藤喜根子. 周産期のメンタルヘルスケア. In: 吉沢豊子 (編著). 周産期看護学アップデート. 東京: 中央法規出版; 2008. p. 228-33.
38. 高橋みや子, 小山田信子. お産の歴史. In: 山本あい子 (責任編集). 助産師基礎教育テキスト. 東京: 日本看護協会出版会; 2009. p. 118-41.
39. 小山田信子. 助産師の新しい仕事 - 性教育とのかかわり -. In: 吉沢豊予子 (編). 周産期看護学アップデート. 東京: 中央法規; 2008. p.256-61.
40. 佐藤喜根子. 保護者の特性に応じた育児支援. In: 大日向雅美 (編). 臨床発達心理学②育児のなかでの臨床発達支援. 京都: ミネルヴァ書房; 2011. p. 151-8.
41. 佐藤喜根子. ハイリスク・異常妊婦のアセスメントと支援. In: 我部山キヨ (編). 助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ [1]妊娠期. 東京: 医学書院; 2012. p. 290-300.
42. 佐藤喜根子. 分娩介助法. In: 我部山キヨ (編). 助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ [2]分娩期・産褥期. 東京: 医学書院; 2012. p. 92-134.

【ウイメンズヘルス看護学分野】

43. 吉沢豊予子, 跡上富美, 中村康香, 他. In: 吉沢豊予子 (編). 周産期看護学アップデート. 東京: 中央法規; 2008.
44. 吉沢豊予子 (編). 助産師基礎教育テキスト第 2 巻 女性の健康とケア. 東京: 日本看護協会出版会; 2009.
45. 中村康香, 他. In: 森恵美 (編). 助産師基礎教育テキスト第 4 巻 妊娠期の診断とケア. 東京: 日本看護協会出版会; 2009.
46. 吉沢豊予子, 跡上富美, 中村康香, 他. In: 中野仁雄, 新藤幸恵, 遠藤俊子. 新体系看護学全書 母性看護学 1 母性看護学概論/ウイメンズヘルスと看護. 東京: メディカルフレンド社; 2012.
47. 中村康香, 他. In: 中野仁雄, 遠藤俊子, 新藤幸恵 (編). 新体系看護学全書 母性看護学 2 マタニティサイクルにおける母子の健康と看護. 東京: メディカルフレンド社; 2012.
48. 中村康香, 他 (訳). In: 池ノ上克・前原澄子 (監訳). みえる生命誕生-受胎・妊娠・出産-. 東京: 南江堂; 2013.
49. 新道幸恵 (監). 吉沢豊予子, 跡上富美, 中村康香 (企画). メディカエクセレント DVD シリーズ 手掌圧が見てわかる! [分娩介助技術]-分娩介助のポジショニングと可視化された手掌圧で技術の向上に役立つ. 大阪: メディカ出版; 2013.

7-4. 国際学会発表

【看護アセスメント学分野】

1. Kanno E, Tachi M, Lianbo Z, Toriyabe S. Contribution of Quorum Sensing to the formation of *Pseudomonas aeruginosa* biofilms on skin wounds. World Union of Wound Healing Societies Meeting; 2008 June 4-9; Toronto, Canada.
2. Kanno E, Kawakami K, Ritsu M, Toriyabe S, Ishii K, Maruyama R, Tachi M. Accumulation of neutrophils and TNF- α synthesis during wound healing process in the skin: effect of inoculation of *Pseudomonas aeruginosa*. EWMA; 2009 May 20-22; Helsinki, Finland.
3. Chiba H, Nagai M, Haga M, Sasaki K, Maruyama R. Relationship between birth weight and the autonomic nervous system. FASEB; 2010 Apr 24-28; Anaheim, USA.
4. Kanno E, Kawakami K, Ritsu M, Ishii K, Toriyabe S, Maruyama R, Tachi M. Promoted wound healing in skin by inoculation of *Pseudomonas aeruginosa*: role of TNF- α secreted from infiltrating neutrophils. 14th International Congress in Immunology; 2010 Aug 22-27; Kobe, Japan.

5. Nagai M, Chiba H, Haga M, Sasaki K, Maruyama R. Effect of menstrual cycle on exercise performance and cardiovascular responses in female long-distance runners. FASEB; 2010 Apr 24-28; Anaheim, USA.
6. Sasaki K, Matsui N, Nagai M, Haga M, Maruyama R. Effect of lateral decubitus position on circulation and heart rate variability in healthy adults. FASEB; 2010 Apr 24-28; Anaheim, USA.
7. Tanno H, Kawakami K, Ritsu M, Kanno E, Ishii K, Toriyabe S, Maruyama R, Tachi M. Contribution of tumor necrosis factor- α and invariant natural killer T cell to skin wound healing in mice. 14th International Congress in Immunology; 2010 Aug 22-27; Kobe, Japan.
8. Haga M, Nagai M, Chiba H, Sasaki K, Maruyama R. Effect of order of postural change on circulatory dynamics in healthy adults. FASEB; 2011 Apr 9-13; Washington DC, USA.
9. Kamakura M, Haga M, Nagai M, Chiba H, Maruyama R. Effect of blood volume change on circulation and heart rate variability during autologous blood donation. FASEB; 2011 Apr 9-13; Washington DC, USA.
10. Nagai M, Shoji K, Haga M, Kamakura M, Chiba H, Kanno E, Wurigumula, Kawabata T, Maruyama R. Heart rate variability and cardiovascular dynamics in postmenopausal women and premenopausal female runners with menstrual disorder. FASEB; 2011 Apr 9-13; Washington DC, USA.
11. Kamakura M, Haga M, Nagai M, Chiba H, Maruyama R. Changes in heart rate and cardiovascular dynamics during autologous blood donation. FASEB; 2012 Apr 21-25; San Diego, USA.
12. Kanno E, Kawakami K, Miyairi S, Tanno H, Ishii K, Hayashi D, Maruyama R, Tachi M. Skin wound healing and cytokine response promoted by a quorum-sensing molecule from *Pseudomonas aeruginosa*. IMMUNOLOGY; 2012 May 4-8; Boston, USA.
13. Kanno E, Kawakami K, Miyairi S, Tanno H, Ishii K, Hayashi D, Maruyama R, Tachi M. Skin wound healing promoted by a quorum-sensing molecule, N-(3-Oxododecanoyl)-L-homoserine lactone from *Pseudomonas aeruginosa*. 4th Congress of the World Union of Wound Healing Societies; 2012 September 2-6; Yokohama, Japan.
14. Sasaki K, Haga M, Matsui N, Nagai M, Maruyama R. Anatomical effect of the lateral decubitus position on circulation and heart rate variability in healthy adults. FASEB; 2012 Apr 21-25; San Diego, USA.
15. Sato R, Miyagawa T, Aruga T, Maruyama R. Effect of postural change on the prevalence of ventilator-associated pneumonia. FASEB; 2012 Apr 21-25; San Diego, USA.
16. Tanno H, Kawakami K, Kanno E, Hayashi D, Ishii K, Maruyama R, Tachi M. Role of invariant natural killer T cells in the skin wound healing. 4th Congress of the World Union of Wound Healing Societies; 2012 September 2-6; Yokohama, Japan.
17. Bao S, Wurigumura, Takahashi E, Dendo M, Sasaki K, Kanno E, Maruyama R. Higher risk of hypertension and autonomic nervous system imbalance in Mongolian young adults with low birth weight compared to Japanese counterparts. The 37th World Congress of the International Union of Physiological Sciences; 2013 July 21-26; Birmingham, UK.
18. Horiguchi M, Maruyama R, Tanaka G. Analysis of allostatic load and eating behaviors among healthy young women with different body types. FASEB; 2013 April 20-24; Boston, USA.
19. Hosogaya J, Kanno E, Maruyama R. Predictive Factors for Post-Thoracotomy Pain Syndrome. American Thoracic Society; 2013 May 17-22; Philadelphia, USA.
20. Sasaki K, Haga M, Sato H, Kimura Y, Kanno E, Maruyama R. Reduced heart rate in left lateral decubitus position in healthy adults. The 37th World Congress of the International Union of Physiological Sciences; 2013 July 21-26; Birmingham, UK.
21. Sato R, Sasaki K, Haga M, Sato H, Kimura Y, Kanno E, Maruyama R. Age dependency of autonomic response to recumbent positions. FASEB; 2013 April 20-24; Boston, USA.

22. Tanno H, Kanno E, Suzuki A, Ishii K, Kawakami K. N-butanoyl-L-homoserine lactone, a quorum-sensing molecule from *Pseudomonas aeruginosa*, promotes acute wound healing in skin. 第42回日本免疫学会学術集会; 2013 Dec 11-13; 幕張.
【看護教育・管理学分野】
23. Asakura K. Differing Levels of Autonomy between Japanese and Non-Japanese Nurses in Japan and Their Effects on Non-Japanese Nurse's Professionalism in the Workplace. Work shop on Transnational Care Studies; 2008 Mar; Fukuoka, Japan.
24. Asakura T, Asakura K, Hirano-Ohara Y, Hyodo C, Ho H T, Luna G D A, Psychosocial factors of intention to migrate to foreign countries among nursing students in the Philippines. Health System Reform in Asia; 2011 Dec; Hong Kong, China.
25. Fukuda M, Matsuyama T, Nishida T, Asakura K, Honda T, Karasawa Y, Kotegawa Y, Ishizuka T, Hiraki T, Hamada E, Sasaki I. Influence exerted on the thinking of clinical nurses by repetitive sessions of reflective conversation. The 16th EAFONS; 2012 Feb; Bangkok, Thailand.
26. Asakura K, Satoh M, Watanabe I, Determinants of psychological well-being among nurses at an academic hospital in Japan. The 21st IUHPE World Conference on Health Promotion; 2013 Aug; Pattaya, Thailand.
27. Asakura T, Asakura K, Nakayama K. More cultural appropriate factor structure of the Center for Epidemiologic Studies Depression (CES-D) scale among Japanese-Brazilians could be found? The 21st IUHPE World Conference on Health Promotion; 2013 Aug; Pattaya, Thailand.
【老年・在宅看護学分野】
28. Hirano K, Suenaga K, Kobayashi K, Yoshizawa T, Kawahara R, Kikuchi F. A study of infectious disease control for pandemic influenza A (H1N1) in municipalities. 42nd APACHE Conference; 2010 Nov22-27; Bari, Indonesia.
- 【地域ケアシステム看護学分野】
29. Hirano K, Suenaga K, Nakatani I, Hatono Y, Maeno Y, Senoh E, Sorimachi Y. Workplace violence from Citizens(1)~Public Health Center~. The 41th Asia-Pacific Academic consortium for public health board meeting Taiwan conference; 2009 June 3-6; Taipei, Taiwan.
30. Nakatani I, Hirano K, Suenaga K, Hatono Y, Maeno Y, Senoh E, Sorimachi Y. Workplace violence from Citizens(2)~Child Welfare Consultation Center. The 41th Asia-Pacific Academic consortium for public health board meeting Taiwan conference; 2009 June 3-6; Taipei, Taiwan.
31. Suenaga K, Hirano K, Hatono Y, Maeno Y, Nakatani, Senoh E, Sorimachi Y. Workplace violence from Citizens(3)~Mental Health and Welfare Center~. The 41th Asia-Pacific Academic consortium for public health board meeting Taiwan conference; 2009 June 3-6; Taipei, Taiwan.
32. Hirano K, Suenaga K, Kobayashi K, Yoshizawa T, Kawahara R, Kikuchi F. A study of infectious disease control for pandemic influenza A (H1N1) in municipalities. 42nd APACHE Conference; 2010 Nov 22-27; Bari, Indonesia.
33. Suenaga K, Role of Public Health Nurses in Public Health activities in Miyagi Prefecture. International Symposium on Public Health Recovery after the Great East Japan Earthquake; 2013 Mar 7-8; Sendai, Japan.
【地域保健学分野】
34. Minami Y, Nishino Y, Kawai M, Kakugawa Y. Being breastfed in infancy and the risk of breast cancer among Japanese women. 19th IEA World Congress of Epidemiology; 2011 Aug; Edinburgh, Scotland.
35. Kawai K, Minami Y, Nishino Y, Ohuchi N, Kakugawa Y. Body mass index and survival after breast cancer diagnosis in Japanese women. 2012 CTRC-AACR San Antonio Breast Cancer Symposium; 2012 Dec; San Antonio, USA.

【成人看護学分野】

36. Hirano K, Suenaga K, Kobayashi K, Yoshizawa T, Kawahara R, Kikuchi F. A study of infectious disease control for pandemic influenza A (H1N1) in municipalities 42nd APACHE Conference; 2010 Nov22-27; Bari, Indonesia.

【緩和ケア看護学分野】(2009年10月以降)

37. Choi J, Miyashita M, Kim BH. Quality of life in advanced cancer patient: comparison of patient reported outcome and proxies assessment. ISPOR 4th Asia-Pacific Conference; 2010 Sept 5-7; Phuket, Thailand.
38. Ito M, Nakajima S, Fujisawa D, Miyashita M, Kim Y, Shear K. Complicated Grief among General Japanese Population: Validity and Reliability of Brief Grief Questionnaire. World congress of behavioral and cognitive therapies; 2010 June 2-5, Boston, USA.
39. Miyashita M, Miyashita M, Morita T, Uchida T, Eguchi K. Knowledge about opioid treatment in 97,961 Japanese physicians. J Clin Oncol. 2010;28(suppl;abstr e16523). 2010 ASCO Annual Meeting; 2010 June 4-8; Chicago, Illinois, USA.
40. Akiyama M, Takebayashi T, Morita T, Miyashita M, Hirai K, Matoba M, Akizuki N, Shirahige Y, Yamagishi A, Eguchi K. Do patients with advanced stages of cancer feel secure in receiving care at home and in the region?: a large-scale survey in Japan. Academy Health 2011 Annual Research Meeting; 2011 June; Seattle, USA.
41. Fujisawa D, Miyashita M, Ito M, Nakajima S. Prevalence and determinants of complicated grief in general population in Japan. The Third Meeting of EAPON; 2012 Sept, Beijing, China.
42. Fukahori H, Yamamoto-Mitani N, Sugiyama T, Chiba Y, Miyashita M, Mary Ersek. Staff Perceptions of End-of-life Communication with Family Members in Japanese Nursing Homes. GSA 65th Annual Scientific Meeting; 2012 Nov; San Diego, USA.
43. Mori M, Kuwama Y, Parsons HA, Ashikaga T, Grunberg SM, Miyashita M. Acculturation and preferences about end-of-life cancer care among individuals of Japanese ancestry living in America. Oral presentation at The Annual Assembly of American Academy of Hospice and Palliative Medicine & Hospice and Palliative Nurses Association; 2012 Mar 9; Denver, Colorado, USA.

【小児看護学分野】

44. Uchida M, Kajiyama Y, Ohara Y, Adachi M, Shirai F, Owaki Y, Takeuchi S, Ogawa J, Shiwaku H, Maru M, Mori M, Nonaka J, Ishibashi A, Tomioka A, Ishikawa F, Maeda R, Yoshikawa K. Development of the support program for nurses working with other professions in the care for children with cancer and their families. 42nd Congress of the International Society of Paediatric Oncology; 2010; Boston, USA.
45. Maru M, Sawada K, Shiwaku H. Health Concerns of Children & Adolescents Growing up in Children's Homes in Fukushima; A Report from Japanese Child Health Nurses. 2012 World Society of Disaster Nursing Research Conference; 2012; Cardiff, Wales, UK.
46. Uchida M, Shirai F, Fujiwara C, Mori M, Ohara Y, Adachi M, Takeuchi S, Kajiyama Y, Yoshikawa K, Ishibashi A, Maru M, Shiwaku H, Nonaka J, Ogawa J, Ishikawa F, Tomioka A, Maeda R. Development of support program for nurses working in multidisciplinary teams that care for children with cancer and their families. 44nd Congress of the International Society of Paediatric Oncology; 2012; London, UK.

【精神看護学分野】

47. Hamaie Y, Mitsunaga N, Uchida T, Ohmuro N, Katsura M, Matsuoka H, Matsumoto K. Implementation of a psychological program during the recovery phase of first-episode psychosis in a Japanese clinical setting. The 7th International Conference on Early Psychosis; 2010 Nov; Amsterdam, Netherlands.

48. Kikuchi S, Honma H, Yamaguchi S, Sato K, Saito H, Ueno T, Kato M, Sai F, Abe N, Miyazaki A, Kobayashi N, Matsuoka H. Midwife-led perinatal psychological care clinic and cooperation with psychiatry at Tohoku University Hospital in Japan. 12th World Congress of the World Association for infant Mental Health; 2010 June 29-July 3, Leipzig, Germany.
49. Yoshii H. Stigma toward schizophrenia among mothers of adolescents. Schizophrenia Epidemiology and Biology. Paulo International Medical Symposium; 2012, June 17-20; Oulu, Finland.

【周産期看護学分野】

50. Akemi M, Satomi K, Naomi K, Kineko S, Kiyoko O, Yumi K, Tomomi Y, Tomiko O. The Midwife Support Project by the Japanese Midwives' Association. 第 28 回 ICM (国際助産師連盟) 学術集会; 2008 June 1-5; Glasgow, Scotland.
51. Ayumi S, Kineko S, Sachiko S, Nobuko O, Sayaka H, Emiko T. Effect of 3.11 Earthquake in Japan on the Mental Health of Perinatal Period Women. NIH-Tohoku University-JSPS Symposium; 2013 May 9-10; Japan.
52. Sato K, Anxiety of Perinatal Women who received the "Tsunami" in the Eastern Japan earthquake disaster. 17th International Congress of the International Society of Psychosomatic Obstetrics and Gynaecology (ISPOG); 2013 May 22-24; Berlin, China.
53. Sato K, Ayumi S, Influence of the Great East Japan Earthquake on Maternal Mental Health. The 9th APRU Research Symposium on Multi-Hazards around the Pacific Rim; 2013 Oct 28-29; Taipei, Taiwan.

【ウイメンズヘルス看護学分野】

54. Atogami F, Characteristic of becoming a family process for shotgun wedding women during the first trimester, 12th EAFONS; 2009 Mar 13-14; Tokyo, Japan.
55. Nakamura Y, Yoshizawa T, Atogami F. Application of Photoplethysmography Measurement for Lower Limb Lymphedema. 12th EAFONS; 2009 Mar 13-14; Tokyo, Japan.
56. Nakamura Y. Positive effects of a nursing intervention that promotes acceptance of pregnancy. 24th Quadrennial International Council of Nurses Congress; 2009 June 27 - July 4; Durban, South Africa.
57. Yoshizawa T, Shigino R, Nakamura Y, Atogami F. The relationship of Slimming Orientation, Menopausal Symptoms and SF36R in Japanese Mid-life Women (Hanako Generation) 1st World Academy of Nursing Science (WANS); 2009 Sept 19-20; Kobe, Japan..
58. Atogami F, Nakamura Y, Yoshizawa T. Characteristic of Becoming A Family Process for The Shotgun Wedding Women During The Third trimester. The 13th EAFONS; 2010 Feb 19-20; Hong-Kong, China.
59. Seki S, Yoshizawa T, Nakamura Y, Atogami F. The State of Puerperal Woman's lower limbs edema at early postpartum period. The 13th EAFONS; 2010 Feb 19-20; Hong-Kong, China.
60. Takeishi Y, Nakamura Y, Atogami F, Yoshizawa T. Evaluation in Health-Related Quality of Life for Pregnant Women in Japan: Comparing among Three Trimesters. The 13th EAFONS; 2010 Feb 19-20; Hong-Kong, China.
61. Sakamura S, Atogami F, Nakamura Y, Yoshizawa T. Characteristic of the factors to developing relation between mothers and premature babies. The 14th EAFONS; 2011 Feb 19-20; Seoul, Korea.
62. Takeishi Y, Nakamura Y, Atogami F, Yoshizawa T, Takeda T. Evaluation of Woman's venous circulation in lower limb, 22nd Interbational Nursing Research Congress; 2011; Mexico.
63. Takeuchi M, Yoshizawa T, Nakamura Y, Atogami F. Application of Ultrasonography to Assess Lower Limb Lymphedema. The 14th EAFONS; 2011 Feb 19-20; Seoul, Korea.
64. Takeuchi M, Yoshizawa T, Nakamura Y, Atogami F. Assessment of Lower Limb Lymphedema with ultrasonography, 3rd International Lymphoedema Framework Conference; 2011 June 16-18; Toronto, Canada.

65. Arayashiki J, Yoshizawa T, Atogami F, Nakamura Y. The work-family conflict and gender role attitudes in Japanese nurses: A comparison across gender, age and marriage. Intern J Nurs Interv. 2012;18(suppl(1)):121-2. The 15th EAFONS; 2012 Feb 22-23; Singapore.
66. Hojo M, Okuyama T, Yoshizawa T, Atogami F, Nakamura Y, Tanaka M. Measurement of midwife motion during second stage of labor 2012 ASME-ISPS/JSME-IIP Joint International Conference on Micromechatronics for Information and Precision Equipment (MIPE2012); 2012 June 18-20; Santa Clara, CA, USA.
67. Kumagai K, Yoshizawa T, Sato R, Nakamura Y, Atogami F. Growth of breastfed one month age infant in Japan, The 9th International Conference with the Global Network of WHO (第9回 WHO 看護協力センターグローバルネットワーク学会); 2012 June 30 - July 1; Kobe, Japan
68. Sakamura S, Atogami F, Nakamura Y, Yoshizawa T. Development of mother-infant relationship in the NICU based on maternal parity. Intern J Nurs Interv. 2012;18(suppl(1)):120-1. The 15th EAFONS; 2012 Feb 22-23; Singapore.
69. Sato M. Case study from Ogatsu, Great East Japan Earthquake, 5th Asian Ministerial Conference on Disaster Risk Reduction (SideEvent: Gender and Disability in DRR; from vulnerability to Agency); 2012 Oct 22-25; Yogyakarta, Indonesia.
70. Takeishi Y, Nakamura Y, Ito N, Atogami F, Yoshizawa T. Comparing pregnant comfort among first, second and third trimester: Using pregnant comfort scale. Intern J Nurs Interv. 2012;18(suppl(1)):121. The 15th EAFONS; 2012 Feb 22-23; Singapore.
71. Takeuchi M, Yoshizawa T. Development of a Quality of Life Measure for LIMB LYMPHOEDEMA (LYMQOL) Japanese version. 4th International Lymphoedema Framework; 2012 June 28-30; Montpellier, France.
72. Takeuchi M, Yoshizawa T. Morphological changes in the lower limb assessed by Ultrasonography and Bioelectrical Impedance Analysis before and after sever cellulitis: A case report. 4th International Lymphoedema Framework; 2012 June 28-30; Montpellier, France.
73. Yoshizawa T, Atogami F, Nakamura Y, Takeishi Y, Togashi H, Takahashi Y, Imaizumi A. Menopausal symptoms recognized by Japanese men and the association with marital relationships. The 5th Scientific Meeting of the Asia Pacific Menopause Federation; 2013 Oct 18-20; Tokyo, Japan.

7-5. 国内学会発表

【看護アセスメント学分野】

1. 菅野恵美, 張連波, 鳥谷部荘八, 館正弘. ラット皮膚感染潰瘍におけるバイオフィーム形成と上皮化の関連性 -Las I, Rhl I 遺伝子欠損の影響に注目して-. 第10回日本褥瘡学会学術集会; 2008 Aug 29-30; 神戸.
2. 菅野恵美, 立雅恵, 鳥谷部荘八, 石井恵子, 丸山良子, 川上和義, 館正弘. 皮膚創傷治癒過程における好中球集積と TNF- α 産生への緑膿菌接種の影響. コ・メディカル形態機能学会第7回学術集会; 2008 Sept 13; 豊明.
3. 佐々木康之輔, 丸山良子. 深呼吸が血圧脈拍数に及ぼす影響. 第7回日本看護技術学会; 2008 Sept 20-21; 青森.
4. 庄司香織, 丸山良子. 女性の性周期における血圧の変動. 第7回日本看護技術学会; 2008 Sept 20-21; 青森.
5. 立雅恵, 菅野恵美, 鳥谷部荘八, 石井恵子, 丸山良子, 川上和義, 館正弘. 皮膚創傷治癒過程における好中球の集積と TNF- α 産生: 緑膿菌接種の影響. 第73回日本インターフェロン・サイトカイン学会学術集会, 第19回日本生体防御学会学術総会, 第45回補体シンポジウム 3学会合同大会; 2008 July 10-12; 札幌.

6. 伊達文子, 菅野恵美, 山下雅大, 渡辺皓, 小野栄夫. 褥瘡初期に出現する CD34 強陽性細胞に関する免疫組織化学的検討. 第 97 回日本病理学会総会; 2008 May 15-17; 金沢.
7. Sasaki K, Kanno E, Watanabe I, Syoji K, Sekimata A, Maruyama R. Effect of controlled breathing on respiratory, circulatory dynamics and heart rate variability. 第 86 回日本生理学会大会; 2009 July 27-Aug 1; 京都.
8. 菅野恵美, 川上和義, 立 雅恵, 鳥谷部荘八, 石井恵子, 丸山良子, 館正弘. 皮膚創傷治癒過程における bFGF、VEGF 産生への TNF- α の関与. コ・メディカル形態機能学会第 8 回学術集会; 2009 Sept 12; 京都.
9. 菅野恵美, 川上和義, 立雅恵, 鳥谷部荘八, 石井恵子, 丸山良子, 館正弘. 創傷治癒過程における緑膿菌接種の影響: 好中球の働きに注目して. 第 11 回日本褥瘡学会学術集会; 2009 Sept 4-5; 大阪.
10. 佐々木康之輔, 松井憲子, 丸山良子. 側臥位が健康成人の循環動態および自律神経系に及ぼす影響. 第 8 回日本看護技術学会; 2009 Sept 26-27; 旭川.
11. 丹陽子, 佐々木康之輔, 庄司香織, 丸山良子. 音楽のテンポと好みの違いが自律神経径に及ぼす影響. 第 8 回日本看護技術学会; 2009 Sept 26-27; 旭川.
12. 芳賀麻有, 佐々木康之輔, 庄司香織, 丸山良子. 日本古来の香が自律神経に及ぼす影響. 第 8 回日本看護技術学会; 2009 Sept 26-27; 旭川.
13. 渡邊生恵, 小原拓, 大久保孝義, 丸山良子, 今井潤. 家庭血圧測定の実況に関する調査: 保健師の実践と意義. 第 68 回日本公衆衛生学会総会; 2009 Oct 21-23; 奈良.
14. Shoji K, Sasaki K, Kanno K, Watanabe I, Sekimata A, Maruyama R. The effects of estrogen and aging on autonomic nerve system in healthy women. 第 87 回日本生理学会; 2010 May 19-21; 盛岡.
15. Shinagawa Y, Miura H, Tazawa C, Gohno T, Niwa T, Maruyama Ryo, Hayashi S. Estrogenic effect of tobacco smoke condensate on breast cancer cells. 第 69 回日本癌学会学術総会; 2010 Sept 22-24; 大阪.
16. 菅野恵美, 川上和義, 石井恵子, 立雅恵, 丹野寛大, 鳥谷部荘八, 林殿聡, 丸山良子, 館正弘. 創傷治癒過程における緑膿菌接種の影響: 集積した好中球による TNF- α 産生に注目して. 第 21 回日本生体防御学会学術集会; 2010 July 22-24; 仙台.
17. 丹野寛大, 川上和義, 菅野恵美, 立雅恵, 石井恵子, 林殿聡, 丸山良子, 館正弘. マウス皮膚創傷治癒過程における TNF- α と invariant natural killer T 細胞の役割. 第 21 回日本生体防御学会学術集会; 2010 July 22-24; 仙台.
18. 丹野寛大, 川上和義, 立雅恵, 菅野恵美, 石井恵子, 林殿聡, 丸山良子, 館正弘. マウス皮膚創傷治癒過程における Natural Killer T 細胞の役割とその作用における TNF- α の関与. 第 40 回日本創傷治癒学会; 2010 Dec 2-3; 東京.
19. 芳賀麻有, 永井瑞希, 千葉春香, 菅野恵美, 渡邊生恵, 竹田和博, 土屋智久, 丸山良子. マットレスの安楽性の検討~マットレスの違いによる自律神経活動の変化から~. 日本看護技術学会第 9 回学術集会; 2010 Oct 23-24; 名古屋.
20. 松井憲子, 佐々木康之輔, 丸山良子. 重症患者における体位変換および吸引時の自律神経活動の変化. 第 6 回クリティカルケア看護学会; 2010 July 16-17; 札幌.
21. Chiba H, Nagai M, Haga M, Wrigumula, Kawabata T, Maruyama R. Does birth weight have an effect on the autonomic nervous system? *J Physiol Sci.* 2011;61(Suppl):150.
22. Haga M, Nagai M, Chiba H, Maruyama R. Effect of circulatory dynamics on selection of body position in young adults. *J Physiol Sci.* 2011;61(Suppl):150.
23. Nagai H, Haga M, Kamakura M, Takahashi K, Wrigumula, Chiba H, Kawabata T, Kanno E, Maruyama R. The effects of menstrual disorder on the autonomic nervous system and cardiovascular dynamics of long-distance runners. *J Physiol Sci.* 2011;61(Suppl):150.
24. 河原田真衣, 芳賀麻有, 山内健嗣, 永井瑞希, 丸山良子. 体位変換における声かけが生体に及ぼす影響. 日本看護技術学会第 10 回学術集会; 2011 Oct 29-30; 東京.

25. 菅野恵美, 川上和義, 乙丸礼乃, 石井恵子, 丹野寛大, 林殿聡, 丸山良子, 館正弘. 緑膿菌クオラムセンシング機構が創傷治癒過程と創部炎症反応に与える影響. 第 13 回日本褥瘡学会学術集会; 2011 Aug 26-27; 福岡.
26. 菅野恵美, 川上和義, 乙丸礼乃, 石井恵子, 丹野寛大, 林殿聡, 丸山良子, 館正弘. 緑膿菌クオラムセンシング分子 N-3-Oxododecanoyl-homoserine lactone が創傷治癒過程と創部炎症反応に与える影響. 第 22 回日本生体防御学会学術集会; 2011 June 29-July 1; 那覇.
27. 菅野恵美, 川上和義, 乙丸礼乃, 石井恵子, 丹野寛大, 林殿聡, 丸山良子, 館正弘. 緑膿菌クオラムセンシング分子による創傷治癒の促進と創部炎症反応の誘導. 第 41 回日本創傷治癒学会; 2011 Dec 5-6; 名古屋.
28. 穴戸華奈子, 芳賀麻有, 永井瑞希, 菅野恵美, 丸山良子. マットレスの違いによる自律神経活動の変化. 日本看護技術学会第 10 回学術集会; 2011 Oct 29-30; 東京.
29. 品川優理, 田澤智香, 藤木夏, 丹羽俊文, 丸山良子, 林慎一. ER activation by tobacco smoke condensate in breast cancer cells. 第 70 回日本癌学会学術総会; 2011 Dec 3-5; 名古屋.
30. 丹野寛大, 川上和義, 立雅恵, 菅野恵美, 石井恵子, 林殿聡, 丸山良子, 館正弘. マウス皮膚創傷治癒過程における Natural Killer T 細胞の役割. 第 41 回日本創傷治癒学会; 2011 Dec 5-6; 名古屋.
31. 永井瑞希, 芳賀麻有, 菅野恵美, 高橋和広, 丸山良子. 女子長距離選手の無排卵性月経が自律神経系・心血管系に及ぼす影響. 第 66 回日本体力医学会大会; 2011 Sept 16-18; 下関.
32. 仁志映美, 永井瑞希, 丸山良子. 音楽の好みは自律神経活動にもたらす影響. 日本看護技術学会第 10 回学術集会; 2011 Oct 29-30; 東京.
33. 山内健嗣, 芳賀麻有, 永井瑞希, 河原田真衣, 丸山良子. 側臥位および腹臥位での循環動態と自律神経活動の評価. 日本看護技術学会第 10 回学術集会; 2011 Oct 29-30; 東京.
34. Kanno E, Tanno H, Ishi K, Kawakami K. N-(3-oxododecanoyl)-L-homoserine lactone, a quorum-sensing molecule from *Pseudomonas aeruginosa*, promotes acute wound healing. 第 41 回日本免疫学会学術集会; 2012 Dec 5-7; 神戸.
35. Tanno H, Kanno E, Ishi K, Nakayama T, Taniguchi M, Kawakami K. Involvement of invariant Natural Killer T cells in the acute wound healing in skin. 第 41 回日本免疫学会学術集会; 2012 Dec 5-7; 神戸.
36. 菅野恵美, 丹野寛大, 川上和義, 宮入伸一, 石井恵子, 丸山良子, 館正弘. 緑膿菌クオラムセンシング分子 N-butanoyl-L-homoserine lactone が創傷治癒過程に与える影響. 第 42 回日本創傷治癒学会; 2012 Dec 2-4; 札幌.
37. 佐々木康之輔, 芳賀麻有, 永井瑞希, 松井憲子, 菅野恵美, 丸山良子. 側臥位は自律神経活動にどのような影響を与えるのか?. 第 11 回日本看護技術学会学術集会; 2012 Sept 16-17; 福岡.
38. 丹野寛大, 川上和義, 立雅恵, 菅野恵美, 石井恵子, 林殿聡, 丸山良子, 館正弘. マウス皮膚創傷治癒過程と Natural Killer T 細胞; IFN- γ と IL-4 の関与について. 第 42 回日本創傷治癒学会; 2012 Dec 2-4; 札幌.
39. 丹野寛大, 川上和義, 立雅恵, 菅野恵美, 林殿聡, 石井恵子, 丸山良子, 館正弘. マウス皮膚創傷治癒過程における Natural Killer T 細胞と IFN γ , IL-4 の役割. 第 23 回日本生体防御学会; 2012 July 9-11; 東京.
40. 芳賀麻有, 永井瑞希, 佐々木康之輔, 菅野恵美, 丸山良子. 睡眠時の姿勢はどのように決定されているのか?. 第 37 回日本睡眠学会学術集会; 2012 June 28-30; 横浜.
41. 佐藤遥, 佐々木康之輔, 芳賀麻有, 菅野恵美, 丸山良子. 性差から見た体位と自律神経活動および循環動態. 第 12 回日本看護技術学会学術集会; 2013 Sept 14-15; 浜松.
42. 鈴木愛子, 菅野恵美, 川上和義, 宮入伸一, 丹野寛大, 石井恵子, 丸山良子, 館正弘. 緑膿菌クオラムセンシング分子 N-butanoyl-L-homoserine lactone が創傷治癒と創部炎症反応に与える影響. 第 24 回日本生体防御学会; 2013 July 10-12; 熊本.
43. 鈴木愛子, 菅野恵美, 川上和義, 丹野寛大, 上松野りな, 石井恵子, 丸山良子, 館正弘. 皮膚創傷治癒過程における CARD9 遺伝子欠損の影響に関する研究. 第 43 回日本創傷治癒学会; 2013 Nov 14-15; 大分.

44. 高木尚之, 川上和義, 丹野寛大, 菅野恵美, 石井恵子, 館正弘. 創傷治癒における IL-17 欠損の影響に関する研究. 第 43 回日本創傷治癒学会; 2013 Nov 14-15; 大分.
 45. 丹野寛大, 川上和義, 鈴木愛子, 中山史子, 菅野恵美, 高木尚之, 石井恵子, 古和田雪, 丸山良子, 館正弘. 創傷治癒におけるサイトカイン, ケモカイン産生と NKT 細胞の関与. 第 43 回日本創傷治癒学会; 2013 Nov 14-15; 大分.
 46. 細萱順一, 菅野恵美, 丸山良子. 食道がん患者を対象に PTPS 発症群と非発症群の特徴的要因を明らかにする. 第 35 回日本疼痛学会学術集会; 2013 July 12; 大宮.
 47. 松田友美, 石田陽子, 菅野恵美. マウス圧迫創における HMGB1 陽性細胞の経時的変化. 第 43 回日本創傷治癒学会; 2013 Nov 14-15; 大分.
- 【看護教育・管理学分野】
48. 朝倉京子. ジェンダー・パースペクティブからの看護の現象の分析. 第 36 回日赤看護学教育研究会; 2008 June; 東京.
 49. 藤田尚, 小倉正之, 朝倉京子. 日本人の咬耗度の時代的变化: 加齢変化を中心とする考察. 第 19 回日本老年歯科医学会学術大会; 2008 June 19-20; 岡山.
 50. 朝倉京子, 青山ヒフミ, 永池京子, 野宮雅子, 森田公美子, 山田佐登美, 山本友子, 吉村浩美. 看護管理者の役割に関する一考察: 看護職副院長と看護部長との差に焦点を当てて. 第 29 回日本看護科学学会学術集会; 2009 Nov 27-28; 幕張.
 51. 朝倉京子, 朝倉隆司, 平野(小原)裕子, 兵藤智佳. 日比 EPA によるフィリピン人看護師受け入れに関わる課題; フィリピン国内における関係者への聞き取り調査から. 第 35 回日本保健医療社会学会大会; 2009 May 16-17; 熊本.
 52. 朝倉京子. ラウンドテーブルディスカッション「看護師の国際移動と保健医療社会学の課題」話題提供者. 第 35 回日本保健医療社会学会大会; 2009 May 16-17; 熊本.
 53. 川合美奈子, 朝倉京子. 離職した元中堅看護師の看護に対する意識. 第 24 回日本保健医療行動科学学会学術大会; 2009 June 27-28; 神戸.
 54. 船久保沙織, 朝倉京子. 看護臨床領域におけるジェンダー・マイノリティとしての男性看護師の職業体験. 第 24 回日本保健医療行動科学学会学術大会; 2009 June 27-28; 神戸.
 55. 朝倉京子, 渡邊生恵. 男性看護師の生存戦略の様相; アドバンテージ獲得の過程に着目して. 第 36 回日本保健医療社会学会大会; 2010 May 15-16; 山口.
 56. 朝倉京子, 川合美奈子, 渡邊生恵. 看護師の離職理由に関する記述的研究—「結婚、出産、進学」の影に隠れた理由に着目して—. 第 41 回日本看護学会 看護管理; 2010 Oct 26-27; 新潟.
 57. 朝倉京子. ラウンドテーブルディスカッション「変化する『専門性』: 資格の意義/意味を問い直す」話題提供者. 第 36 回日本保健医療社会学会大会; 2010 May 15-16; 山口.
 58. 早川ひと美, 門間典子, 佐々木百合花, 平野かよ子, 宮下光令, 朝倉京子, 岡村由紀子, 吉沢豊予子, 菅原美知子. 「看護キャリアプロモート支援システム開発」におけるニーズ調査報告第一報; 看護職のキャリアに関する認識について. 第 14 回日本看護管理学会年次大会; 2010 Aug 21-22; 横浜.
 59. 朝倉京子, 籠玲子. ジェネラリストの自律的な判断: 診療に関する領域との境界に注目して. 第 15 回日本看護管理学会年次大会; 2011 Aug 26-27; 東京.
 60. 小原可奈子, 佐藤みほ, 齋藤紘子, 清水美穂, 渡邊生恵, 朝倉京子. 未婚女性看護師の結婚観及び、出産後の仕事に対する考え方と専門職的自律意識との関連. 第 70 回日本公衆衛生学会総会; 2011 Oct 19-21; 秋田.
 61. 小手川良江, 本田多美枝, 唐澤由美子, 石塚敏子, 佐々木幾美, 朝倉京子, 福田美和子, 松山友子, 西田朋子, 濱田悦子. ベテランナースの反省的実践の特徴 (第 1 報). 第 31 回日本看護科学学会総会; 2011 Dec 2-3; 高知.
 62. 齋藤紘子, 朝倉京子, 清水美穂, 小原可奈子, 渡邊生恵, 佐藤みほ. 看護師の専門職的自律意識尺度の作成. 第 70 回日本公衆衛生学会総会; 2011 Oct 19-21; 秋田.
 63. 佐藤みほ, 朝倉京子, 渡邊生恵. 「看護師の専門職的自律意識」尺度 (東北大学版) の作成と信頼性、妥当性の検討. 第 31 回日本看護科学学会総会; 2011 Dec 2-3; 高知.
 64. 清水美穂, 佐藤みほ, 齋藤紘子, 小原可奈子, 渡邊生恵, 朝倉京子. 看護師のリフレクションスキルと専門職的自律意識の関連. 第 70 回日本公衆衛生学会総会; 2011 Oct 19-21; 秋田.

65. 西田朋子, 佐々木幾美, 朝倉京子, 福田美和子, 松山友子, 本田多美枝, 唐澤由美子, 石塚敏子, 小手川良江, 濱田悦子. 看護師のリフレクションに関わる思考のプロセスの特徴; 継続的なインタビューを通して. 第 31 回日本看護科学学会総会; 2011 Dec 2-3; 高知.
66. 籠玲子, 朝倉京子. 臨床経験年数 8 年以上の看護師の自律的な判断のプロセス. 第 37 回日本看護研究学会学術集会; 2011 Aug7-8; 横浜.
67. 渡邊生恵, 佐藤みほ, 朝倉京子. ベッド上臥床者の対人距離と関連する要因: 性別、接近者性別、視線、不安との関連. 第 37 回日本看護研究学会学術集会; 2011 Aug7-8; 横浜.
68. 朝倉京子, 佐藤みほ, 渡邊生恵. 「看護師の専門職的自律意識」尺度 (東北大学版) の作成と信頼性・妥当性の確認 (第二報). 第 38 回日本保健医療社会学会大会; 2012 May 19-20; 神戸.
69. 朝倉京子, 籠玲子. 看護師の自律的な判断に関する基礎的研究. 日本保健医療社会学会看護・ケア研究部会; 2012 Sept 15; 東京.
70. 朝倉京子, 籠玲子. 看護師の自律的な判断の様相. 第 32 回日本看護科学学会学術集会; 2012 Nov 30 - Dec 1; 東京.
71. 佐藤みほ, 朝倉京子, 渡邊生恵. 看護師の情緒的職業コミットメントの予測要因の検討. 第 38 回日本保健医療社会学会大会; 2012 May 19-20; 神戸.
72. 朝倉京子, 佐藤みほ, 渡邊生恵, 富永真己, 朝倉隆司. McLean 職務満足度尺度の構成概念妥当性の検討. 第 72 回日本公衆衛生学会総会; 2013 Oct 23-25; 津.
73. 朝倉京子, 佐藤みほ, 渡邊生恵. 「看護師の専門職的自律意識」尺度 (東北大学版) の作成と信頼性・妥当性の確認 (第三報). 第 33 回日本看護科学学会学術集会; 2013 Dec 6-7; 大阪.
74. 荒木ひとみ, 朝倉京子, 佐藤みほ, 渡邊生恵, 戸草内悠希, 駒板奈都美. 看護師の離職意向と職務満足度との関連. 第 72 回日本公衆衛生学会総会; 2013 Oct 23-25; 津.
75. 大坪さやか, 佐藤みほ, 朝倉京子, 渡邊生恵, 貞弘佳江. 看護師の情緒的コミットメントと専門職的自律意識の関連. 第 72 回日本公衆衛生学会総会; 2013 Oct 23-25; 津.
76. 貞弘佳江, 朝倉京子, 渡邊生恵, 佐藤みほ, 大坪さやか. 看護師の職業性ストレスと精神的健康との関連. 第 72 回日本公衆衛生学会総会; 2013 Oct 23-25; 津.
77. 佐藤みほ, 朝倉京子, 渡邊生恵, 下條祐也. 職業コミットメント尺度の信頼性と因子構造の確認. 第 39 回日本保健医療社会学会大会; 2013 May 18-19; 朝霞.
78. 佐藤みほ, 朝倉京子, 渡邊生恵. 看護師の蓄積疲労と精神健康との関連における職業コミットメントの緩衝効果. 第 72 回日本公衆衛生学会総会; 2013 Oct 23-25; 津.
79. 戸草内悠希, 朝倉京子, 佐藤みほ, 渡邊生恵, 駒板奈都美, 荒木ひとみ. 看護師の蓄積疲労と職務満足度との関連. 第 72 回日本公衆衛生学会総会; 2013 Oct 23-25; 津.
80. 本田多美恵, 唐澤由美子, 石塚敏子, 小手川良江, 平木民子, 福田美和子, 佐々木幾美, 朝倉京子, 松山友子, 西田朋子, 濱田悦子. ベテランナースの反省的実践 —ダイナミックに進展する過程に表れる特性—. 第 33 回日本看護科学学会学術集会; 2013 Dec 6-7; 大阪.
81. 本田多美恵, 唐澤由美子, 石塚敏子, 小手川良江, 平木民子, 福田美和子, 佐々木幾美, 朝倉京子, 松山友子, 西田朋子, 濱田悦子. ベテランナースの反省的実践 —reflection-on-action と reflection-in-action の展開過程にみる実践の様相—. 第 33 回日本看護科学学会学術集会; 2013 Dec 6-7; 大阪.

【老年・在宅看護学分野】

82. 川原礼子, 齋藤美華, 森鍵祐子. 訪問看護におけるリハビリテーション看護の視点について —残存機能評価および他職種との連携に関する観点を含めて—. 第 12 回北日本看護学会; 2008 Aug 23-24; 山形.
83. 川原礼子, 齋藤美華, 森鍵祐子. 訪問看護師における高齢者の残存機能評価の視点・方法. 第 13 回日本老年看護学会学術集会; 2008 Nov 8-9; 金沢.
84. 齋藤美華, 森鍵祐子, 川原礼子. 新興住宅地域のボランティアが介護予防事業を運営することの意味づけ. 第 12 回北日本看護学会; 2008 Aug 23-24; 山形.
85. 齋藤美華. 農村文化に基づく前期高齢女性による介護予防事業運営の意味. 第 13 回日本老年看護学会学術集会; 2008 Nov 8-9; 金沢.
86. 森鍵祐子, 叶谷由佳, 佐藤千史. 急性期病院の地域連携および退院支援への取り組み状況. 第 34 回日本看護研究学会; 2008 July; 神戸

87. 渡辺祐子, 齋藤美華. ボランティア活動を行っている高齢女性の健康に関する記述的研究. 第 13 回日本老年看護学会学術集会; 2008 Nov 8-9; 金沢.
 88. 金子謙介, 齋藤美華. 高齢者にとっての家族の意味に関する記述的研究 —社会活動に参加している高齢者に焦点をあてて—. 第 13 回北日本看護学会; 2009 Aug 21-22; 仙台.
 89. 川原礼子, 齋藤美華, 森鍵祐子. 訪問看護におけるリハビリテーション看護の視点・方法 —他職種との連携に関することを含めて—. 第 13 回日本在宅ケア学会学術集会; 2009 Mar 14-15; 大阪.
 90. 齋藤美咲, 半沢みどり, 阿部由美, 角張範子, 齋藤真美, 齋藤美華. 外来化学療法を受けている高齢がん患者の日常生活への思い. 第 13 回北日本看護学会; 2009 Aug 21-22; 仙台.
 91. 齋藤美華, 齋藤美咲, 半沢みどり, 阿部由美, 角張範子, 齋藤真美, 阿子島美代子. 高齢がん患者が外来化学療法を受けながら生活することの意味. 第 14 回日本老年看護学会学術集会; 2009 Sept 26-27; 札幌.
 92. 齋藤美華, 大槻久美, 川原礼子. 訪問看護場面における高齢者の排便コントロールに関する医行為の実態とその認識. 第 22 回日本老年医学会 東北地方会; 2011 Oct 29; 弘前.
 93. 大槻久美, 齋藤美華, 川原礼子. 大学で実施する現任教育に訪問看護師が求めるもの—教育指導の立場にある訪問看護師に焦点をあてて—. 第 15 回北日本看護学会; 2012 Sept 1-2; 仙台.
 94. 齋藤美華, 大槻久美, 川原礼子. 訪問看護師の医行為に関する看護教育への希望—訪問看護場面において訪問看護師が実施した医行為をとおして—. 第 15 回北日本看護学会; 2012 Sept 1-2; 仙台.
 95. 齋藤美華, 大槻久美, 川原礼子. 訪問看護場面における高齢者のケアに関する医行為の実態とその特徴. 第 23 回日本老年医学会 東北地方会; 2012 Oct 13; 秋田.
 96. 齋藤美華, 大槻久美, 川原礼子. 訪問看護場面における高齢者の症状コントロールに関する医行為の実態とその認識. 第 17 回日本老年看護学会学術集会; 2012 July 14-15; 金沢.
 97. 齋藤美華, 大槻久美, 川原礼子. 訪問看護場面における高齢者の食への支援に関する医行為の実態とその認識. 第 55 回日本老年医学会関東甲信越地方会; 2012 Mar 10; 東京.
 98. 大森純子, 小林真朝, 安齋ひとみ, 高橋和子, 宮崎紀枝, 酒井太一, 小野若菜子, 留目宏美, 吉野純子, 齋藤美華, 三森寧子. “地域への愛着” 概念分析 —ハイブリッド・モデルを用いて—. 第 1 回日本公衆衛生看護学会学術集会; 2013 Jan 14; 東京.
 99. 加藤隆子, 田中陽子, 小島尚子, 佐々木静, 坂川奈央, 山内泰子. 特定機能病院における高齢者の認知症・意識障害に関連したインシデントの実態調査. 日本認知症ケア学会: 2013 年度北陸・甲信越地域大会; 2013 Oct 6; 長野.
 100. 齋藤美華, 坂川奈央, 川原礼子. 訪問看護師の高齢者の排便ケアに関する医行為の妥当性の検討 —実施した医行為に対する訪問看護師と主治医へのインタビュー調査より—. 第 16 回北日本看護学会; 2013 Aug 30-31; 山形.
 101. 齋藤美華, 大槻久美, 坂川奈央, 川原礼子. 訪問看護場面における高齢者の褥瘡ケアに関する医行為の実態とその認識. 第 18 回日本老年看護学会学術集会; 2013 June; 大阪.
 102. 佐藤和佳子, 阿部桃子, 泉キヨ子, 形上五月, 上山真美, 小泉美佐子, 陶山啓子, 堀江竜弥, 小岡亜希子, 坂川奈央. 高齢者排尿誘導ガイドラインの開発過程について—実践に役立つクリニカル・クエストの作成に向けて—. 第 18 回日本老年看護学会学術集会; 2013 June 4-6; 大阪.
- 【地域ケアシステム看護学分野】
103. 栗本鮎美, 大久保孝義, 栗田主一, 鈴木和広, 坪田恵, 浅山敬, 瀬川香子, 末永カツ子, 今井潤, 佐藤洋. 日本語版 Lubben Social Network Scale 短縮版の作成と信頼性および妥当性の検討. 第 67 回日本公衆衛生学会総会; 2008 Nov 5-7; 福岡.
 104. 佐藤幸子, 後藤美枝, 末永カツ子. 新たな障害者地域支援システム構築に向けて 専門相談機関の役割に焦点をあてて(2). 第 67 回日本公衆衛生学会総会; 2008 Nov 5-7; 福岡.
 105. 末永カツ子, 佐藤幸子, 後藤美枝. 新たな障害者地域支援システム構築に向けて 専門相談機関の役割に焦点をあてて(1). 第 67 回日本公衆衛生学会総会; 2008 Nov 5-7; 福岡.
 106. 末永カツ子, 内藤寿子, 蔦森武夫, 渡部愛, 本田志津子, 松岡幸枝. 学校が障害児・者の地域生活支援システムの拠点に～地域住民・学校・保健福祉分野が協働した活動と自立支援協議会の取組から～. 日本特殊教育学会第 46 回大会; 2008 Sept 19-21; 鳥取.

107. 鈴木和広, 坪田恵, 大久保孝義, 浅山敬, 栗本鮎美, 瀬川香子, 末永カツ子, 今井潤, 佐藤洋. 壮年期・中年期における主観的健康観の関連要因に関する研究: 大迫研究. 第 67 回日本公衆衛生学会総会; 2008 Nov 5-7; 福岡.
108. 瀬川香子, 鈴木和広, 栗本鮎美, 末永カツ子. 住民組織活動における住民のエンパワメント構造に関する研究. 第 44 回宮城県公衆衛生学会学術総会; 2008 July 11; 仙台.
109. 瀬川香子, 鈴木和広, 栗本鮎美, 末永カツ子. 地域看護学実習における実習施設との協働に関する検討 実習報告会における保健師の反応から. 第 11 回日本地域看護学会学術集会; 2008 July 5-6; 沖繩.
110. 鳩野洋子, 家保英隆, 尾島俊之, 佐藤紀子, 瀬川香子, 大光房枝, 野呂千鶴子, 山口佳子, 城本弘子. 市町村保健師の確保方策に関する検討. 第 67 回日本公衆衛生学会総会; 2008 Nov 5-7; 福岡.
111. 中板育美, 平野かよ子, 末永カツ子, 鳩野洋子, 妹尾栄一, 反町吉秀, 川関和俊. 地域保健従事者が住民から受ける暴力の実態 (2) 児童相談所. 第 68 回日本公衆衛生学会総会; 2009 Oct 21-23; 奈良.
112. 鳩野洋子, 平野かよ子, 末永カツ子, 妹尾栄一, 中板育美, 反町吉秀, 前野由桂里. 地域保健従事者が住民から受ける暴力の実態 (3) 精神保健福祉センター. 第 68 回日本公衆衛生学会総会; 2009 Oct 21-23; 奈良.
113. 平野かよ子, 末永カツ子, 反町吉秀, 鳩野洋子, 中板育美, 妹尾栄一, 前野由桂里. 地域保健従事者が住民から受ける暴力の実態 (1) 保健所. 第 68 回日本公衆衛生学会総会; 2009 Oct 21-23; 奈良.
114. 福島直美, 原梓, 森戸里衣子, 大久保孝義, 栗本鮎美, 栗田 圭一, 佐藤洋, 今井潤. 非医療環境下測定血圧と抑うつとの関連 大迫研究から. 第 58 回東北公衆衛生学会; 2009 July 24; 秋田.
115. 福島直美, 原梓, 大久保孝義, 栗本鮎美, 栗田圭一, 佐藤洋, 今井潤. 抑うつは夜間睡眠時高血圧高値と関連する: 大迫研究. 第 68 回日本公衆衛生学会総会; 2009 Oct 21-23; 奈良.
116. 藪田歩, 末永カツ子. 研究会におけるファシリテーター体験のプロセス. 第 36 回日本看護研究学会学術集会; 2009 Aug 21-22; 岡山.
117. 高橋香子, 末永カツ子, 栗本鮎美. 住民の主体的な健康づくり活動の推進要件に関する検討. 第 69 回日本公衆衛生学会総会; 2010 Oct 27-29; 東京.
118. 伊藤範子, 庄子弘子, 末永カツ子, 板垣恵子. NTT 東日本東北病院人間ドックにおける特定保健指導機付け支援初回面談の試み. 第 70 回日本公衆衛生学会総会; 2011 Oct 19-21; 秋田.
119. 藪田歩, 末永カツ子, 高橋香子. 地域保健・公衆衛生分野における統合医療研究の現状と課題. 第 37 回日本看護研究学会学術集会; 2011 Aug 7-8; 横浜.
120. 佐藤幸子, 井上美貴子, 針生恵, 末永カツ子. 仙台市発達相談支援センター (アーチル) 10 年の検証. 第 71 回日本公衆衛生学会総会; 2012 Oct 24-26; 山口.
121. 高橋香子, 末永カツ子, 栗本鮎美. 認知症在宅介護者支援を目的とした地区住民の利他的健康行動に関する検討. 第 71 回日本公衆衛生学会総会; 2012 Oct 24-26; 山口.
122. 坪田恵, 大久保孝義, 日時弘仁, 福島直美, 栗本鮎美, 浅山敬, 今井潤. 地域在宅高齢者におけるパーソナリティと 7 年後の高次生活機能低下との関連 大迫研究. 第 71 回日本公衆衛生学会総会; 2012 Oct 24-26; 山口.
123. 真溪淳子, 末永カツ子, 高橋香子. 保健師のミドル・マネージャーを対象としたアクションラーニング形態での研修の意義. 第 71 回日本公衆衛生学会総会; 2012 Oct 24-26; 山口.
124. 伊藤範子, 末永カツ子, 庄子弘子. 人間ドック受診時の特定保健指導初回面談実施対象者の選定について. 第 72 回日本公衆衛生学会総会; 2013 Oct 23-25; 三重.
125. 井上美貴子, 阿部恵, 加藤佐市, 川村麻衣子, 佐藤幸子, 末永カツ子. 医療的ケアを必要とする重症心身障害者の「住まいの場」の整備に向けての取り組み. 第 72 回日本公衆衛生学会総会; 2013 Oct 23-25; 三重.
126. 栗本鮎美, 末永カツ子, 田口敦子, 高橋香子. 東日本大震災時における保健師活動(第 2 報) 被災地保健所保健師の活動. 第 72 回日本公衆衛生学会総会; 2013 Oct 23-25; 三重.
127. 末永カツ子, 栗本鮎美, 田口敦子, 高橋香子. 東日本大震災時における保健師活動(第 1 報) 保健師にインタビュー調査を実施して. 第 72 回日本公衆衛生学会総会; 2013 Oct 23-25; 三重.

128. 高橋香子, 栗本鮎美, 田口敦子, 末永カツ子. 東日本大震災時における保健師活動(第4報) 被災地住民の活動. 第72回日本公衆衛生学会総会; 2013 Oct 23-25; 三重.
129. 田口敦子, 栗本鮎美, 末永カツ子, 高橋香子. 東日本大震災時における保健師活動(第3報) フェーズごとの分析. 第72回日本公衆衛生学会総会; 2013 Oct 23-25; 三重.
130. 根本裕美子, 末永カツ子. 原子力災害における保健師活動の実際と課題. 日本災害看護学会第15年次大会; 2013 Aug 22-23; 札幌.

【地域保健学分野】

131. 南優子, 西野善一. 身長と前立腺がんリスクとの関連. 第18回日本疫学会; 2008 Jan 26-26; 東京.
132. 河合賢朗, 南優子, 辻一郎, 大内憲明. 女性ホルモン剤使用と乳癌罹患に関するコホート研究. 第17回日本乳癌学会; 2009 July 3-4; 東京.
133. 角川陽一郎, 櫻井遊, 多田寛, 立野紘雄, 南優子. 初発時血清ホルモン値と乳癌予後との関連. 第18回日本乳癌学会; 2010 June 24-25; 札幌.
134. 河合賢朗, 南優子, 西野善一, 辻一郎, 大内憲明. 日本人女性における成人期の肥満、体重変化と乳がんリスクの関連. 第69回日本癌学会; 2010 Sept 22-24; 大阪.
135. 角川陽一郎, 櫻井遊, 南優子. 乳癌組織中ホルモン濃度と血中ホルモン濃度、乳癌リスク要因の関連. 第19回日本乳癌学会; 2011 Sept 2-4; 仙台.
136. 河合賢朗, 西野善一, 角川陽一郎, 大内憲明, 辻一郎, 南優子. 日本人女性における飲酒、喫煙と乳がん罹患リスク. 第70回日本癌学会; 2011 Oct 3-5; 名古屋.
137. 丹治史也, 柿崎真沙子, 菅原由美, 渡邊生恵, 中谷直樹, 西野善一, 南優子, 深尾彰, 辻一郎. パーソナリティと全死因死亡リスクに関する前向きコホート研究: 宮城コホート研究. 第21回日本疫学会; 2011 Jan 21-22; 札幌.
138. 西野善一, 南優子. 母乳の授受と子宮体がんリスク. 第21回日本疫学会; 2011 Jan 21-22; 札幌.
139. 角川陽一郎, 深町佳世子, 西野善一, 河合賢朗, 南優子. やせ、肥満と乳がんの予後との関連. 第20回日本乳癌学会; 2012 June 28-30; 熊本.
140. 河合賢朗, 角川陽一郎, 西野善一, 南優子. 身長、体重、BMIと内分泌受容体別乳がん罹患リスクの症例対照研究. 第71回日本癌学会; 2012 Sept 19-21; 札幌.
141. 河合賢朗, 西野善一, 南優子. 家族歴・肥満度と胃がんの予後との関連. 第22回日本疫学会; 2012 Jan 26-28; 東京.
142. 河合賢朗, 南優子, 西野善一, 深町佳世子, 大内憲明, 角川陽一郎. 内分泌受容体別 Reproductive factor と乳がん罹患リスクの症例対照研究. 第20回日本乳癌学会; 2012 June 28-30; 熊本.
143. 関貴子, 南優子. 都道府県別男女別肺がん死亡率と環境要因(喫煙、大気汚染、栄養素摂取)との関連. 第71回日本公衆衛生学会; 2012 Oct 24-26; 山口.
144. 角川陽一郎, 西野善一, 濱中洋平, 河合賢朗, 南優子. 喫煙習慣と乳癌の予後との関連. 第21回日本乳癌学会; 2013 June 27-29; 浜松.
145. 西野善一, 河合賢朗, 南優子. 喫煙と組織型別肺がん罹患リスクに関する症例対照研究. 第72回日本癌学会; 2013 Oct 3-5; 横浜.
146. 西野善一, 角川陽一郎, 河合賢朗, 南優子. トリプルネガティブ乳癌の危険因子の検討. 第23回日本疫学会; 2013 Jan 24-26; 大阪.

【成人看護学分野】

147. 伊藤美智子, 菊地史子, 江口美知子, 千葉育子, 赤間和子. 家族による東北大学病院緩和ケアセンター利用満足度と看護師自身のケア評価の比較. 第23回日本がん看護学会学術集会; 2009 Feb 7-8; 沖縄.
148. 伊藤美智子, 齋藤明美, 赤間和子, 菊地史子. 終末期にある患者のケアに対する看護師の葛藤への対策～作業補助を求める患者に対するチームの対応～. 第14回東北緩和医療研究会(総会); 2010 Oct 16; 山形.
149. 柏倉栄子, 佐藤富美子, 菊地史子. 成人看護学実習における看護技術の到達目標と学生自己評の比較. 第20回日本看護学教育学会学術集会; 2010, Aug 31-Sept 1; 大阪.
150. 佐藤富美子, 柏倉栄子, 菊地史子. 成人看護学実習において「がん看護」を経験した学生の実習目標に対する自己評価. 第20回日本看護学教育学会学術集会; 2010, Aug, 31 - Sept 1; 大阪.

151. 柏倉栄子, 佐藤富美子, 佐藤菜保子, 菊地史子. 成人看護学実習における周手術期看護を経験した学生の実習目標に対する自己評価. 第 21 回日本看護学教育学会学術集会; 2011 Aug 30-31; さいたま.
152. 佐藤典子, 佐藤しのぶ, 菊地淳子, 齋藤明美, 菊池愛, 佐々木知子, 菊地史子. 緩和ケア病棟で終末期リハビリテーションを行っている患者に関わる家族の思い. 第 15 回東北緩和医療研究会 (総会); 2011, Sep, 23; 青森
153. 嶋育子, 菊地史子, 伊藤美智子, 中條庸子, 赤間和子. 緩和ケアセンターに従事する看護師のエンゼルケアに対する意識. 第 25 回日本がん看護学会学術集会; 2011 Feb 12-13; 神戸.
154. 齋藤明美, 佐藤しのぶ, 菊池愛, 佐藤典子, 菊地淳子, 佐々木知子, 菊地史子. 緩和ケア病棟の患者の家族が患者の変化から『終末期』を意識するとき—終末期リハビリテーション実施患者の家族を対象に—. 第 26 回日本がん看護学会学術集会; 2012 Feb 11-12; 松江.
155. 菊池愛, 佐藤しのぶ, 齋藤明美, 佐藤典子, 穀田知秋, 菊地史子, 佐々木知子. 緩和ケア病棟で家族が終末期を意識した後の気持ちの変化—終末期リハビリテーション実施患者の家族を対象に—. 第 27 回日本がん看護学会学術集会; 2013 Feb 16-17; 金沢.
156. 瀧田好恵, 我妻崇史, 菅原真実, 柴田弘子, 菊地史子. 一般病棟における看取り教育に関する指導者の困難感. 第 44 回日本看護学会 看護教育学術集会; 2013 Oct 9-10; さいたま.

【がん看護学分野】

157. 佐藤大介, 佐藤富美子. 前立腺全摘除術後 1 年以内にある患者の機能障害への対処行動と QOL との関連. 第 28 回日本看護科学学会学術集会; 2008 Dec 13-14; 福岡.
158. 佐藤富美子. 乳がん体験者の術後上肢機能障害に対する主観的認知と客観的評価の関連. 第 28 回日本看護科学学会学術集会; 2008 Dec 13-14; 福岡.
159. 長谷川直人, 佐藤富美子, 佐藤大介. 慢性病者の生活を理解する教育方法の検討. 第 39 回日本看護学会—看護教育; 2008 Aug; 岐阜.
160. 伊藤直子, 佐藤和佳子, 佐藤富美子. 療養病棟における経管栄養者の頸部関節可動域と意識障害度および ADL との関連. 日本老年看護学会第 14 回学術集会; 2009 Sep 26-27; 札幌.
161. 佐藤大介, 佐藤富美子. 前立腺全摘除術を受けた患者の術後機能障害と対処行動との関連. 第 23 回日本がん看護学会学術集会; 2009 Feb 7-8; 沖縄.
162. 佐藤菜保子, 小澤信義, 金澤素, 福土審. 肥満妊婦の妊娠リスク認知と行動に関する研究. 第 1 回日本心身医学会 5 学会合同集会; 2009 June 6-7; 東京.
163. 佐藤富美子. 術後 1 年までの乳がん体験者の上肢機能障害と生活および治療との関連. 第 23 回日本がん看護学会学術集会; 2009 Feb 7-8; 沖縄.
164. 佐藤富美子. 乳がん体験者の上肢機能障害予防改善に向けた介入プログラム試案の内容妥当性の検討. 第 29 回日本看護科学学会学術集会; 2009 Nov 27-28; 幕張.
165. 高橋麻美, 佐藤富美子. 乳がん体験者の代替療法取り入れの実態と影響要因. 第 23 回日本がん看護学会学術集会; 2009 Feb 7-8; 沖縄.
166. 千田寛子, 佐藤和佳子, 佐藤富美子. 要支援・要介護 1 の居宅高齢者の痛みの実態—ADL, 日常生活動作効力感, IADL, 社会関連性との関連. 第 29 回日本看護科学学会学術集会; 2009 Nov 27-28; 幕張.
167. 吉田真由子, 佐藤富美子. 乳がん体験者が認知する術後後遺症と更年期症状の関連. 第 23 回日本がん看護学会学術集会; 2009 Feb 7-8; 沖縄.
168. 柏倉栄子, 佐藤富美子, 菊地史子. 成人看護学実習における看護技術の到達目標と学生自己評価の比較. 第 20 回日本看護学教育学会学術集会; 2010 Sept 31- Aug 1; 大阪.
169. 佐藤菜保子, 小澤信義, 金澤素, 福土審. 過敏性腸症候群 (IBS) が出産アウトカムに与える影響. 第 71 回日本心身医学会東北地方会; 2010 Sept; 山形.
170. 佐藤富美子, 柏倉栄子, 菊地史子. 成人看護学において「がん看護」を経験した学生の実習目標に対する自己評価. 第 20 回日本看護学教育学会学術集会; 2010 Sept 31- Aug 1; 大阪.
171. 佐藤富美子. 乳がん術後上肢機能障害予防改善に向けた介入プログラムの上肢機能とセルフケア達成度による有効性の検討. 第 30 回日本看護科学学会学術集会; 2010 Dec 3-4; 札幌.

172. 佐藤富美子. 乳がん体験者の術後上肢機能障害に対する主観的認知および客観的評価と苦痛度との関連. 第 24 回日本がん看護学会学術集会; 2010 Feb 13-14; 静岡.
173. 新幡智子, 的場典子, 和田恵美子, 雄西智恵美, 菊地美香, 国府浩子, 小原泉, 酒井禎子, 佐藤富美子ほか. 「がん患者の語りデータベース」の看護学生に対する教育的活用の可能性. 第 25 回日本がん看護学会学術集会; 2011 Feb 12-13; 神戸.
174. 柏倉栄子, 佐藤富美子, 佐藤菜保子, 菊地史子. 成人看護学実習における周手術期看護を経験した学生の実習目標に対する自己評価. 日本看護学教育学会第 21 回学術集会; 2011 Aug 30-31; さいたま.
175. 佐々木理衣, 佐藤富美子, 柏倉栄子. 初発乳がん術後化学療法を受ける患者の気付きとソーシャル・サポートの関連. 第 25 回日本がん看護学会学術集会; 2011 Feb 12-13; 神戸.
176. 佐藤富美子, 熊谷祐子, 高橋公子, 鈴木浩美. 看護大学教員・看護師を対象としたフィジカル・アセスメント教育前後のアセスメント習得度自己評価の比較. 日本看護学教育学会第 21 回学術集会; 2011 Aug 30-31; さいたま.
177. 佐藤富美子, 石田孝宜, 大内憲明. 乳がん体験者の手術後 3 か月までの QOL に関する縦断的研究. 第 19 日本乳癌学会学術総会; 2011 Sept 2-4; 仙台.
178. 佐藤富美子, 柏倉栄子. 乳がん体験者の手術後 3 か月までの上肢障害に関する縦断的研究. 第 7 回日本クリティカルケア看護学会学術集会; 2011 June 25-26; 横浜.
179. 佐藤富美子. 乳がん術後上肢機能障害予防改善に向けた介入プログラムの QOL による有効性の検討. 第 25 回日本がん看護学会学術集会; 2011 Feb 12-13; 神戸.
180. 佐藤富美子. 乳がん体験者の上肢機能障害予防に向けた介入プログラムの術後 6 か月までの上肢機能による有効性の検討. 第 31 回日本看護科学学会学術集会; 2011 Dec 2-3; 高知.
181. 佐藤富美子. 乳がん体験者の上肢機能障害予防改善に向けた介入プログラムの術後 6 か月までの上肢機能による有効性の検討. 第 31 回日本看護科学学会学術集会; 2011 Dec 2-3; 高知.
182. 青木咲奈枝, 佐藤富美子, 柏倉栄子, 佐藤菜保子. がん患者の外来放射線療法による有害事象の苦痛度とクオリティ・オブ・ライフの関連. 第 26 回日本がん看護学会学術集会; 2012 Feb 11-12; 松江.
183. 佐々木彩加, 佐藤菜保子, 鈴木直輝, 金澤素, 青木正志, 福土審. コルチコトロピン放出ホルモン関連遺伝子における一塩基多型と過敏性腸症候群との関連. 第 74 回日本心身医学会東北地方会; 2012 Feb; 仙台.
184. 佐々木彩加, 佐藤菜保子, 鈴木直輝, 金澤素, 青木正志, 福土審. 過敏性腸症候群におけるコルチコトロピン放出ホルモン関連遺伝子多型. 第 3 回 Japan Gut Forum; 2012 Nov 24; 東京.
185. 佐藤富美子, 柏倉栄子, 石田孝宜, 大内憲明. 乳がん体験者の術後 3 か月までの患側上肢肩関節可動域の回復に関する縦断的研究. 第 20 日本乳癌学会学術総会; 2012 June 28-30; 熊本.
186. 佐藤富美子. 乳がん術後 6 か月までの上肢機能障害予防に向けた介入の効果. 第 26 回日本がん看護学会学術集会; 2012 Feb 11-12; 松江.
187. 佐藤富美子. 乳がん体験者の術後 1 年までの上肢機能障害予防に向けたセルフケア支援の効果. 第 32 回日本看護科学学会学術集会; 2012 Nov 30 - Dec 1; 東京.
188. 成沢香織, 佐藤富美子, 柏倉栄子, 佐藤菜保子. がん患者の分子標的治療薬の苦痛度に影響する要因. 第 32 回日本看護科学学会学術集会; 2012 Nov 30 - Dec 1; 東京.
189. 浦山美輪, 佐藤富美子, 早川ひと美, 岡村由紀子, 佐々木百合花, 庄子由美, 門間典子, 小山田信子, 亀岡淳一. 看護師の看護学生を対象とした看護セミナーによる看護 GP 事業「教育指導者育成プログラム」の評価. 第 44 回日本看護学会 看護教育学術集会; 2013 Oct 9-10; さいたま.
190. 岡村由紀子, 小山田信子, 佐藤富美子, 亀岡淳一, 浦山美輪, 佐々木百合花, 早川ひと美, 庄子由美, 門間典子. 共通シナリオを用いたクリティカルケア看護 実践能力客観的評価. 第 44 回日本看護学会 看護教育学術集会; 2013 Oct 9-10; さいたま.
191. 佐々木彩加, 佐藤菜保子, 鈴木直輝, 金澤素, 青木正志, 福土審. 過敏性腸症候群における副腎皮質刺激ホルモン放出ホルモン関連遺伝子. 第 76 回日本心身医学会東北地方会; 2013 Feb; 仙台.

192. 佐藤菜保子, 高木清司, 鈴木貴, 三木康宏, 割田仁, 福土審, 佐藤富美子, 八重樫伸夫, 伊藤潔. ヒト子宮内膜癌における CRH 発現と予後の関連. 第 51 回日本癌治療学会学術集会; 2013 Oct 24-26; 京都.
193. 佐藤富美子, 柏倉栄子, 石田孝宜, 大内憲明. 術後 1 年における乳がん体験者の患側上肢機能とセルフケアの関連. 第 21 日本乳癌学会学術総会; 2013 June 27-29; 浜松.
194. 佐藤富美子, 柏倉栄子, 佐藤菜保子. 乳がん術後 2 年までの上肢機能障害予防改善に向けた介入の効果. 第 33 日本看護科学学会学術集会; 2013 Dec 6-7; 大阪.
195. 佐藤富美子. 新人看護師の看護基礎教育におけるフィジカル・アセスメントの学習経験と継続教育の検討. 日本看護学教育学会第 23 回学術集会; 2013 Aug 19; 仙台.
196. 成沢香織, 佐藤富美子, 柏倉栄子, 佐藤菜保子. 外来で分子標的治療を受ける患者の症状体験と QOL の関連. 第 27 回日本がん看護学会学術集会; 2013 Feb 16-17; 金沢.
197. 早川ひと美, 佐々木百合花, 浦山美輪, 岡村由紀子, 佐藤富美子, 小山田信子, 亀岡淳一, 庄子由美, 門間典子. 学生対象セミナーの企画・運営による学びを臨床現場で活用するための支援. 第 44 回日本看護学会-看護管理-学術集会; 2013 Sep 19; 大阪.

【緩和ケア看護学分野】(2009 年 10 月以降)

198. 大島佐和子, 伊藤美智子, 舩水裕子, 宮下光令, 梅内美保子. 緩和ケア認定看護師の職務満足度とバーンアウト度に影響を与える要因. 第 40 回日本看護学会-看護管理-学術集会; 2009 Oct 21-22; 大阪.
199. 加藤大基, 宮下光令, 川上祥子, 中野貴美子, 中川恵一. がん患者、一般市民、がん医療に携わる医師・看護師の「死生観」に関する認識. 第 47 回日本癌治療学会学術集会; 2009 Oct 22-24; 横浜.
200. 坂口幸弘, 森田達也, 宮下光令, 佐藤一樹, 恒藤暁, 志真泰夫. ホスピス・緩和ケア病棟で近親者を亡くした遺族の複雑性悲嘆、抑うつ、希死念慮: J-HOPE study. 第 22 回日本サイコオンコロジー学会総会; 2009 Oct 1-2; 広島.
201. 中野貴美子, 宮下光令, 恒藤暁, 志真泰夫. 緩和ケア病棟のがん患者の遺族の医療用麻薬に対する認識: J-HOPE study. 第 33 回日本死の臨床研究会年次大会; 2009 Nov 7-8; 名古屋.
202. 宮下光令, 加藤大基, 川上祥子, 中野貴美子, 中川恵一. がん患者、一般市民、医師、看護師の「望ましい死」のあり方に関する認識. 第 47 回日本癌治療学会学術集会; 2009 Oct 22-24; 横浜.
203. 宮下光令, 梅田恵, 許山美和. 全国のがん診療連携拠点病院の緩和ケア機能の充足度. 第 33 回日本死の臨床研究会年次大会; 2009 Nov 7-8; 名古屋.
204. 牟田理恵子, 宮下光令, 若林理恵子, 安藤悦子, 恒藤暁. 緩和ケア病棟で家族を亡くした遺族の死別後の支え -遺族への面接調査から-. 第 33 回日本死の臨床研究会年次大会; 2009 Nov 7-8; 名古屋.
205. 秋山美紀, 武林亨, 平井啓, 的場元弘, 森田達也, 宮下光令, 山岸暁美, 白髭豊, 秋月伸哉, 江口研二. 地域で療養生活を送ることに関する患者、家族の安心感とその要因: OPTIM-study. 第 15 回日本緩和医療学会学術集会; 2010 June 18-19; 東京.
206. 安藤満代, 森田達也, 宮下光令, 三條真紀子, 志真泰夫. 緩和ケア病棟で家族を亡くされた遺族へのスピリチュアルケアとしての短期回想法の質的分析. 第 22 回日本サイコオンコロジー学会総会; 2010 Sept 24-25; 名古屋.
207. 石井容子, 宮下光令, 佐藤一樹, 小澤竹俊. 「遺族からみた終末期がん患者の家族介護者の困難感尺度の開発と関連要因の探索」. 第 15 回日本緩和医療学会学術集会; 2010 June 18-19; 東京.
208. 石井容子, 宮下光令, 山岸暁美, 角田直枝. 訪問看護師への在宅看取り強化プログラムの評価尺度の作成とその関連要因. 第 15 回日本緩和医療学会学術集会; 2010 June 18-19; 東京.
209. 石井容子, 宮下光令, 小澤竹俊, 佐藤一樹. 遺族・在宅医療従事者からみた、終末期に在宅療養するがん患者の家族介護者が抱える困難に関する質的研究. 第 24 回日本がん看護学会学術集会; 2010 Feb 13-14; 静岡.
210. 大石和子, 米田登志子, 長岡優子, 直海慶子, 森山節子, 宮下光令. 白内障手術を受ける患者に対するしおりとビデオの有効性の調査. 日本看護学会 老年看護; 2010 Sept 10-11; 奈良.

211. 木澤義之, 宮下光令, 佐藤一樹, 森田達也, 江口研二. 地域の医療機関に勤務する医師の緩和ケアに関する知識・実践・困難感は? がん対策のための戦略研究『緩和ケア普及のための地域プロジェクト』介入前調査から: OPTIM-study. 第 15 回日本緩和医療学会学術集会; 2010 June 18-19; 東京.
212. 木下里美, 宮下光令. 集中治療室 (ICU) で死を迎えたがん患者の遺族による医療・ケアの評価: 一般市民への調査結果から. 第 30 回日本看護科学学会学術集会; 2010 Dec 3-4; 札幌.
213. 木下里美, 宮下光令. 集中治療室で死を迎えた患者の背景と療養生活の評価〜一般集団から抽出した遺族の評価から. 第 15 回日本緩和医療学会学術集会; 2010 June 18-19; 東京.
214. 古村和恵, 山岸暁美, 森田達也, 宮下光令, 秋月伸哉, 白髭豊, 秋山美紀, 佐藤一樹, 加藤雅志, 江口研二. 進行がん患者および遺族は在宅医療について「急な変化や夜間に対応できない」「病院と同じように苦痛を和らげられる」と思っているか?: OPTIM-study による多施設調査. 第 15 回日本緩和医療学会学術集会; 2010 June 18-19; 東京.
215. 佐藤一樹, 宮下光令, 五十嵐歩, 梅田恵, 石ヶ森一枝, 木澤義之, 秋山美紀, 秋月伸哉, 森田達也, 白髭豊, 江口研二. 地域の医療機関に勤務し, がん患者をケアする看護師の緩和ケアに関する知識, 実践, 困難感の実態とその関連要因: OPTIM-study. 第 15 回日本緩和医療学会学術集会; 2010 June 18-19; 東京.
216. 佐藤一樹, 宮下光令, 森田達也, 恒藤暁, 志真泰夫. 緩和ケア病棟で提供された終末期がん医療の実態に関する多施設調査: J-HOPE-study. 第 15 回日本緩和医療学会学術集会; 2010 June 18-19; 東京.
217. 佐藤一樹, 宮下光令, 森田達也, 恒藤暁, 志真泰夫. 全国の緩和ケア病棟と在宅ケア施設で終末期がん患者に提供された輸液療法の実態: 多施設診療記録調査. 第 14 回東北緩和医療研究会山形大会; 2010 Oct 16; 山形.
218. 三條真紀子, 塩崎麻里子, 吉田沙蘭, 森田達也, 宮下光令, 上別府圭子, 恒藤暁, 志真泰夫, 平井啓. ホスピス・緩和ケア病棟への入院検討時の家族のつらさと望ましい支援に関する質的研究: 遺族への面接調査の結果から. 第 15 回日本緩和医療学会学術集会; 2010 June 18-19; 東京.
219. 三條真紀子, 宮下光令, 森田達也, 栗原幸江, 出野美那子, 恒藤暁, 志真泰夫, 平井啓. 「終末期がん患者の家族が大事にしたいと思うこと」の構成要素: 家族と遺族を対象とした面接調査の結果から. 第 15 回日本緩和医療学会学術集会; 2010 June 18-19; 東京.
220. 三條真紀子, 宮下光令, 森田達也, 栗原幸江, 上別府圭子, 平井啓. 「終末期がん患者の家族が大事にしたいと思うこと」の概念化: 一般集団・遺族 1975 名を対象とした全国調査の結果から. 第 15 回日本緩和医療学会学術集会; 2010 June 18-19; 東京.
221. 三條真紀子, 宮下光令, 森田達也, 佐藤一樹, 上別府圭子, 恒藤暁, 志真泰夫. 終末期のがん患者を介護した遺族の介護経験の評価および健康関連 QOL: 7994 名の全国調査 J-HOPE Study. 第 15 回日本緩和医療学会学術集会; 2010 June 18-19; 東京.
222. 三條真紀子, 笹原朋代, 木村理恵子, 牟田理恵子, 木澤義之, 宮下光令. 終末期の療養場所を検討するがん患者の家族へのケアに関する基礎的研究: 緩和ケアに従事する医療者への面接調査の結果から. 第 15 回日本緩和医療学会学術集会; 2010 June 18-19; 東京.
223. 三條真紀子, 森田達也, 宮下光令, 佐藤一樹, 恒藤暁, 志真泰夫. 家族の視点からみた望ましい緩和ケアシステム: J-HOPE study. 第 15 回日本緩和医療学会学術集会; 2010 June 18-19; 東京.
224. 清水陽一, 宮下光令, 森田達也, 佐藤一樹, 恒藤暁, 志真泰夫. 遺族から見た死前喘鳴に対する望ましいケア: J-HOPE study. 第 15 回日本緩和医療学会学術集会; 2010 June 18-19; 東京.
225. 白土明美, 森田達也, 宮下光令, 赤澤輝和, 佐藤一樹, 恒藤暁, 志真泰夫. 「希望をもちながらも, 同時にこころ残りのないよう準備しておく」ために医師や看護師は何ができるのか: J-HOPE study. 第 15 回日本緩和医療学会学術集会; 2010 June 18-19; 東京.
226. 末田千恵, 山岸暁美, 森田達也, 宮下光令, 森田達也, 秋月伸哉, 白髭豊, 秋山美紀, 佐藤一樹, 加藤雅志, 江口研二. がん患者の遺族は, どのくらい介護負担を感じているのか?: OPTIM-study による多施設調査. 第 15 回日本緩和医療学会学術集会; 2010 June 18-19; 東京.

227. 竹之内沙弥香, 宮下光令, 木澤義之, 田村恵子. 看護師に対する End-of-Life の教育に関する指導者講習会の評価尺度の開発と ELNEC-J 指導者養成プログラムの評価. 第 15 回日本緩和医療学会学術集会; 2010 June 18-19; 東京.
228. 武林亨, 秋山美紀, 平井啓, 的場元弘, 森田達也, 宮下光令, 山岸暁美, 秋月伸哉, 白髭豊, 江口研二. 緩和ケア・医療用麻薬に関する患者・家族の知識とケアの質評価尺度および緩和ケアの準備状態との関連: OPTIM-study. 第 15 回日本緩和医療学会学術集会; 2010 June 18-19; 東京.
229. 五十嵐歩, 森田達也, 宮下光令, 佐藤一樹, 秋山美紀, 秋月伸哉, 白髭豊, 江口研二. 終末期がん患者における死亡場所と死亡前の療養場所の特徴: OPTIM-study. 第 15 回日本緩和医療学会学術集会; 2010 June 18-19; 東京.
230. 中野貴美子, 佐藤一樹, 宮下光令, 片山はるみ. 終末期がん患者が「楽しみになることがある」ための医療者の支援のあり方—緩和ケア病棟の医師・看護師を対象としたエキスパート・インタビュー調査—. 第 15 回日本緩和医療学会学術集会; 2010 June 18-19; 東京.
231. 中澤葉宇子, 木澤義之, 森田達也, 笹原朋代, 宮下光令, 橋爪隆弘, 志真泰夫. がん診療連携拠点病院緩和ケアチームのコンサルテーション活動に関する実態調査. 第 15 回日本緩和医療学会学術集会; 2010 June 18-19; 東京.
232. 早川ひと美, 門間典子, 佐々木百合花, 平野かよ子, 宮下光令, 朝倉京子, 岡村由紀子, 吉沢豊子, 菅原美知子. 看護キャリアプロモート支援システム開発におけるニーズ調査報告—看護職のキャリアに関する認識について 第 1 報. 第 14 回日本看護管理学会年次大会; 2010 Aug 20-21; 横浜.
233. 平井啓, 秋山美紀, 武林亨, 的場元弘, 宮下光令, 森田達也, 白髭豊, 秋月伸哉, 江口研二. がん患者と遺族の緩和ケアに対する認識と準備性 OPTIM-study. 第 15 回日本緩和医療学会学術集会; 2010 June 18-19; 東京.
234. 船水裕子, 大島佐和子, 伊藤美智子, 苅安真佐美, 安藤秀明, 宮下光令. 緩和ケア認定看護師の職場環境と活動状況に対する職務満足度とバーンアウト度について. 第 15 回日本緩和医療学会学術集会; 2010 June 18-19; 東京.
235. 船水裕子, 大島佐和子, 伊藤美智子, 宮下光令, 安藤秀明. 緩和ケア認定看護師の職務満足度とバーンアウトに関連する職場環境要因. 第 24 回日本がん看護学会学術集会; 2010 Feb 13-14; 静岡.
236. 宮下光令, 森田達也, 井上聡, 市川堯之, 佐藤一樹, 志真泰夫, 内富庸介. 「緩和ケアの質の臨床指標(Quality Indicator)」は遺族から見て妥当なのか? 緩和ケア病棟の遺族に対する質問紙調査から. 第 15 回日本緩和医療学会学術集会; 2010 June 18-19; 東京.
237. 宮下光令, 森田達也, 佐藤一樹, 五十嵐歩, 秋山美紀, 秋月伸哉, 白髭豊, 江口研二. 地域の病院(一般病棟, 緩和ケア病棟), 診療所のがん患者の遺族による緩和ケアの質の評価: OPTIM-study. 第 15 回日本緩和医療学会学術集会; 2010 June 18-19; 東京.
238. 宮下光令, 森田達也, 秋山美紀, 秋月伸哉, 白髭豊, 江口研二. がん医療に対する安心感尺度の作成と関連要因: OPTIM-study. 第 15 回日本緩和医療学会学術集会; 2010 June 18-19; 東京.
239. 宮下光令, 森田達也, 内田健夫, 加藤雅志, 江口研二. 日本の医師 97,961 人に対する緩和ケアに関する知識の実態調査. 第 15 回日本緩和医療学会学術集会; 2010 June 18-19; 東京.
240. 宮下光令, 石井容子, 山岸暁美, 角田直枝. 訪問看護師を対象とした全国的な在宅看取り強化プログラムの評価. 第 15 回日本緩和医療学会学術集会; 2010 June 18-19; 東京.
241. 宮下光令, 東尚弘, 森田達也, 祖父江友孝. 診療記録から抽出する緩和ケアにおける診療の質の管理評価指標群(Quality Indicator)の作成と測定. 第 15 回日本緩和医療学会学術集会; 2010 June 18-19; 東京.
242. 宮下光令, 平井啓, Ji Eun Choi, 森田達也, 佐藤一樹, 恒藤暁, 志真泰夫. 在宅ホスピスケアを受けたがん患者の遺族の在宅療養開始時の意思決定過程: J-HOPE-Study. 第 15 回日本緩和医療学会学術集会; 2010 June 18-19; 東京.
243. 宮下光令, 和田信, 森田達也, 的場元弘, 恒藤暁, 志真泰夫. がん患者に対する緩和ケアの構造・プロセスを評価する尺度(患者版 Care Evaluation Scale)の信頼性と妥当性の検討. 第 15 回日本緩和医療学会学術集会; 2010 June 18-19; 東京.
244. 宮下光令, 和田信, 森田達也, 的場元弘, 恒藤暁, 志真泰夫. がん患者に対する包括的 QOL を測定する尺度の信頼性と妥当性の検討. 第 15 回日本緩和医療学会学術集会; 2010 June 18-19; 東京.

245. 宮下光令, 恒藤暁, 志真泰夫. 緩和ケア病棟で死亡した遺族の「緩和ケア」に対するイメージ: J-HOPE study. 第 34 回日本死の臨床研究会年次大会; 2010 Nov 6-7; 盛岡.
246. 宮下光令, 佐藤一樹, 志真泰夫. 緩和ケア病棟で死亡したがん患者の遺族の、緩和ケア病棟に対するイメージの入棟前後の変化. 第 24 回日本がん看護学会学術集会; 2010 Feb 13-14; 静岡.
247. 宮下光令, 佐藤一樹, 森田達也, 恒藤暁, 志真泰夫. J-HOPE study における東北地域の緩和ケア病棟に対する遺族による質の評価の特徴. 第 14 回東北緩和医療研究会山形大会; 2010 Oct 16; 山形.
248. 宮下光令, 川上祥子, 加藤大基, 中野貴美子, 中川恵一. 放射線科外来がん患者の「望ましい死」に関する認識の変化: 1 年半のコホート追跡研究. 第 48 回日本癌治療学会学術大会; 2010 Oct 28-30; 京都.
249. 宮内貴子, 宮下光令, 山口拓洋. 無作威為化クロスオーバー試験による進行期がん患者の倦怠感に対するリフレクソロジーの有効性の検討. 第 15 回日本緩和医療学会学術集会; 2010 June 18-19; 東京.
250. 牟田理恵子, 三條真紀子, 宮下光令, 若林理恵子, 安藤悦子, 森田達也, 恒藤暁, 志真泰夫. 緩和ケア病棟の遺族は追悼会や死別後の手紙をどうとらえているか?: 44 名のインタビュー調査. 第 15 回日本緩和医療学会学術集会; 2010 June 18-19; 東京.
251. 山岸暁美, 森田達也, 宮下光令, 秋月伸哉, 白髭豊, 秋山美紀, 佐藤一樹, 加藤雅志, 江口研二. 外来進行がん患者の疼痛と Quality of Life に関する多施設調査: OPTIM-study. 第 15 回日本緩和医療学会学術集会; 2010 June 18-19; 東京.
252. 和田信, 宮下光令, 森田達也, 志真泰夫, 恒藤暁, 和田知未, 和田芽衣, 石田真弓, 佐々木康綱, 奈良林至, 大西秀樹. EORTC-QLQ-C15PAL 日本語版の信頼性と妥当性の検討. 第 15 回日本緩和医療学会学術集会; 2010 June 18-19; 東京.
253. 和田信, 宮下光令, 森田達也, 志真泰夫, 恒藤暁, 和田知未, 和田芽衣, 石田真弓, 大西秀樹, 奈良林至, 佐々木康綱. 新規抗がん薬第一相臨床試験に関する患者心理の研究. 第 15 回日本緩和医療学会学術集会; 2010 June 18-19; 東京.
254. 市原香織, 宮下光令, 田村恵子, 葉山有香, 大石ふみ子. Liverpool Care Pathway 日本語版による看取りのケアの目標達成: 況;緩和ケア病棟 2 施設におけるパイロットスタディからの検討. 第 25 回日本がん看護学会学術集会; 2011 Feb 12-13; 神戸.
255. 市原香織, 宮下光令, 福田かおり, 茅根義和, 清原恵美, 森田達也, 田村恵子, 葉山有香, 大石ふみ子. 緩和ケア病棟看護師による Liverpool Care Pathway 日本語版の有用性評価: 緩和ケア病棟 2 施設におけるパイロットスタディからの検討. 第 16 回日本緩和医療学会学術大会; 2011 July 29-30; 札幌.
256. 佐藤一樹, 宮下光令, 志真泰夫. 在宅緩和ケアで終末期がん患者に提供された医療: 診療記録調査. 第 25 回日本がん看護学会学術集会; 2011 Feb 12-13; 神戸.
257. 佐藤一樹, 宮下光令, 森田達也, 恒藤暁, 志真泰夫. 緩和ケア病棟で提供された終末期鎮静の関連要因と遺族による緩和ケアの質評価への影響. 第 16 回日本緩和医療学会学術大会; 2011 July 29-30; 札幌.
258. 三條真紀子, 宮下光令, 川上祥子, 加藤大基, 中野貴美子, 中川恵一. 終末期に希望する余命告知の方法~がん患者、一般集団、がん診療を行う医師、看護師 1965 名を対象とした調査から~. 第 16 回日本緩和医療学会学術大会; 2011 July 29-30; 札幌.
259. 三條真紀子, 宮下光令, 川上祥子, 加藤大基, 中野貴美子, 中川恵一. 終末期に希望する療養場所と死亡場所~がん患者、一般集団、がん診療を行う医師、看護師 1965 名を対象とした調査から~. 第 16 回日本緩和医療学会学術大会; 2011 July 29-30; 札幌.
260. 清水恵, 宮下光令, 白井由紀, 吉田沙蘭, 恒藤暁, 志真泰夫. 緩和ケア病棟における医療者・家族間の説明/話し合いのあり方. 第 16 回日本緩和医療学会学術大会; 2011 July 29-30; 札幌.
261. 宮下光令, 佐藤一樹, 森田達也, 恒藤暁, 志真泰夫. J-HOPE study における遺族による緩和ケアの質評価とそれに関連する施設要因. 第 16 回日本緩和医療学会学術大会; 2011 July 29-30; 札幌.
262. 宮下光令, 佐藤一樹, 森田達也, 恒藤暁, 志真泰夫. 緩和ケア病棟の遺族による質の評価は死亡後の経過期間の影響を受けるか?: J-HOPE study. 第 16 回日本緩和医療学会学術大会; 2011 July 29-30; 札幌.

263. 宮下光令, 三條真紀子. 大学病院でがん診療を行う医師、看護師の余命告知の方法に関する認識. 第 25 回日本がん看護学会学術集会; 2011 Feb 12-13; 神戸.
264. 宮下光令, 森田達也, 佐藤一樹, 恒藤暁, 志真泰夫. 緩和ケア病棟の遺族の「医療用麻薬」「緩和ケア」「緩和ケア病棟」に対する認識の関連要因: J-HOPE study. 第 16 回日本緩和医療学会学術大会; 2011 July 29-30; 札幌.
265. 宮下光令, 清水恵, 安藤秀明. 一般病棟通院中, 外来化学療法室通院中, 入院中の患者に対する緩和ケアの質の評価. 第 16 回日本緩和医療学会学術大会; 2011 July 29-30; 札幌.
266. 宮下光令, 木澤義之, 笹原朋代, 佐治重豊, 江口研二. がん診療連携拠点病院の緩和ケア機能の充足度: 平成 19-21 年度医療水準調査の結果. 第 16 回日本緩和医療学会学術大会; 2011 July 29-30; 札幌.
267. 泉澤晴香, 深堀浩樹, 遠藤貴子, 宮下光令. Liverpool Care Pathway の介護保険施設職員による試用とその評価. 日本老年看護学会第 17 回学術集会; 2012 July; 金沢.
268. 亀岡淳一, 宮下光令, 小熊絵美, 高橋文恵, 田中克典, 石井誠一, 金塚完. アウトカム評価としての診療録ピアレビューシステムの信頼性の検討. 第 44 回日本医学教育学会; 2012 July 27-28; 東京.
269. 菅野雄介, 原田奈緒美, 伊藤友美, 西出芙美, 森岡のぞみ, 田村恵子, 宮下光令. 急性期型緩和ケア病棟から自宅退院した終末期がん患者の平均在院日数に関連する要因. 第 17 回日本緩和医療学会学術大会; 2012 June 22-23; 神戸.
270. 木下里美, 宮下光令. QODD (Quality of Dying and Death)による ICU 看護師の看取りの評価. 第 32 回日本看護科学学会学術集会; 2012 Nov 30 - Dec 1; 東京.
271. 後藤佳子, 舩水裕子, 宮下光令, 菅野雄介. 急性期病棟における LCP 導入後の看取りのケアの変化と課題. 第 36 回日本死の臨床研究会年次大会; 2012 Sep; 京都.
272. 佐藤一樹, 宮下光令, 森田達也, 嶋崎朱美, 鈴木里奈, 恒藤暁, 志真泰夫. 緩和ケア病棟で提供される終末期がん医療の施設間差と施設背景の関連: 多施設診療記録調査. 第 17 回日本緩和医療学会学術大会; 2012 June 22-23; 神戸.
273. 佐藤一樹, 宮下光令, 森田達也, 鈴木里奈, 嶋崎朱美, 恒藤暁, 志真泰夫. 緩和ケア病棟で提供される終末期がん医療の施設間差による緩和ケアの質評価への影響. 第 17 回日本緩和医療学会学術大会; 2012 June 22-23; 神戸.
274. 佐藤一樹, 森田達也, 清水恵, 宮下光令. 患者によるがん医療の質の構造・プロセス評価尺度 Cancer Care Evaluation Scale の開発. 第 50 回日本癌治療学会学術集会; 2012 Oct 25-27; 横浜.
275. 佐藤一樹, 清水恵, 宮下光令. がん患者の QOL 評価尺度として EORTC QLQ-C30 と FACT-G のいずれの使用が推奨されるか. 第 50 回日本癌治療学会学術集会; 2012 Oct 25-27; 横浜.
276. 佐藤一樹, 中保利通, 田島つかさ, 島田哲, 花房裕紀, 宮下光令. 緩和ケア病棟に入院した患者による緩和ケアと QOL の評価. 第 16 回東北緩和医療研究会; 2012 Oct 13; 仙台.
277. 清水恵, 宮下光令. がん患者の療養生活の質の評価: モニター調査の結果より. 第 16 回東北緩和医療研究会; 2012 Oct 13; 仙台.
278. 清水恵, 宮下光令. 終末期がん患者の家族介護者の医療者との説明・話し合いにおける選好: 一般市民を対象とした全国質問紙調査. 第 17 回日本緩和医療学会学術大会; 2012 June 22-23; 神戸.
279. 白髭豊, 野田剛稔, 北條美能留, 後藤慎一, 富安志郎, 出口雅浩, 奥平定之, 安中正和, 平山美香, 宮下光令, 森田達也. OPTIM プロジェクト前後での病院から在宅診療への移行率と病院医師・看護師の在宅の視点の変化. 第 17 回日本緩和医療学会学術大会; 2012 June 22-23; 神戸.
280. 五十嵐美幸, 片倉梓, 佐藤一樹, 清水恵, 井上芙蓉子, 菅野雄介, 宮下光令. 一般市民から抽出したがん患者の遺族による終末期医療の評価: 死亡場所別の検討. 第 17 回日本緩和医療学会学術大会; 2012 June 22-23; 神戸.
281. 中川恵一, 黒田祐次郎, 北沢裕, 小谷みどり, 宮下光令, 一ノ瀬正樹. がん医療に携わる当事者の死生観研究 ~患者・医師・看護師の三者の比較の観点から~. 第 17 回日本緩和医療学会学術大会; 2012 June 22-23; 神戸.
282. 中野貴美子, 佐藤一樹, 片山はるみ, 宮下光令. 終末期がん患者が「明るさを失わずに過ごす」ための医療者の支援のあり方 -緩和ケア病棟の医師・看護師を対象としたエキスパート・インタビュー調査. 第 17 回日本緩和医療学会学術大会; 2012 June 22-23; 神戸.

283. 船水裕子, 後藤佳子, 宮下光令, 安藤秀明. 急性期病床における看取りのパス導入. 第 50 回日本癌治療学会学術集会; 2012 Oct 25-27; 横浜.
284. 松村優子, 八杉まゆみ, 菅野雄介, 宮下光令. 看取りのケアのクリニカルパス Liverpool Care Pathway 日本語版在宅バージョン試作版のパイロット使用経験. 第 36 回日本死の臨床研究会年次大会; 2012 Nov 3-4; 京都.
285. 檜柑富貴子, 宮下光令. 看護師が経験した「困難なターミナルケア内容」と克服のプロセス コミュニケーションに焦点を当てて. 第 36 回日本死の臨床研究会年次大会; 2012 Sep; 京都.
286. 御子柴直子, 宮下光令, 酒井智子, 建石良介. 肝細胞癌サバイバーの抑うつの実態及び抑うつに関連する要因検討. 第 50 回日本癌治療学会学術集会; 2012 Oct 25-27; 横浜.
287. 宮下光令, 加藤雅志, 清水恵, 佐藤一樹, 藤澤大介, 森田達也. 受療行動調査を用いて全国のがん患者の療養生活の質 (QOL) を測定するシステムの開発. 第 50 回日本癌治療学会学術集会; 2012 Oct 25-27; 横浜.
288. 宮下光令, 佐藤一樹, 清水恵, 菅野雄介, 五十嵐美幸, 菅野喜久子, 小野寺麻衣. 東北 6 県の医師の緩和ケアに関する知識: 全国との比較と県別の検討. 第 16 回東北緩和医療研究会; 2012 Oct 13; 仙台.
289. 宮下光令, 山田倫子, 高橋彩香, 和田信, 的場元弘. がん患者の疼痛と QOL の関連: 横断研究による検討. 第 17 回日本緩和医療学会学術大会; 2012 June 22-23; 神戸.
290. 宮下光令, 竹鼻靖子, 佐藤一樹, 清水恵, 井上芙蓉子, 菅野雄介, 五十嵐美幸. 一般市民から抽出したがん・脳卒中・心疾患の遺族による終末期医療の評価. 第 17 回日本緩和医療学会学術大会; 2012 June 22-23; 神戸.
291. 宮下光令, 國分彩果, 森田達也, 内田健夫, 加藤雅志, 江口研二. 日本の医師の緩和ケアに関する知識に関連する要因: 多変量解析による検討. 第 17 回日本緩和医療学会学術大会; 2012 June 22-23; 神戸.
292. 山花令子, 高橋聡, 塚田信弘, 宮下光令. The European Organization for Reserch and Treatment of Cancer (EORTC) Quality of Life Questionnaire-High dose Chemotherapy 20 (QLQ-HDC29) 日本語版の作成. 第 35 回日本造血細胞移植学会; 2012 Mar 9; 金沢.
293. 山本亮, 木澤義之, 佐藤哲観, 大出幸子, 中澤葉宇子, 宮下光令. PEACE 研修会受講により医師の緩和ケアに対する知識は向上するか. 第 17 回日本緩和医療学会学術大会; 2012 June 22-23; 神戸.
294. 山本亮, 木澤義之, 佐藤哲観, 中澤葉宇子, 宮下光令. PEACE 研修会において緩和ケアの知識を測定するための尺度 (PEACE-Q33) の作成と信頼性・妥当性の検討. 第 17 回日本緩和医療学会学術大会; 2012 June 22-23; 神戸.
295. 吉沢豊予子, 宮下光令, 深堀浩樹, 奈良間美保, 河野あゆみ, 柏木聖代, 跡上富美. 日本看護科学学会研究・学術情報委員会企画 日本看護科学学会は看護系若手研究者をどう育て・支援していくのか! 第 32 回日本看護科学学会学術集会; 2012 Nov 30 - Dec 1; 東京.
296. 五十嵐美幸, 宮下光令, 佐藤一樹, 清水恵, 川原礼子, 森田達也, 江口研二. がん患者の死亡場所に関連する要因 死亡票の分析. 第 18 回日本緩和医療学会学術大会; 2013 June 21-22; 横浜.
297. 伊藤恵子, 宮下光令, 佐藤一樹, 林章敏, 東尚弘, 渡辺敏, 鈴木正寛, 關本翌子, 中村めぐみ. 緩和ケア専門従事者の臨床現場の「質」評価に関する考察~「緩和ケア病棟臨床指標開発に関するパイロット調査」に付帯して実施したヒアリングから~. 第 18 回日本緩和医療学会学術大会; 2013 June 21-22; 横浜.
298. 閨間愛, 彦田由子, 宇田和晃, 宮越浩一, 関根龍一, 緒方政美, 内山郁代, 宮下光令, 森田達也. 客観的身体評価と主観的 QOL はリハビリ介入前後でどのように相関するか: J-REACT. 第 18 回日本緩和医療学会学術大会; 2013 June 21-22; 横浜.
299. 江口研二, 森田達也, 宮下光令. 地域におけるがん緩和ケア構築をめざして. 第 11 回日本臨床腫瘍学会学術集会; 2013 Aug 29-31; 仙台.
300. 緒方政美, 内山郁代, 閨間愛, 彦田由子, 宇田和晃, 宮越浩一, 関根龍一, 宮下光令, 森田達也. 進行がん患者の廃用症候群に対するリハビリテーションは QOL の維持に貢献している可能性がある: J-REACT. J-REACT. 第 18 回日本緩和医療学会学術大会; 2013 June 21-22; 横浜.

301. 亀岡淳一, 宮下光令, 大久保智哉, 小熊絵美, 高橋文恵, 石井誠一, 金塚完. アウトカム評価としての診療録ピアレビューシステムの信頼性の検討—第2報—. 第45回日本医学教育学会総会; 2013 July 26-27; 千葉.
302. 亀岡淳一, 宮下光令, 大久保智哉, 小熊絵美, 高橋文恵, 石井誠一, 金塚完. 医学教育アウトカム評価としての診療録ピアレビューシステムの信頼性の検討. 第15回日本医療マネジメント学会学術総会; 2013 June 14-15; 岩手.
303. 菅野雄介, 安藤秀明, 船水裕子, 岸野恵, 前原絵美理, 高橋徹, 清水恵, 佐藤一樹, 宮下光令. 遺族による臨終前後の看取りのケアプロセス・アウトカムの評価. 第17回東北緩和医療研究会; 2013 Oct 5; 盛岡.
304. 菅野雄介, 安藤秀明, 船水祐子, 岸野恵, 前原絵美理, 高橋徹, 清水恵, 佐藤一樹, 宮下光令. 看護師による臨終前後の患者と家族の看取りのケアに関する実践と看取りのケアに対する困難感の関連要因の探索. 第18回日本緩和医療学会学術大会; 2013 June 21-22; 横浜.
305. 菅野雄介, 安藤秀明, 船水祐子, 岸野恵, 前原絵美理, 高橋徹, 清水恵, 佐藤一樹, 宮下光令. 看護師による臨終前後の患者と家族の看取りのケアの質を評価する尺度の信頼性と妥当性の検証. 第18回日本緩和医療学会学術大会; 2013 June 21-22; 横浜.
306. 菅野雄介, 平原優美, 荒木和美, 松村優子, 八杉まゆみ, 川村幸子, 古賀友之, 宮下光令. 看取りのケアのクリニカルパス Liverpool Care Pathway 日本語版在宅バージョンの開発と実施可能性の検討. 第18回日本緩和医療学会学術大会; 2013 June 21-22; 横浜.
307. 木下里美, 宮下光令. 救急外来で死別した家族による医療評価: 一般市民への調査結果から. 第18回日本緩和医療学会学術大会; 2013 June 21-22; 横浜.
308. 佐々木百合花, 宮下光令, 早川ひと美, 岡村由紀子, 亀岡淳一, 塩飽仁, 門間典子. キャリアプロモート支援に関する3年間の看護職員の認識の変化. 第33回日本看護科学学会学術集会; 2013 Dec 6-7; 大阪.
309. 佐藤一樹, 志真泰夫, 安部奈津子, 宮下光令. 緩和ケア病棟の施設概要と利用状況の東北地方の特徴. 第17回東北緩和医療研究会; 2013 Oct 5; 盛岡.
310. 佐藤一樹, 橋本孝太郎, 内海純子, 出水明, 藤本肇, 森井正智, 永沢譲, 宮下光令, 鈴木雅夫. 在宅緩和ケアを受けた終末期がん患者の在宅診療中止の関連要因. 第18回日本緩和医療学会学術大会; 2013 June 21-22; 横浜.
311. 佐藤一樹, 志真泰夫, 羽川瞳, 宮下光令. 緩和ケア病棟の診療体制と利用状況の平均在棟日数での違い. 第18回日本緩和医療学会学術大会; 2013 June 21-22; 横浜.
312. 佐藤悠子, 秋山聖子, 伊藤祝栄, 古澤義人, 宮下光令, 中野弘枝, 小笠原喜美代, 小幡泉, 森隆弘, 石岡千加史. がん患者の利用できるシンボルマークの必要性和外出に対する意識調査. 第11回日本臨床腫瘍学会学術集会; 2013 Aug 29-31; 仙台.
313. 清水恵, 宮下光令, 恒藤暁, 志真泰夫. 遺族によるケアの質の評価に関する研究 J-HOPE-study～日本ホスピス緩和ケア協会会員施設で亡くなった患者の遺族を対象とした全国的大規模質問紙調査～. 第18回日本緩和医療学会学術大会; 2013 June 21-22; 横浜.
314. 新城拓也, 森田達也, 平井啓, 宮下光令, 清水恵, 恒藤暁, 志真泰夫. 医療用麻薬の使用に対する遺族の体験に基づいた認識と意向. 第18回日本緩和医療学会学術大会; 2013 June 21-22; 横浜.
315. 谷向仁, 足立浩祥, 平井啓, 松井智子, 宮下光令, 清水恵, 恒藤暁, 志真泰夫. 悲嘆を経験する遺族の睡眠障害の実態調査. 第18回日本緩和医療学会学術大会; 2013 June 21-22; 横浜.
316. 中野貴美子, 佐藤一樹, 片山はるみ, 宮下光令. 終末期がん患者が「楽しみになることがある」ための医療者の支援～緩和ケア病棟の医師と看護師の回答の比較～. 第18回日本緩和医療学会学術大会; 2013 June 21-22; 横浜.
317. 中澤葉宇子, 木澤義之, 橋爪隆弘, 森田達也, 笹原朋代, 宮下光令. がん診療連携拠点病院緩和ケアチーム研修会の評価～研修後追跡調査結果～. 第18回日本緩和医療学会学術大会; 2013 June 21-22; 横浜.
318. 橋本孝太郎, 佐藤一樹, 内海純子, 出水明, 藤本肇, 正智 森, 譲 永, 宮下光令, 鈴木雅夫. 在宅診療を受けた終末期がん患者の現状と在宅診療中止の実態. 第18回日本緩和医療学会学術大会; 2013 June 21-22; 横浜.

319. 宮下光令, 加藤雅志, 清水恵, 佐藤一樹, 藤澤大介, 森田達也. 全国のがん患者の Quality of Life : 平成 23 年度受療行動調査と一般市民の比較. 第 51 回日本癌治療学会学術集会; 2013 Oct 24-26; 仙台.
320. 宮下光令, 加藤雅志, 清水恵, 森田達也, 佐藤一樹, 藤澤大介. 日本のがん患者の QOL:受療行動調査を用いた全国調査. 第 11 回日本臨床腫瘍学会学術集会; 2013 Aug 29-31; 仙台.
321. 宮下光令, 五十嵐美幸, 佐藤一樹, 清水恵, 菅野雄介, 菅野喜久子, 川原礼子. 2010 年の全死亡およびがん死亡の都道府県別自宅死亡割合と医療社会的指標の地域相関分析. 第 18 回日本緩和医療学会学術大会; 2013 June 21-22; 横浜.
322. 宮島伽耶, 藤澤大介, 宮下光令, 吉村公雄, 白波瀬丈一郎, 三村將. 複雑性悲嘆に対する終末期医療の質の影響. 第 18 回日本緩和医療学会学術大会; 2013 June 21-22; 横浜.
323. 山脇道晴, 森田達也, 清原恵美, 宮下光令, 清水恵, 恒藤暁, 志真泰夫. ご遺体へのケアを看護師が家族と一緒にすることについての家族の体験・評価. 第 18 回日本緩和医療学会学術大会; 2013 June 21-22; 横浜.

【小児看護学分野】

324. 井上由紀子, 塩飽仁. 小児がんの治療退院後に小学校に入学し不登校の危機に直面した子どもと母親に対する看護介入の検討. 第 18 回日本小児看護学会; 2008 July 26-27; 名古屋.
325. 鈴木祐子, 塩飽仁. 軽度発達障害の同胞をもち集団生活への不適応をきたしている子どもへの看護介入事例. 第 12 回北日本看護学会; 2008 Aug 23-24; 山形.
326. 田老侑子, 塩飽仁, 鈴木祐子, 和田雪. 日本, ベトナム, インドネシアにおける子どもの価値観および家族描画の比較検討. 第 12 回北日本看護学会; 2008 Aug 23-24; 山形.
327. 丹治沙織, 塩飽仁, 鈴木祐子, 和田雪. 予防接種を受ける子どもに対するプレパレーションの有効性の検証. 第 12 回北日本看護学会; 2008 Aug 23-24; 山形.
328. 人見悦加, 塩飽仁, 鈴木祐子, 和田雪. 慢性疾患患児に対する病状説明の実際と看護師の役割. 第 12 回北日本看護学会; 2008 Aug 23-24; 山形.
329. 藤田めぐみ, 塩飽仁, 鈴木祐子, 和田雪. 乳児の不慮の事故予防への取り組みの現状と保護者の意識. 第 12 回北日本看護学会; 2008 Aug 23-24; 山形.
330. 横山千恵, 塩飽仁, 鈴木祐子, 和田雪. 患児の入院にともなう同胞への説明の現状と親の認識. 第 12 回北日本看護学会; 2008 Aug 23-24; 山形.
331. 梅田千鶴, 塩飽仁, 鈴木祐子, 和田雪. 軽度発達障害をもつ子どもの同胞の心理社会的問題と母親の養育態度の関連. 第 13 回北日本看護学会; 2009 Aug 21-22; 仙台.
332. 佐藤菜都美, 塩飽仁, 鈴木祐子, 和田雪. 子どもの入院・退院による家族の生活スタイルの変化と家族機能. 第 13 回北日本看護学会; 2009 Aug 21-22; 仙台.
333. 千葉洋介, 塩飽仁, 鈴木祐子, 和田雪. 軽度発達障害をもつこどもの父親の気分の状態と養育態度に関する研究. 第 13 回北日本看護学会; 2009 Aug 21-22; 仙台.
334. 富樫真菜, 塩飽仁, 鈴木祐子, 和田雪. 入院している患児の生活における「いやなこと」と関連要因に関する研究. 第 13 回北日本看護学会; 2009 Aug 21-22; 仙台.
335. 奈良岡朋美, 塩飽仁, 鈴木祐子, 和田雪. 両親の関係性と子どもの共感性および攻撃性の関連. 第 13 回北日本看護学会; 2009 Aug 21-22; 仙台.
336. 横山亜味, 塩飽仁, 鈴木祐子, 和田雪. 入院中の患児への面会に対する同胞と家族の思いに関する研究. 第 13 回北日本看護学会; 2009 Aug 21-22; 仙台.
337. 和田雪, 塩飽仁. 愛着障害による対人関係の困難さがみられた患児に対する看護介入の検討. 第 13 回北日本看護学会; 2009 Aug 21-22; 仙台.
338. 井上由紀子, 塩飽仁, 菅野潤子, 箱田明子, 藤原幾磨. 成人期への移行を見据えた小児糖尿病患者と家族に対する療養支援と職種間連携. 第 3 回小児糖尿病代謝フォーラム; 2010 Nov 7; 東京.
339. 井上由紀子, 塩飽仁. 小児がん患者のドナーであったきょうだいへの看護支援事例の検討. 第 8 回日本小児がん看護学会; 2010 Dec 17-19; 大阪.
340. 入江亘, 塩飽仁, 鈴木祐子, 和田雪. 患児の入院における父親のかかわり及びかかわりにおける悩み. 第 14 回北日本看護学会学術集会; 2010 Aug 7-8; 山形.

341. 入江亘, 塩飽仁, 鈴木祐子, 和田雪. 小児がん患児の父親が「力になれた」と感じる要因について. 第8回日本小児がん看護学会; 2010 Dec 17-19; 大阪.
342. 内田雅代, 竹内幸江, 白井史, 大脇百合子, 足立美紀, 梶山祥子, 小川純子, 丸光恵, 前田留美, 野中淳子, 富岡晶子, 塩飽仁, 小原美江, 吉川久美子, 森美智子, 石川福江. 小児がんの子どもと家族を中心とした多職種協働チームの看護師支援プログラムの開発ー病気・病状の説明時の援助. 第8回日本小児がん看護学会; 2010 Dec 17-19; 大阪.
343. 宇美ゆかり, 塩飽仁, 鈴木祐子, 和田雪. 保育園児のことばに関する保護者の意識と行動の関連. 第14回北日本看護学会学術集会; 2010 Aug 7-8; 山形.
344. 小野舞衣子, 塩飽仁, 鈴木祐子, 和田雪. 入院が子どもの社会的スキルの発達に与える影響. 第14回北日本看護学会学術集会; 2010 Aug 7-8; 山形.
345. 日下由利子, 三谷綾子, 井上由紀子, 鈴木祐子, 塩飽仁. 複雑な家族背景を持つAD/HD患児に対する看護介入の検討. 第14回北日本看護学会学術集会; 2010 Aug 7-8; 山形.
346. 佐々木奏恵, 塩飽仁, 鈴木祐子, 和田雪. 乳幼児への絵本の読み聞かせと母役割達成感の関連. 第14回北日本看護学会学術集会; 2010 Aug 7-8; 山形.
347. 佐藤幸子, 塩飽仁, 遠藤芳子, 佐藤志保. 子どもの心のケアに関する看護師のニーズ調査. 第14回北日本看護学会学術集会; 2010 Aug 7-8; 山形.
348. 佐藤幸子, 塩飽仁, 遠藤芳子, 佐藤志保. 心身症・神経症児の不適応行動とその関連因子の検討. 第30回日本看護科学学会学術集会; 2010 Dec 3-4; 札幌.
349. 佐藤志保, 佐藤幸子, 塩飽仁. 採血を受ける子どもの非効果的対処行動と関連要因の検討. 第36回日本看護研究学会学術集会; 2010 Aug 21-22; 岡山.
350. 柴田智世, 塩飽仁, 鈴木祐子, 和田雪. こども時代の入院経験が思春期・青年期の自己概念に及ぼす影響. 第14回北日本看護学会学術集会; 2010 Aug 7-8; 山形.
351. 鈴木祐子, 塩飽仁. 思春期にある子どもの共感性と親の共感性の関連. 日本小児看護学会第20回学術集会; 2010 June 26-27; 神戸.
352. 鈴木祐子, 塩飽仁. 思春期にある子どもの共感性と親の養育態度の関連. 日本小児看護学会第20回学術集会; 2010 June 26-27; 神戸.
353. 葭葉純子, 中村直毅, 竹村克奈, 高畑知香, 海老名美代子, 塩飽仁, 辻一郎, 根東義明. グループウェアを中心としたネットワークサービスの構築と導入. 平成22年度情報教育研究集会; 2010 Dec 10-11; 京都.
354. 前野真弓, 鈴木祐子, 和田雪. 長期入院が幼児の自己抑制に与える影響. 第14回北日本看護学会学術集会; 2010 Aug 7-8; 山形.
355. 三谷綾子, 日下由利子, 井上由紀子, 鈴木祐子, 塩飽仁. 抑うつ気分を呈し対人関係を避けることで不登校となった思春期事例の看護支援. 第14回北日本看護学会学術集会; 2010 Aug 7-8; 山形.
356. 和田雪, 塩飽仁, 鈴木祐子, 佐藤幸子. 神経症圏内の児童の学年区分による親の養育態度と不安の関連. 日本小児看護学会第20回学術集会; 2010 June 26-27; 神戸.
357. 足立美紀, 内田雅代, 白井史, 梶山祥子, 小原美江, 塩飽仁, 小川純子, 石川福江. 小児がんの子どもの口腔ケアへの看護師の関わり. 第9回日本小児がん看護学会; 2011 Nov 25-27; 前橋.
358. 白井史, 内田雅代, 足立美紀, 梶山祥子, 小原美江, 塩飽仁, 小川純子, 石川福江. 小児がんの子どもの悪心・嘔吐に関する看護師の認識ー子ども・家族が主体的に症状マネジメントを行うためにー. 第9回日本小児がん看護学会; 2011 Nov 25-27; 前橋.
359. 名古屋祐子, 加藤愛歌, 葛西香織. 小児がんで入院治療した子どもが原籍校の友人に対して抱く思い. 第9回日本小児がん看護学会; 2011 Nov 25-27; 前橋.
360. 相墨生恵, 井上由紀子, 塩飽仁. 発達障がいである姉と心の落ち着きがシーソーの関係にある虐待された経験を持つ発達障がいの子どもへの看護援助. 第15回北日本看護学会学術集会; 2012 Sept 1-2; 仙台.
361. 石川涼, 塩飽仁, 鈴木祐子. 広汎性発達障害を抱えた子どもの就学支援のプロセス. 第15回北日本看護学会学術集会; 2012 Sept 1-2; 仙台.
362. 佐藤恵美, 塩飽仁, 鈴木祐子. 大学生がきょうだいに対して持つ認識と行動に関する実態調査及び関係性の変化における考察. 第15回北日本看護学会学術集会; 2012 Sept 1-2; 仙台.

363. 佐藤麻依, 塩飽仁, 鈴木祐子. 医療系学生の自身や家族の入院および親族内の医療従事者の有無が自身の学部選択に及ぼす影響. 第 15 回北日本看護学会学術集会; 2012 Sept 1-2; 仙台.
364. 鈴木祐子, 塩飽仁. 軽度発達障害の子どもをもつ家族がとらえた支援の現状と課題. 第 15 回北日本看護学会学術集会; 2012 Sept 1-2; 仙台.
365. 鈴木祐子, 塩飽仁. 先天性疾患による障害を持つ青年期女性の社会的自立を支える看護介入事例. 第 15 回北日本看護学会学術集会; 2012 Sept 1-2; 仙台.
366. 名古屋祐子, 塩飽仁, 鈴木祐子, 井上由紀子, 谷地館千恵. 看取りの時期にある小児がんの子どもとその家族をケアする看護師が抱える葛藤. 第 10 回日本小児がん看護学会; 2012 Nov 30 - Dec 2; 横浜.
367. 名古屋祐子, 塩飽仁, 鈴木祐子. 震災後に心身の不調を訴えた思春期の子どもへの看護介入報告. 第 15 回北日本看護学会学術集会; 2012 Sept 1-2; 仙台.
368. 葎葉純子, 中村直毅, 竹村克奈, 高畑知香, 長瀬祥子, 塩飽仁, 久志本成樹, 辻一郎, 富永悌二. メールサービスの継続利用確認システムの運用. 大学 ICT 推進協議会 2012 年度年次大会; 2012 Dec 17-19; 神戸.
369. 相墨生恵, 塩飽仁. 発達障がいの子どもの持つ軽度の知的障がいである母親の子どもへの関わり方に対する看護援助. 第 16 回北日本看護学会学術集会; 2013 Aug 30-31; 山形.
370. 石川涼, 塩飽仁, 鈴木祐子. 知的障害を伴わない発達障害をもつ子どもの発見から就学における関係者の発達支援及び連携についての実態調査. 第 60 回日本小児保健協会学術集会; 2013; 東京
371. 井上由紀子, 塩飽仁, 鈴木祐子, 名古屋祐子, 谷地館千恵. 看護師が子どもと家族の意思を尊重した支援を実践する際に困ったと感じることとその対応のインタビュー調査. 第 23 回日本小児看護学会; 2013; 高知
372. 井上由紀子, 塩飽仁, 鈴木祐子. 看護師が考える子どもと家族の意思を尊重した支援が必要になる場面と効果的な支援方法についての調査. 日本看護研究学会第 39 回学術集会; 2013; 秋田
373. 遠藤芳子, 塩飽仁. 軽度発達障害の子どもを支えるために行った母親への自律性を促す支援の事例報告. 第 16 回北日本看護学会学術集会; 2013 Aug 30-31; 山形.
374. 木村智一, 塩飽仁, 鈴木祐子. 学習にうまく取り組めずキレてしまう発達障害の疑いがある児童へ看護介入. 第 16 回北日本看護学会学術集会; 2013 Aug 30-31; 山形.
375. 木村智一, 塩飽仁, 鈴木祐子. 対人関係のストレスによるイライラから不登校となった思春期の子どもに対する看護介入. 第 16 回北日本看護学会学術集会; 2013 Aug 30-31; 山形.
376. 佐々木百合花, 宮下光令, 早川ひと美, 岡村由紀子, 亀岡淳一, 塩飽仁, 門間典子. キャリアプロモート支援に関する 3 年間の看護職員の認識の変化. 第 33 回日本看護科学学会学術集会; 2013 Dec 6-7; 大阪.
377. 佐藤幸子, 塩飽仁, 遠藤芳子, 佐藤志保. 子どもの情動調整と心身症状の関連に関する検討. 第 33 回日本看護科学学会学術集会; 2013 Dec 6-7; 大阪.
378. 佐藤穂波, 塩飽仁, 鈴木祐子. 東日本大震災で被災した石巻と仙台の子どもの保護者がとらえたボランティアによる遊び支援の効果および子どもの外傷後成長の評価. 第 16 回北日本看護学会学術集会; 2013 Aug 30-31; 山形.
379. 佐山恭子, 日下由利子, 井上由紀子, 相墨生恵, 木村智一, 横山千恵, 名古屋祐子, 鈴木祐子, 塩飽仁. 入院した子どものきょうだいと母親が評価する自身の人格的成長に関する調査研究. 第 16 回北日本看護学会学術集会; 2013 Aug 30-31; 山形.
380. 鈴木祐子, 塩飽仁, 佐藤幸子, 富澤弥生. 小児看護に携わる看護師の年齢および小児看護経験年数による発達障害の理解度の特徴. 第 23 回日本小児看護学会; 2013 July 13-14; 高知.
381. 鈴木祐子, 塩飽仁, 佐藤幸子. 小児看護に携わる看護師が必要としている発達障害に関する情報や支援の内容. 日本看護研究学会第 39 回学術集会; 2013 Aug 22-23; 秋田.
382. 名古屋祐子, 塩飽仁, 鈴木祐子, 井上由紀子, 木村智一. 遺族と医療者への面接から得られた治療が困難が困難な時期にある小児がんの子どもに必要な要素. 第 16 回北日本看護学会学術集会; 2013 Aug 30-31; 山形.

383. 名古屋祐子, 塩飽仁, 鈴木祐子, 井上由紀子, 木村智一. 治癒が難しい状況にあると告げられた小児がんの子どもの両親は治療方針に関する意思決定をどのように行ったのか. 第 16 回北日本看護学会学術集会; 2013 Aug 30-31; 山形.
384. 名古屋祐子, 塩飽仁, 鈴木祐子, 相墨生恵, 木村智一. 遺族と医療者への面接から得られた治癒が困難が困難な時期にある小児がんの子どものを支える家族に必要な要素. 第 16 回北日本看護学会学術集会; 2013 Aug 30-31; 山形.
385. 三上千佳子, 遠藤芳子, 武田淳子, 大池真樹, 塩飽仁. 東日本大震災後の子どもの保護者・保育者の心的外傷性ストレス症状の調査. 第 16 回北日本看護学会学術集会; 2013 Aug 30-31; 山形.
386. 横山千恵, 井上由紀子, 塩飽仁, 鈴木祐子. 反応性愛着障害と境界知能を併せ持ち行為障害を示した子どもへの看護介入. 第 16 回北日本看護学会学術集会; 2013 Aug 30-31; 山形.

【精神看護学分野】

387. 濱家由美子, 光永憲香, 松本和紀. 精神病に対する早期支援プログラム—心理士・看護師による介入—. 第 12 回日本精神障害予防研究会学術集会; 2008 Dec 14; 東京.
388. 伊藤文晃, 本多奈美, 高松幸生, 山崎尚人, 齋藤秀光, 上埜高志, 松岡洋夫. 東北大学病院における移植医療の中での精神科医の役割. 第 22 回日本総合病院精神医学会総会; 2009 Nov 27-28; 大阪.
389. 齋藤秀光, 高松幸生, 伊藤文晃, 井藤佳恵, 山崎尚人, 上埜高志, 田島つかさ, 島田哲, 中保利通, 吉田寿美子, 松岡洋夫. 緩和ケアセンター入院患者の家族支援の試み. 第 63 回東北精神神経学会総会; 2009 Sept 27; 福島.
390. 伊藤文晃, 高松幸生, 井藤佳恵, 山崎尚人, 齋藤秀光, 上埜高志, 松岡洋夫. 東北大学病院緩和ケアチームにおける精神科医の活動. 第 106 回日本精神神経学会学術総会; 2010 May 20-22; 広島.
391. 齋藤秀光, 高松幸生, 伊藤文晃, 井藤佳恵, 山崎尚人, 吉田寿美子, 上埜高志, 松岡洋夫. 東北大学病院緩和ケアセンターにおける家族支援. 第 106 回日本精神神経学会学術総会; 2010 May 20-22; 広島.
392. 齋藤秀光, 田島つかさ, 島田哲, 中保利通, 高松幸生, 伊藤文晃, 井藤佳恵, 山崎尚人, 吉田寿美子, 上埜高志, 松岡洋夫. 東北大学病院緩和ケアセンターでの家族教室. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会; 2010 June 18-19; 東京.
393. 濱家由美子, 内田知宏, 光永憲香, 大室則幸, 松本和紀, 松岡洋夫. 顕在発症後早期の psychosis に対する心理的アプローチ—個別的な早期支援プログラムの試み—. 第 5 回日本統合失調症学会; 2010 Mar 26-27; 福岡.
394. 山口紗穂, 齋藤秀光, 佐藤喜根子, 上埜高志, 菊地紗耶, 齋二美子, 加藤道代, 阿部夏葉, 宮崎愛. 妊産褥婦の抑うつと不安に関する研究—助産師外来の利用者を対象にして—. 第 64 回東北心理学会; 2010 Sept 11-12; 仙台.
395. 富永美弥, 伊藤文晃, 上埜高志, 山崎尚人, 齋藤秀光, 高松幸生, 井藤佳恵, 吉田寿美子, 松岡洋夫. 緩和ケアチームにおける精神科医の役割について—東北大学病院がんセンターにおける 4 年間の活動から—. 第 107 回日本精神神経学会学術総会; 2011 Oct 26-27; 東京.
396. 濱家由美子, 内田知宏, 光永憲香, 大室則幸, 桂雅宏, 高橋綾, 松本和紀, 松岡洋夫. 初回精神病に対する個別心理プログラムの位置づけ—臨床指標の推移を通して—. 第 6 回日本統合失調症学会; 2011 July 18-19; 札幌.
397. 荒田悠太郎, 堀井明, 齋藤秀光, 金塚完. 東北大学大学院医学系研究科・医学部における東日本大震災後の学生の状況把握に向けたアンケート調査. 第 45 回日本医学教育学会大会; 2013 July 26-27; 千葉.
398. 桂雅宏, 大室則幸, 小原千佳, 菊地達郎, 濱家由美子, 内田知宏, 光永憲香, 松本和紀, 松岡洋夫. At-Risk Mental Staie (ARMS) の横断的経過 ARMS のサイコーシス日以降例の縦断的経過. 精神神経学雑誌. 2013 May;Suppl:s279.
399. 光永憲香, 濱家由美子, 内田知宏, 砂川恵美, 大室則幸, 吉井初美, 松岡洋夫, 松本和紀, 齋藤秀光. 初回エピソードサイコーシスの患者への心理・社会的介入プログラムの報告—看護師の立場から—. 第 4 回東北 精神保健福祉学会; 2013 Oct 13; 仙台.

400. 光永憲香, 濱家由美子, 内田知宏, 砂川恵美, 大室則幸, 吉井初美, 松岡洋夫, 松本和紀, 齋藤秀光. 初回サイコーシス (精神病) 患者への心理・社会的介入プログラムの実施. 第 44 回日本看護学会精神看護; 2013 Sept 19-20; 前橋.
- 【周産期看護学分野】
401. 小山田信子. 明治期の宮城県における産婆養成教員とその役割. 第 22 回日本看護歴史学会; 2008 Aug 28-29; 福岡.
402. 佐藤喜根子, 堀琴美, 八幡悦子. 虐待への新しい視座を目指して. 日本臨床発達心理士会第 4 回全国大会; 2008 Aug 2-3; 仙台. (シンポジスト)
403. 佐藤喜根子. 気になる子どもの保護者への支援. 日本発達臨床心理士会 東北支部シンポジウム; 2008 Oct 23; 仙台. (シンポジスト)
404. 佐藤喜根子. 妊娠期からのプライマリーナーシングが産後の女性の心理に及ぼす効果. 第 37 回日本女性心身医学会学術集会; 2008 July 19-20; 東京.
405. 高間木静香, 小川菜津, 小座間智子, 島貫享子, 渡邊幸子, 後藤あき子, 千田あかね, 佐藤祥子, 中村康香, 佐藤多代, 佐藤尚明, 木村芳孝, 岡村州博. マタニティヨーガが妊婦・胎児に及ぼす効果腹壁誘導法胎児心電図を利用して. 第 49 回日本母性衛生学会; 2008 Nov 5-6; 浦安.
406. 門間祐子, 太田明希子, 奥寺睦子, 立花幸, 渡邊幸子, 佐藤喜根子. 「さんばルーム」での心理援助. 産後うつ病予防プログラムの成果シンポジウム; 2008 Nov 5-6.
407. 岡村州博, 佐藤喜根子. 助産師の役割を拓く. 第 49 回日本母性衛生学会; 2008 Nov 5-6; 浦安. (シンポジスト)
408. 金澤悠介, 倉元直樹, 小山田信子, 吉沢豊子. 看護師は文系? 理系? 大学入試設計から考える看護師養成の問題. 日本テスト学会第 7 回大会; 2009 Sept 3-4; 東京.
409. 菊池笑加, 佐藤喜根子. 分娩施設の減少が妊婦へもたらす影響に関する研究. 第 50 回日本母性衛生学会; 2009 Sept 27-28; 横浜.
410. 佐藤祥子, 塩野悦子, 大沼珠美, 武者文子. 施設を超えた助産師のつながりを強める試み. 第 14 回聖路加看護学会学術大会; 2009 Sept 26; 東京.
411. 大久保奈菜, 小山田信子. 各年代における男性の性知識. 第 14 回北日本看護学会学術集会; 2010 Aug 7-8; 山形.
412. 小山田信子, 吉沢豊子, 金澤悠介, 倉元直樹. 高校生の進路から見た看護系大学の類型. 第 20 回日本看護学教育学会学術集会; 2010 Sept 31-Aug 1; 大阪.
413. 小山田信子. 産婆学からみた産婆規則制定後の産婆教育. 第 24 回日本看護歴史学会学術集会; 2010 Sept 19-20; 藤沢.
414. 狩野成美, 佐藤喜根子. 大学生におけるデート DV の認知度と相談の実際. 第 51 回日本母性衛生学会; 2010 Nov 5-6; 金沢.
415. 菊地美里, 小山田信子. 働く母親の母乳育児継続の現状と母乳育児に対する思い. 第 14 回北日本看護学会学術集会; 2010 Aug 7-8; 山形.
416. 倉元直樹, 金澤悠介, 小松恵, 小山田信子, 吉沢豊予子. 看護系志望の高校生に求められる学力・適正に関する研究 (2). 日本教育心理学会第 52 回総会; 2010 Aug 27-29; 東京.
417. 倉元直樹, 小松恵, 小山田信子, 吉沢豊予子. 看護系志望の高校生に求められる学力・適正に関する研究 (3). 日本教育心理学会第 52 回総会; 2010 Aug 27-29; 東京.
418. 佐藤祥子, 塩野悦子. 初妊婦の自己概念の変化への戸惑い. 第 24 回日本助産学会学術集会; 2010 Mar 20-21; 筑波.
419. 野上絵里香, 佐藤祥子. 第 2 子を出産した産後 1 ヶ月の母親と第 1 子との関係について. 第 51 回日本母性衛生学会; 2010 Nov 5-6; 金沢.
420. 小山田信子, 田中幸子. 産師法案とその要求運動の背景要因. 第 25 回日本看護歴史学会学術集会; 2011 Aug 26-27; 沖縄.
421. 桂田かおり, 跡上富美, 吉沢豊子, 中村康香, 佐藤祥子, 小山田信子, 佐藤喜根子. 死産・新生児死亡を体験した父親の子どもへの死の実感プロセス. 第 31 回日本看護科学学会; 2011 Dec 2-3; 高知.
422. 加藤唯, 渡邊あゆみ, 小野寺恵, 大桐規子, 佐藤祥子. NICU 入院中の母親の搾乳への思い. 第 52 回日本母性衛生学会; 2011 Sept 29-30; 京都.

423. 倉元直樹, 小山田信子, 小松恵, 吉沢豊子. 危機に立つ看護教育-看護系志望者は何を学んでくるのか-. 第 21 回日本看護学教育学会学術集会; 2011 Aug 30-31; さいたま.
424. 塩野悦子, 大沼珠美, 山田志枝, 佐藤祥子, 武者文子. 臨床所産師の教育とキャリア発達一助産師の力となってきた要因の検討. 第 25 回日本助産学会学術集会; 2011 Mar 5-6; 名古屋.
425. 高間木静香, 佐藤祥子, 中村康香. マタニティヨーガの効果に関する研究動向の分析と今後の課題. 第 52 回日本母性衛生学会; 2011 Sept 29-30; 京都.
426. 松澤愛美, 佐藤喜根子. 伊達藩時代から続く「山神講」の実態—講員への聞き取り調査から—. 第 25 回日本看護歴史学会学術集会; 2011 Aug 26-27; 沖縄.
427. 吉沢豊子, 倉元直樹, 金澤悠介, 小山田信子, 柳井晴夫. 看護学教育における質保証の基盤. 第 21 回日本看護学教育学会学術集会; 2011 Aug 30-31; さいたま.
428. 小山田信子. 明治期の産婆テキストにみる産婆の役割. 第 26 回日本看護歴史学会; 2012 Aug 26-27; 東京.
429. 菊池綾子, 佐藤祥子, 小山田信子, 佐藤喜根子. 生後 2 ヶ月経過した男性の家族に対する意識, 第 15 回北日本看護学会学術集会; 2012 Sept 1-2; 仙台.
430. 倉元直樹, 鈴木幸子, 小山田信子, 小松恵, 吉沢豊子. 看護系学生の知的基盤. 第 22 回日本看護学教育学会; 2012 Aug 4-5; 熊本.
431. 近藤美佳子, 菊地遼, 佐藤喜根子. 東日本大震災による周産期医療従事者のストレス症状—家族形態, 被災状況, 勤務状況との関連—. 第 41 回日本女性心身医学会; 2012 Aug 4-5; 東京.
432. 佐藤喜根子, 菊池笑加, 小山田信子, 佐藤祥子. 東日本大震災が子育て中(乳児期)の母親の心理に及ぼす影響. 第 41 回日本女性心身医学会; 2012 Aug 4-5; 東京.
433. 佐藤喜根子, 佐藤祥子. 東日本大震災時の周産期女性の不安—EPDS から見えたこと—. 第 26 回日本助産学会学術集会; 2012 May 1-2; 札幌.
434. 佐藤祥子, 加藤唯, 渡邊あゆみ, 小野寺恵, 大桐規子. NICU 入院中の母親における母乳分泌維持の要因. 第 53 回日本母性衛生学会学術集会; 2012 Nov 16-17; 福岡.
435. 佐藤祥子. NICU 入院児を持つ母親の母乳分泌維持の要因. 第 22 回日本新生児看護学会; 2012 Nov 26-26; 熊本.
436. 吉沢豊子, 西郡大, 西川浩昭, 小山田信子, 山本直樹, 倉元直樹. 高校における看護系志望受験生の育成とリクルート. 第 22 回日本看護学教育学会; 2012 Aug 4-5; 熊本.
437. 石橋和美, 佐藤祥子. NICU 入院児を持つ母親の出産体験の捉え方の検証と看護支援の検討. 第 54 回日本母性衛生学会; 2013 Oct 4-5; さいたま.
438. 浦山美輪, 佐藤富美子, 早川ひと美, 岡村由紀子, 佐々木百合花, 庄子由美, 門間典子, 小山田信子, 亀岡淳一. 看護師の看護学生を対象とした看護セミナーによる看護 GP 事業「教育指導者育成プログラム」の評価. 第 44 回日本看護学会 看護教育学術集会; 2013 Oct 9-10; さいたま.
439. 太田花菜子, 小山田信子. イクメンプロジェクト「育休・育児体験談」にみる父親の育児経験. 第 15 回日本母性看護学会; 2013 July 6-7; 仙台.
440. 岡村由紀子, 小山田信子, 佐藤富美子, 亀岡淳一, 浦山美輪, 佐々木百合花, 早川ひと美, 庄子由美, 門間典子. 共通シナリオを用いたクリティカルケア看護実践能力の客観的評価. 第 44 回日本看護学会 看護教育学術集会; 2013 Oct 9-10; さいたま.
441. 小山田信子. 県令看護婦規則制定までの秋田県における看護婦養成過程. 第 33 回日本科学学会; 2013 Dec 6-7; 大阪.
442. 小山田信子. 東京府病院産婆教習所から明治 23 年までの産婆教育. 第 27 回日本看護歴史学会; 2013 Aug 31- Sept 1; 京都.
443. 小山田信子. 明治期の産婆教育を担った医師が理想とした産婆像-帝国医科大学教授濱田玄達の意図-. 第 27 回日本助産学会; 2013 May 1-2; 金沢.
444. 菊地遼, 近藤美佳子, 佐藤喜根子. 宮城県周産期医療従事者の東日本大震災 1 年後のストレス症状の実態. 第 54 回日本母性衛生学会; 2013 Oct 4-5; さいたま.
445. 菊池笑加, 佐藤喜根子, 小山田信子, 佐藤祥子. 震災前後に子どもが誕生した父親の生活と心身の健康状態—東日本大震災から 1 年 4 ヶ月後の調査—. 第 15 回日本母性看護学会; 2013 July 6-7; 仙台.

446. 今愛美, 佐藤喜根子. 大学生におけるデート DV の認知と実態. 第 15 回日本母性看護学会; 2013 July 6-7; 仙台.
447. 佐々木彩香, 佐藤祥子. NICU 入院児を持つ母親の初回面会時に抱く肯定的感情. 第 54 回日本母性衛生学会; 2013 Oct 4-5; さいたま.
448. 佐藤祥子, 松浦唯. 早産児を持つ母親の搾乳体験. 第 23 回日本新生児看護学会; 2013 Dec 1-2; 金沢.
449. 山崎満美子, 石垣麻衣, 加藤早奈恵, 渡辺かほり, 渡邊裕美子, 片倉睦, 佐藤祥子. NICU における退院支援の取り組みの現状—地域保健師と NICU 看護師の意識調査の比較から—. 第 54 回日本母性衛生学会; 2013 Oct 4-5; さいたま.
- 【ウイメンズヘルス看護学分野】
450. 高間木静香, 小川菜津, 小座間智子, 島貫享子, 渡邊幸子, 後藤あき子, 千田あかね, 佐藤祥子, 中村康香, 佐藤多代, 佐藤尚明, 木村芳孝, 岡村州博. マタニティヨーガが妊婦・胎児に及ぼす効果 腹壁誘導法胎児心電図を利用して. 第 49 回日本母性衛生学会; 2008 Nov 5-6; 浦安.
451. 中村康香, 吉沢豊予子. 健康女性におけるフォトプレティスマグラフィ法による下肢筋ポンプ力の測定. 第 14 回千葉看護学会; 2008 Sept 20; 千葉.
452. 中村康香. 妊娠経過における妊娠の受容を高める看護援助の実際 快適さの体験に焦点を当てた看護介入の効果からみて. 第 28 回日本看護科学学会学術集会; 2008 Dec 13-14; 福岡.
453. 今村栄吏子, 跡上富美, 嶋野理恵, 中村康香, 吉沢豊予子. 更年期症状に影響する生活習慣要因の探究 更年期症状と睡眠との関連. 第 50 回日本母性衛生学会; 2009 Sept 27-28; 横浜.
454. 嶋野理恵, 吉沢豊予子, 中村康香, 今村栄吏子, 跡上富美. 現代の更年期女性(Hanako 世代)における体型と QOL・更年期症状の関連. 第 50 回日本母性衛生学会; 2009 Sept 27-28; 横浜.
455. 新道幸恵, 鈴木幸子, 遠藤俊子, 吉沢豊予子, 成田伸, 森恵美. [交流会]助産師学生のための産婦ケア(分娩介助を含む)に関する有効な教育方法の開発. 第 29 回日本看護科学学会学術集会; 2009 Nov 27-28; 幕張.
456. 中村康香, 跡上富美, 吉沢豊予子. 入院妊婦と外来通院妊婦との快適さの体験の比較. 第 50 回日本母性衛生学会; 2009 Sept 27-28; 横浜.
457. 渡辺友子, 北館まりや, 我満可奈子, 川上亜希子, 後藤あき子, 中村康香. 切迫早産妊婦の入院中の体験～ストレスを軽減する看護の検討～. 第 30 回宮城母性衛生学会学術集会; 2009; 仙台.
458. 小山田信子, 吉沢豊予子, 金澤悠介, 倉元直樹. 高校生の進路から見た看護系大学の類型. 第 20 回日本看護学教育学会学術集会; 2010 Sept 31- Aug 1; 大阪.
459. 倉元直樹, 金澤悠介, 小山田信子, 吉沢豊予子. 看護志望の高校生に求められる学力・適性に関する研究 (2) . 日本教育心理学会第 52 回総会; 2010 Aug 27-29; 東京.
460. 斎藤久美子, 中野弘江, 関川栄子, 吉沢豊予子. 中村康香. セルフケア支援を目指したリンパ浮腫予防教室の評価に関する研究. 第 41 回 日本看護学会 成人看護 II; 2010 Aug 31 - Sept 1; 福岡.
461. 坂村佐知, 跡上富美, 中村康香, 吉沢豊予子. 結婚の契機が母親と早産児との関係性の発達に与える影響. 第 12 回日本母性看護学会学術集会; 2010 June19; 三重.
462. 坂村佐知, 跡上富美, 中村康香, 吉沢豊予子. 妊娠先行型結婚の母親と早産児との関係性の特徴. 第 20 回日本新生児看護学会; 2011 Nov 6-7; 神戸.
463. 関智示, 吉沢豊予子, 跡上富美, 中村康香. 産褥早期における下肢浮腫に対する弾性ストッキングの効果～下肢周囲径, 体重, 体内水分量による検討～. 第 12 回日本母性看護学会学術集会; 2010 June19; 三重.
464. 関智示, 吉沢豊予子, 跡上富美, 中村康香. 褥婦に出現する産褥早期の下肢浮腫の経時的変化と弾性ストッキングの効果. 第 31 回日本看護科学学会総会; 2011 Dec 2-3; 高知.
465. 武石陽子, 中村康香, 跡上富美, 吉沢豊予子. 妊娠時期および背景による妊娠期の快適性の特徴 - 妊娠期快適性尺度を用いて -. 第 30 回日本看護科学学会学術集会; 2010 Dec; 札幌.
466. 武石陽子, 吉沢豊予子, 跡上富美, 中村康香. 妊娠期の快適性に関する尺度の開発. 第 12 回日本母性看護学会学術集会; 2010 June19; 三重.
467. 中村康香, 吉沢豊予子, 跡上富美, 武石陽子. 入院切迫早産妊婦と外来通院妊婦における QOL の比較. 第 12 回日本母性看護学会学術集会; 2010 June19; 三重.

468. 中村康香, 吉沢豊予子, 跡上富美. 入院切迫早産妊婦の心理社会的適応状態について. 第 30 回日本看護科学学会学術集会; 2010 Dec; 札幌.
469. 中野弘枝, 井上八重子, 齋藤久美子, 中村康香, 吉沢豊予子. 外来通院によるリンパ浮腫患者へのセルフケア教育介入内容の検討～リンパ浮腫軽減を体験した 4 事例の分析から～. 第 24 回日本がん看護学会学術集会; 2010 Feb; 静岡.
470. 跡上富美, 中村康香, 吉沢豊予子. 妊娠先行型結婚女性の家族形成過程-妊娠初期の特徴-. 第 13 回日本母性看護学会学術集会; 2011 June 11; 栃木.
471. 跡上富美, 中村康香, 坂村佐知, 吉沢豊予子. 妊娠先行型結婚の女性の妊娠期の家族形成過程とその特徴. 第 31 回日本看護科学学会学術集会; 2011 Dec 2-3; 高知.
472. 桂田かおり, 跡上富美, 吉沢豊予子, 中村康香, 佐藤祥子, 小山田信子, 佐藤喜根子. 死産・新生児死亡を体験した父親の「子どもの死の実感プロセス」. 第 31 回日本看護科学学会学術集会; 2011 Dec 2-3; 高知.
473. 桂田かおり, 跡上富美, 中村康香, 吉沢豊予子, 佐藤喜根子. 死産・新生児死亡を経験した父親の「子供の死の実感プロセス」-「誕生死の実感」に焦点を当てて-. 第 13 回日本母性看護学会学術集会; 2011 June 11; 栃木.
474. 熊谷賀代, 佐藤理恵, 吉沢豊予子, 跡上富美, 中村康香, 平田恵美, 大山洋子, 竹内真帆. 新生児の生後 1 ヶ月までの栄養経過別に見た体重増減量の比較. 第 52 回日本母性衛生学会; 2011 Sept 29-30; 京都.
475. 倉元直樹, 小山田信子, 小松恵, 吉沢豊予子. 危機に立つ看護教育?-看護系志望者は何を学んでくるのか-. 第 21 回日本看護学教育学会学術集会; 2011 Aug 30-31; さいたま.
476. 坂村佐知, 跡上富美, 中村康香, 吉沢豊予子. 結婚形態の相違が NICU に児が入院となった夫婦と母児の関係性に及ぼす影響. 第 13 回日本母性看護学会学術集会; 2011 June 11; 栃木.
477. 高間木静香, 佐藤祥子, 中村康香. マタニティヨーガの効果に関する研究動向の分析と今後の課題. 第 52 回日本母性衛生学会; 2011 Sept 29-30; 京都.
478. 竹内真帆, 跡上富美, 中村康香, 新倉仁, 古澤義人, 中野弘江, 鈴木花菜, 吉沢豊予子. 婦人科手術におけるリンパ節郭清施行前後の体水分組成の変化-多周波インピーダンス法による測定-. 国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン懇話会第 1 回学術集会; ; 2013 Oct 21; 仙台.
479. 武石陽子, 中村康香, 跡上富美, 吉沢豊予子. 妊娠中期における快適性の特徴. 第 31 回日本看護科学学会学術集会; 2011 Dec; 高知.
480. 中村康香, 跡上富美, 吉沢豊予子, 武石陽子, 伊藤直子. 妊娠初期における妊娠期快適性の特徴”初経産を比較して”. 第 13 回日本母性看護学会学術集会; 2011 June 11; 栃木.
481. 中村康香, 跡上富美, 竹内真帆, 吉沢豊予子, 切迫早産妊婦の入院中における妊娠の受けとめ. 第 52 回日本母性衛生学会; 2011 Sept 29-30; 京都.
482. 中村康香, 武石陽子, 跡上富美, 吉沢豊予子. 妊娠経過における妊婦の快適性の変化～妊娠初期と妊娠中期の比較～. 第 31 回日本看護科学学会学術集会; 2011 Dec 2-3; 高知.
483. 中野弘枝, 齋藤久美子, 山谷美貴, 中村康香, 吉沢豊予子. がん治療後の患者のリンパ浮腫に対する向き合い方の特徴. 第 25 回日本がん看護学会学術集会; 2011 Feb 12-13; 神戸.
484. 山谷美貴, 齋藤久美子, 中野弘枝, 中村康香, 吉沢豊予子. 外来・病棟の連携のもとに行うリンパ浮腫予防教育方法の試み. 第 25 回日本がん看護学会学術集会; 2011 Feb 12-13; 神戸.
485. 吉沢豊予子, 関智示, 中村康香, 竹内真帆, 跡上富美. 産褥期における褥婦の下肢浮腫とそれに伴う自覚症状の変化. 第 52 回日本母性衛生学会; 2011 Sept 29-30; 京都.
486. 伊藤みずき, 中村康香, 跡上富美, 吉沢豊予子. 妊娠期のわが子に対する肯定的な感情と産後の育児との関連. 第 53 回日本母性衛生学会学術集会; 2012 Nov 16-17; 福岡.
487. 今村麻乃, 中村康香, 跡上富美, 吉沢豊予子. 入院している切迫早産妊婦の肯定的な体験. 第 53 回日本母性衛生学会学術集会; 2012 Nov 16-17; 福岡.
488. 奥山武志, 北條真紀, 吉沢豊予子, 田中真美. 分娩介助動作計測に関する研究. 第 24 回「電磁力関連のダイナミクス」シンポジウム; 2012 May 16-18; 富山.

489. 日下裕子, 竹内真帆, 土田ひかり, 古澤義人, 中野弘枝, 跡上富美, 中村康香, 吉沢豊予子. 下肢リンパ浮腫を発表した患者のQOL—日本語版LYMQOLを用いて—. 国際リンパ浮腫フレームワークジャパン研究協議会第2回学術集会; 2012 Aug 11; 青森.
490. 倉元直樹, 鈴木幸子, 小山田信子, 小松恵, 吉沢豊予子. 看護系学生の知的基盤-大規模学生調査から見えてくるもの-. 第22回日本看護学教育学会; 2012 Aug 4-5; 熊本.
491. 鈴木花菜, 中野弘枝, 齋藤久美子, 庄司さゆり, 大沼美智子, 中村康香, 竹内真帆, 吉沢豊予子. 病棟—外来の連携のもとに行うリンパ浮腫予防の実践(第2報). 第26回日本がん看護学会学術集会; 2012 Feb 11-12; 松江.
492. 武石陽子, 伊藤直子, 吉沢豊予子, 跡上富美, 中村康香. 妊娠初期, 妊娠中期, 妊娠末期にかけての妊婦の快適性の推移—初産婦と経産婦を比較して—. 第32回日本看護科学学会学術集会; 2012 Nov 30 - Dec 1; 東京.
493. 中村康香, 武石陽子, 伊藤直子, 跡上富美, 吉沢豊予子. 妊娠末期の快適性と出産体験の自己評価との関連, 第14回日本母性看護学会学術集会; 2012 June 16; 神戸.
494. 中村康香, 武石陽子, 伊藤直子, 跡上富美, 吉沢豊予子. 妊娠末期の快適性と産後1か月の育児行動との関連. 第32回日本看護科学学会学術集会; 2012 Nov 30 - Dec 1; 東京.
495. 跡上富美, 中村康香, 武石陽子, 伊藤直子, 吉沢豊予子. 妊娠先行型結婚をした妊婦の妊娠経過における快適性の変化. 第15回日本母性看護学会; 2013 July 6-7; 仙台.
496. 荒屋敷純子, 跡上富美, 中村康香, 吉沢豊予子. 東日本大震災発生直後の看護職の労働実態にジェンダーが与えた影響. 第15回日本母性看護学会; 2013 July 6-7; 仙台.
497. 工藤みう, 北條真紀, 奥山武志, 吉沢豊予子, 跡上富美, 中村康香, 田中真美. 分娩介助動作における助産師の手指にかかる圧力分析. No. 13-11 IIP2013 情報・知能・精密機器部門(IIP 部門)講演会; 2013 Mar 21-22; 東京.
498. 菊地圭子, 豊田茉莉, 遠藤恵子, 大平光子, 吉沢豊予子. 授乳時の経産婦の視線分析—2事例の産褥1か月, 2か月, 3か月の比較. 第33回日本看護科学学会学術集会; 2013 Dec 6-7; 大阪.
499. 菊池尚子, 中村康香, 跡上富美, 吉沢豊予子. 日本における切迫早産に対する安静療法の変遷とその定義. 第15回日本母性看護学会; 2013 July 6-7; 仙台.
500. 日下裕子, 竹内真帆, 鈴木花菜, 中野弘枝, 千葉美貴, 棟方麻友, 大沼美智子, 後藤あき子, 中村康香, 吉沢豊予子. 病棟-外来の連携のもとに行うリンパ浮腫予防教育の実践報告(第3報). 第27回日本がん看護学会学術集会; 2013 Feb 16-17; 金沢.
501. 中野弘枝, 日下裕子, 千葉美貴, 鈴木花菜, 齋藤久美子, 井上芙蓉子, 佐藤薫, 後藤あき子, 中村康香, 吉沢豊予子. 病棟—外来連携下で行うリンパ浮腫予防教育の3年間の評価報告. 第44回日本看護学会—成人看護II; 2013 Oct 3-4; 秋田.
502. 吉田明莉, 中村康香, 跡上富美, 吉沢豊予子. 産褥期の浮腫に関する文献検討—浮腫出現の実態と看護ケアの効果—. 第54回日本母性衛生学会; 2013 Oct 4-5; さいたま.

7-6. 外部資金獲得 (主任研究)

【看護アセスメント学分野】

- 菅野恵美 (主任研究者). 皮膚潰瘍創における緑膿菌と創傷治癒との関連性. 平成20年度日本褥瘡学会 研究助成. 2008 July - 2009 Mar.
- 菅野恵美 (主任研究者). 褥瘡・難治性皮膚潰瘍に対する局所管理方法の検討. 平成20年度科学研究費補助金(若手研究(B)). 2008 Apr - 2010 Mar.
- 菅野恵美 (主任研究者). 褥瘡・難治性皮膚潰瘍の創部炎症反応機構の解明とケア技術の確立. 平成23年度科学研究費補助金(若手研究(B)). 2011 Apr - 2013 Mar.
- 菅野恵美 (主任研究者). 褥瘡・慢性創傷の炎症遷延に関わるダメージ関連分子の同定と炎症制御ケア技術の確立. 平成25年度科学研究費補助金(基盤研究(C)). 2013 Apr - 2016 Mar.
- 丸山良子 (主任研究者). 食生活からみた中国少数民族の出生体重と高血圧発症の関連. 平成25年度公益財団法人アサヒグループ学術振興財団研究助成. 2013 June - 2014 Mar.

6. 丸山良子（主任研究者）．超高齢者の安全な早期離床のための評価指標の開発．平成 25 年度科学研究費補助金（挑戦的萌芽研究）．2013 Apr - 2015 Mar.
7. 丸山良子（主任研究者）．日本人・中国少数民族の出生体重と高血圧発症に関する調査研究．平成 25 年度科学研究費補助金（基盤研究（B））．2013 Apr - 2016 Mar.

【看護教育・管理学分野】

8. 朝倉京子（主任研究者）．看護師の業務権限見直しに向けた理論的・帰納的研究；自律性再考．平成 20 年度科学研究費補助金（基盤研究（C））．2008 Apr - 2013 Mar.
9. 渡邊生恵（主任研究者）．心理・生理指標測定による安楽な入院環境に関する検討．平成 21 年度科学研究費補助金（若手研究（B））．2009 Apr - 2011 Mar.
10. 佐藤みほ（主任研究者）．幼少期における家庭環境が、思春期の精神健康と学校適応に及ぼす影響についての研究．平成 22 年度科学研究費補助金（研究活動スタート支援）．2010 Aug - 2012 Mar.
11. 渡邊生恵（主任研究者）．看護師の専門職性と離職意向に関する研究．平成 23 年度科学研究費補助金（基盤研究（C））．2011 Apr - 2014 Mar.
12. 朝倉京子（主任研究者）．看護職員の職業移動と心理社会的/経済的要因に関する縦断的研究．平成 24 年度科学研究費補助金（基盤研究（B））．2012 Apr - 2016 Mar.
13. 佐藤みほ（主任研究者）．看護師がいきいきと働ける職場づくりに向けて．平成 24 年度医療科学研究所助成金．2012 Apr - 2013 Mar.
14. 佐藤みほ（主任研究者）．看護師の離職意向を規定する要因についての検討：心理・社会的、経済的視点から．平成 24 年度科学研究費補助金（若手研究（B））．2012 Apr - 2015 Mar
15. 佐藤みほ（主任研究者）．潜在看護職員の再就業行動に関連する要因についての探索的検討：看護における人的資源の確保と有効活用に向けて．平成 25 年度三菱財団研究助成金．2013 Apr - 2014 Mar.
16. 渡邊生恵（主任研究者）．宮城県における主産後女性の健診・検診受診の実態と関連要因に関する調査．一般財団法人宮城県公衆衛生協会平成 25 年度助成金．2013 Apr - 2014 Mar.
17. 佐藤みほ（主任研究者）．看護師のワークライフバランスを支え、ワークモチベーションを高める組織風土についての研究．第 22 回医療科学研究所研究助成．2013 Apr - 2014 Mar.

【老年・在宅看護学分野】

18. 森鍵祐子（主任研究者）．急性期病院における退院支援専門部署および在宅療養支援のあり方に関する研究．平成 19 年度科学研究費補助金（若手研究（B））．2007 Apr - 2009 Mar
19. 齋藤美華（主任研究者）．定年退職後の高齢男性ボランティアの活動に関する記述的研究．平成 21 年度科学研究費補助金（若手研究（B））．2009 Apr - 2011 Mar
20. 川原礼子（主任研究者）．訪問看護におけるキュアとケアの統合に関する研究．平成 22 年度科学研究費補助金（挑戦的萌芽研究）．2010 Apr - 2013 Mar
21. 大槻久美（主任研究者）．がん患者の退院支援におけるパートナーシップの構築．平成 23 年度ファイザーヘルスリサーチ振興財団助成金．2011 Apr - 2013 Mar
22. 大槻久美（主任研究者）．退院支援における地域連携システム構築に関する研究．平成 24 年度科学研究費補助金（基盤研究（C））．2012 Apr - 2015 Mar
23. 齋藤美華（主任研究者）．定年退職後の高齢男性を対象とした地域活動への参加支援プログラムの開発．平成 24 年度科学研究費補助金（基盤研究（C））．2012 Apr - 2016 Mar
24. 川原礼子（主任研究者）．高齢者の予想される死における看護職の看取り教育プログラム開発．平成 25 年度科学研究費補助金（基盤研究（C））．2013 Apr - 2016 Mar
25. 坂川奈央（主任研究者）．排尿習慣化訓練の適応基準とプロトコルの開発．平成 25 年度科学研究費補助金（若手研究（B））．2013 Apr - 2016 Mar

【地域ケアシステム看護学分野】

26. 栗本鮎美（主任研究者）．地域保健活動における協働の実態と保健師の認識に関する研究．平成 20 年度科学研究補助金（若手研究（B））．2008 Apr - 2011 Mar.
27. 鈴木和広（主任研究者）．地域問題解決のための協働の実践モデル構築に関する実証的研究．平成 20 年度科学研究補助金（若手研究（B））．2008 Apr - 2010 Mar.

28. 高橋香子（主任研究者）．地域保健分野における協働プロフェッショナル人材養成プランの開発に関する研究．平成 20 年度科学研究費補助金（基盤研究（C））．2008 Apr - 2011 Mar.
29. 末永カツ子（主任研究者）．地域エンパワメントを目指す協働の活動への合意形成に関する研究．平成 21 年度科学研究費補助金（基盤研究（C））．2009 Apr - 2012 Mar.
30. 田口敦子（主任研究者）．訪問看護必要性の判定ツールの開発および実用に向けた効果的なタッチポイントの探索．平成 23 年度科学研究費補助金（若手研究（B））．2011 Apr - 2013 Mar.
31. 栗本鮎美（主任研究者）．東北地方被災地域における高齢者の社会的孤立に関する実証的研究．平成 24 年度 学術研究助成基金助成金（若手研究（B））．2012 Apr - 2014 Mar.
32. 末永カツ子（主任研究者）．被災地保健師のエンパワメントとコミュニティ再生に関する研究．平成 24 年度科学研究費補助金（基盤研究（C））．2012 Apr - 2017 Mar.
33. 末永カツ子（主任研究者）．平成 24 年度 3.11 災害時保健活動の連携検証事業（宮城県）．2012 Sep - 2013 Mar.
34. 田口敦子（主任研究者）．訪問看護ニーズに関する調査・研究．高知県受託研究．2012 Apr - 2013 Mar.
35. 高橋香子（主任研究者）．被災地難病患者のための統合医療生活支援システムの構築に関する研究．平成 25 年度科学研究費補助金（基盤研究（C））．2013 Apr - 2017 Mar.
36. 田口敦子（主任研究者）．孤立予防に向けた住民組織主導型アウトリーチモデルの効果検証．公益財団法人ファイザーヘルスリサーチ振興財団．2013 Nov - 2014 Oct.
37. 田口敦子（主任研究者）．日本の文化に沿った、在宅緩和ケアにおける看取りケアのクリティカルパス Liverpool Care Pathway 日本語在宅バージョンの開発と有用性の検討．公益財団法人在宅医療助成 勇美記念財団．2013 Aug - 2014 Sep.

【地域保健学分野】

38. 南優子（主任研究者）．乳腺組織中エストロゲン濃度・エストロゲン合成能と乳がん罹患に関する症例対照研究．平成 20 年度科学研究費補助金（基盤研究（C））．2008 Apr - 2011 Mar.
39. 南優子（主任研究者）．ストレス関連ホルモンと乳がん罹患・予後に関する分析疫学研究．平成 23 年度科学研究費補助金（基盤研究（B））．2011 Apr - 2015 Mar.
40. 河合賢朗（主任研究者）．一般マンモグラフィー検診受診集団における総合的乳がんリスクに関するコホート研究．平成 24 年度科学研究費補助金（若手研究（A））．2012 Apr - 2016 Mar.（留学による退職のため返還）

【成人看護学分野】

41. 菊地史子（主任研究者）．緩和ケア病棟における終末期リハビリテーション導入体制確立に関する研究．平成 25 年度科学研究費補助金（挑戦的萌芽研究）．2013 Apr - 2015 Mar.

【がん看護学分野】

42. 佐藤富美子（主任研究者）．乳がん体験者の術後上肢機能障害予防改善にむけた介入モデルの開発と有効性の検討．平成 19 年度科学研究費補助金（基盤研究（C））．2007 Apr - 2010 Mar.
43. 佐藤富美子（主任研究者）．乳がん体験者の術後上肢機能障害予防改善に向けた長期介入の効果．平成 22 年度科学研究費補助金（基盤研究（C））．2010 Apr - 2014 Mar.
44. 佐藤菜保子（主任研究者）．CRHR 1 陽性子宮内膜癌細胞発現におけるストレス影響と遺伝的背景の解明．平成 23 年度科学研究費補助金（挑戦的萌芽研究）．2011 Apr - 2016 Mar.
45. 有永洋子（主任研究者）．オーストラリアにおける最先端リンパ浮腫診療およびケア実践（研修）．Prime Minister's Education Assistance Program for Japan. Department of Education, Employment and Workplace Relations. Australian Government. 2011
46. 有永洋子（主任研究者）．アロマセラピーとエクササイズを用いた乳がん治療関連リンパ浮腫セルフケアプログラムの長期管理効果．佐川がん研究助成．2012.
47. 有永洋子（主任研究者）．アロマセラピーとエクササイズを用いた乳がん関連リンパ浮腫自己管理プログラムの効果．平成 25 年度科学研究費補助金（基盤研究（C））．2013 Apr - 2016 Mar.

【緩和ケア看護学分野】（2009 年度以降）

48. 宮下光令．外来進行がん患者の終末期医療に対する希望の推移と評価に関するコホート研究．平成 20 年度科学研究費補助金（若手研究（B））．2008 Apr - 2011 Mar.

49. 佐藤一樹（主任研究者）．終末期がん患者への緩和ケア提供に係わる医療費のケースミックス分類の開発．平成 22 年度科学研究費補助金（研究活動スタート支援）．2010 Oct - 2012 Mar.
50. 宮下光令（主任研究者）．がん対策に資するがん患者の療養生活の質の評価方法の確立に関する研究．平成 22 年度厚生労働科学研究費補助金（がん臨床研究事業）．2010 Apr - 2013 Mar.
51. 宮下光令（主任研究者）．終末期ケアに関わる看護師主導型の各種クリニカル・パスの開発．平成 23 年度科学研究費補助金（挑戦的萌芽研究）．2011 Apr - 2013 Mar.
52. 菅野雄介（主任研究者）．在宅緩和ケアにおける看取りのケアのクリニカルパス Liverpool Care Pathway 日本語版在宅バージョンの開発と有用性の検証．笹川記念保健協力財団研究助成（在宅ホスピス緩和ケア事業）．2012 Apr - 2013 Feb.
53. 佐藤一樹（主任研究者）．在宅緩和ケアの質の簡便な評価方法の開発．平成 24 年度科学研究費補助金（若手研究（B））．2012 Apr - 2015 Mar.
54. 宮下光令（研究者）．看取りのケアの質の評価尺度の開発と信頼性・妥当性の検証に関する研究．公益財団法人安田記念医学財団（癌看護研究助成事業）．2012 Jan - 2013 Jan.
55. 宮下光令（主任研究者）．がん患者に対する緩和医療の質の評価方法の確立．平成 25 年度科学研究費補助金（基盤研究（B））．2013 Apr - 2016 Mar.
56. 宮下光令（主任研究者）．終末期ケアに関わる看護師主導型の各種クリニカル・パスの評価．平成 25 年度科学研究費補助金（挑戦的萌芽研究）．2013 Apr - 2015 Mar.

【小児看護学分野】

57. 塩飽仁（主任研究者）．軽度発達障害患児の同胞と母親の看護支援に関する研究．平成 17 年度科学研究費補助金（基盤研究（C））．2005 Apr - 2009 Mar.
58. 武田晶子（主任研究者）．子どもの病気のイメージと「自分の病気について知ること」に対する意識．北日本看護学会研究奨励会平成 21 年度奨励研究．2009 Apr - 2010 Mar.
59. 和田雪（主任研究者）．児童の神経症と心理社会的問題における年齢・発達と親の養育態度の関連．平成 21 年度科学研究費補助金（若手研究（B））．2009 Apr - 2010 Mar.
60. 佐山恭子（主任研究者）．入院児に関するきょうだいの病状理解がきょうだいに及ぼす影響と看護支援の検討．北日本看護学会研究奨励会平成 23 年度奨励研究．2011 Apr - 2012 Mar.
61. 塩飽仁（主任研究者）．発達障害の子どもと家族のための看護支援ガイドラインの開発とその検証に関する研究．平成 23 年度科学研究費補助金（基盤研究（C））．2011 Apr - 2016 Mar.
62. 名古屋祐子（主任研究者）．小児がんの子どもの看取りの時期における両親の考えかたの違いとその要因．北日本看護学会研究奨励会平成 24 年度奨励研究．2012 Apr - 2013 Mar.
63. 井上由紀子（主任研究者）．発達障害の子どもと養育者のための意思決定支援のガイドラインの開発．平成 24 年度科学研究費補助金（若手研究（B））．2012 Apr - 2015 Mar.
64. 木村智一（主任研究者）．児童養護施設の看護師に求められる役割と看護師が求めるサポート体制の実態調査．北日本看護学会研究奨励会平成 25 年度奨励研究．2013 Apr - 2014 Mar.

【精神看護学分野】

65. 齋藤秀光（主任研究者）．緩和ケアにおける家族教室での家族支援および医療スタッフ支援体制の確立．平成 19 年度科学研究費補助金（挑戦的萌芽研究）．2007 Apr - 2009 Mar.
66. 齋藤秀光（主任研究者）．助産師外来における助産師のメンタルケアサポート体制の確立．平成 21 年度科学研究費補助金（基盤研究（B））．2009 Apr - 2011 Mar.
67. 光永憲香（主任研究者）．看護師による心理・社会的介入プログラムの開発．平成 22 年度科学研究費補助金（若手研究（B））．2010 Apr - 2013 Mar.
68. 吉井初美（主任研究者）．中学生・高校生を持つ親の統合失調症に関する意識調査と教育開発メディアの開発．平成 22 年度科学研究費補助金（基盤研究（C））．2010 Apr - 2013 Mar.
69. 吉井初美（主任研究者）．職場での精神障害者に対するスティグマ問題．平成 24 年度上廣倫理財団研究助成．2013 Jan - 2013 Dec.
70. 吉井初美（主任研究者）．統合失調症患者の口腔衛生に関する意識・知識・自己管理の現状と衛生指導要項の確立．平成 25 年度科学研究費補助金（挑戦的萌芽研究）．2013 Apr - 2016 Mar.

【周産期看護学分野】

71. 佐藤喜根子（主任研究者）．助産師研修事業にかかる研究．宮城県一般受託研究．2008 Oct - 2009 Mar.
72. 佐藤喜根子（主任研究者）．助産師確保事業にかかる研究．宮城県一般受託研究．2009 Oct - 2010 Mar.
73. 小山田信子（主任研究者）．地方における看護教育制度成立過程の研究．平成 22 年度科学研究費補助金（基盤研究（C））．2010 Apr - 2015 Mar.
74. 佐藤祥子（主任研究者）．母乳分泌量維持要因の探索的研究—NICU 入院中の母親の肯定的体験—」．科学研究費補助金（挑戦的萌芽研究）．2011 Apr - 2014 Mar.

【ウイメンズヘルス看護学分野】

75. 中村康香（主任研究者）．ベッド上安静妊婦の心理社会的適応状態と肯定的側面に焦点を当てた体験．平成 20 年度科学研究費補助金（若手研究（B））．2008 Apr - 2010 Mar.
76. 吉沢豊予子（主任研究者）．リンパ浮腫治療・ケアの質の保証に向けた体制作りの検討．平成 20 年度科学研究費補助金（基盤研究（B））．2008 Apr - 2011 Mar.
77. 吉沢豊予子（主任研究者）．看護系大学学士課程助産学生に有用な産婦ケアの教育方法の開発．平成 21 年度科学研究費補助金（基盤研究（B））．2009 Apr - 2012 Mar.
78. 武石陽子（主任研究者）．妊娠経過における快適性の変化．平成 22 年度科学研究費補助金（研究活動スタート支援）．2010 Apr - 2012 Mar.
79. 中村康香（主任研究者）．妊娠期の快適性と出産満足度・育児行動との関連について．平成 22 年度科学研究費補助金（若手研究（B））．2010 Apr - 2012 Mar.
80. 吉沢豊予子（主任研究者）．熟練助産師の分娩介助時の動作（手動作含む）・視線の解析．平成 22 年度科学研究費補助金（挑戦的萌芽研究）．2010 Apr - 2012 Mar.
81. 跡上富美（主任研究者）．東日本大震災発生から一週間における看護職の労働実態調査～ジェンダー・組織コミットメントと役割葛藤について～．平成 23 年度日本母性看護学会研究助成金東日本大震災研究助成金．2011 Apr - 2014 Mar.
82. 吉沢豊予子（主任研究者）．リンパ浮腫治療・ケア領域における EBP（証拠に基づく実践）のための臨床研究．平成 23 年度科学研究費補助金（基盤研究（B））．2011 Apr - 2014 Mar.
83. 坂村佐知（主任研究者）．結婚形態別にみたNICUにおける父の体験の明確化．平成 24 年度科学研究費補助金（若手研究（B））．2012 Apr - 2014 Mar.
84. 武石陽子（主任研究者）．入院妊婦における妊娠期の快適性と出産満足度・育児行動との関連．平成 24 年度科学研究費補助金（若手研究（B））．2012 Apr - 2014 Mar.
85. 中村康香（主任研究者）．入院切迫早産妊婦におけるケアとケアを融合した看護実践ガイドラインの開発．平成 24 年度科学研究費補助金（基盤研究（C））．2012 Apr - 2015 Mar.
86. 吉沢豊予子（主任研究者）．東日本大震災による女性の健康に関する調査．平成 24 年度財団法人ヘルス・サイエンス・センター助成金．2012 Dec - 2014 Jan.
87. 吉沢豊予子（主任研究者）．深部静脈血栓予防を考慮した C/S 褥婦へのフットレスト予防ケア介入の検討．平成 25 年度科学研究費補助金（挑戦的萌芽研究）．2013 Apr - 2015 Mar.

7-7. 外部資金獲得（分担研究）

【看護アセスメント学分野】

1. 菅野恵美（分担研究者）．バイオフィルム制御による新しい創傷管理法の開発．平成 21 年度科学研究費補助金（基盤研究（B））．2009 Apr - 2012 Mar.
2. 丸山良子、菅野恵美（分担研究者）．放射線治療における晩期有害事象早期発見のための看護アセスメント確立の試み．平成 21 年度科学研究費補助金（基盤研究（C））．2009 Apr - 2012 Mar.
3. 菅野恵美（分担研究者）．低出力体外衝撃波を用いた慢性創傷に対する非侵襲性治療法の開発．平成 23 年度科学研究費補助金（基盤研究（C））．2011 Apr - 2014 Mar.

【看護教育・管理学分野】

4. 朝倉京子（分担研究者）. フィリピン人看護師の国際移動に関する医療社会学的研究. 平成 20 年度科学研究費補助金（基盤研究（C））. 2008 Apr - 2012 Mar.
5. 朝倉京子（分担研究者）. 看護者のリフレクション能力を開発するためのプログラム構築に関する基礎的研究. 平成 22 年度科学研究費補助金（基盤研究（B））. 2010 Apr - 2013 Mar.
6. 朝倉京子（分担研究者）. 地域ケアにおけるジェンダーの次元とアーティキュレーション・ワークに関する国際比較研究. 平成 23 年度科学研究費補助金（基盤研究（B））海外学術研究. 2011 Apr - 2015 Mar.
7. 朝倉京子（分担研究者）. 病院における組織特性が組織の健康に及ぼす影響：HMO の概念モデルを用いた実証研究. 平成 25 年度科学研究費補助金（基盤研究（C））. 2013 Apr - 2016 Mar.

【地域ケアシステム看護学分野】

8. 栗本鮎美（分担研究者）. 地域保健分野における協働プロフェッショナル人材養成プランの開発に関する研究. 平成 20 年度科学研究費補助金（基盤研究（C））. 2008 Apr - 2011 Mar.
9. 末永カツ子（分担研究者）. 地域保健分野における協働プロフェッショナル人材養成プランの開発に関する研究. 平成 20 年度科学研究費補助金（基盤研究（C））. 2008 Apr - 2011 Mar.
10. 末永カツ子（分担研究者）. 保健師等の地域保健従事者の地域住民からの暴力等に対する危機管理のあり方に関する研究. 平成 20 年度厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策研究事業）. 2008 Apr - 2011 Mar.
11. 鈴木和広（分担研究者）. 地域保健分野における協働プロフェッショナル人材養成プランの開発に関する研究. 平成 20 年度科学研究費補助金（基盤研究（C））. 2008 Apr - 2011 Mar.
12. 瀬川香子（分担研究者）. 地域エンパワメントを目指す協働の活動への合意形成に関する研究. 平成 21 年度科学研究費補助金（基盤研究（C））. 2009 Apr - 2012 Mar.
13. 栗本鮎美（分担研究者）. 地域エンパワメントを目指す協働の活動への合意形成に関する研究. 平成 21 年度科学研究費補助金（基盤研究（C））. 2009 Apr - 2012 Mar.
14. 鈴木和広（分担研究者）. 地域エンパワメントを目指す協働の活動への合意形成に関する研究. 平成 21 年度科学研究費補助金（基盤研究（C））. 2009 Apr - 2012 Mar.
15. 高橋香子（分担研究者）. 被災地保健師のエンパワメントとコミュニティ再生に関する研究. 平成 24 年度科学研究費補助金（基盤研究（C））. 2012 Apr - 2017 Mar.
16. 栗本鮎美（分担研究者）. 被災地保健師のエンパワメントとコミュニティ再生に関する研究. 平成 24 年度科学研究費補助金（基盤研究（C））. 2012 Apr - 2017 Mar.
17. 末永カツ子（分担研究者）. 被災地難病患者のための統合医療生活支援システムの構築に関する研究. 平成 25 年度科学研究費補助金（基盤研究（C））. 2013 Apr - 2017 Mar.
18. 栗本鮎美（分担研究者）. 被災地難病患者のための統合医療生活支援システムの構築に関する研究. 平成 25 年度科学研究費補助金（基盤研究（C））. 2013 Apr - 2017 Mar.

【成人看護学分野】

19. 小林光樹（分担研究者）. 新型インフルエンザ A（H1N1）への公衆衛生対応に関する評価及び提言に関する研究：重症化が予測される住民等への市町村の対応に関する研究. 平成 21 年度厚生労働科学研究費補助金（特別研究事業）. 2009 Apr - 2010 Mar.

【がん看護学分野】

20. 佐藤菜保子（協同研究者）. 過敏性腸症候群におけるコルチコトロピン放出ホルモン関連遺伝子多型. 平成 24 年度 Japan Gut Club 研究奨励助成金. 2012 Apr - 2013 Mar.
21. 佐藤富美子（分担研究者）. アロマセラピーとエクササイズを用いた乳がん関連リンパ浮腫自己管理プログラムの効果. 平成 25 年度科学研究費補助金（基盤研究（C））. 2013 Apr - 2016 Mar.

【緩和ケア看護学分野】（2009 年度以降）

22. 宮下光令（分担研究者）. 成人がん患者と小児がん患者の家族に対する望ましい心理社会的支援のあり方に関する研究. 平成 20 年度厚生労働科学研究費補助金（がん臨床研究事業）. 2008 Apr - 2011 Mar.

23. 宮下光令 (分担研究者) . QOL の向上をめざしたがん治療法の開発研究. 平成 22 年度厚生労働科学研究費補助金 (第 3 次対がん総合戦略) . 2010 Apr - 2014 Mar.
 24. 宮下光令 (分担研究者) . がん性疼痛治療の施設成績を評価する指標の妥当性を検証する研究. 平成 22 年度厚生労働科学研究費補助金 (がん臨床研究事業) . 2010 Dec - 2013 Mar.
 25. 宮下光令 (分担研究者) . 緩和医療に携わる医療従事者の育成に関する研究. 平成 22 年度厚生労働科学研究費補助金 (がん臨床研究事業) . 2010 Apr - 2013 Mar.
 26. 宮下光令 (分担研究者) . 緩和ケアプログラムによる地域介入研究. 平成 23 年度厚生労働科学研究費補助金 (第 3 次対がん総合戦略事業) . 2011 Apr - 2013 Mar.
 27. 宮下光令 (分担研究者) . がん患者・職場関係者・医療者に向けた就業支援カリキュラムの開発と普及啓発手法に関する研究. 平成 25 年度厚生労働科学研究費補助金 (がん臨床) . 2013 Apr - 2014 Mar.
 28. 宮下光令 (分担研究者) . がん患者医療情報の高度活用による終末期医療・在宅医療の全国実態調査に関する研究. 平成 25 年度 がん開発研究費. 2013 Apr - 2016 Mar.
 29. 宮下光令 (分担研究者) . がん診療拠点病院におけるがん疼痛緩和に対する取り組みの評価と改善に関する研究. 平成 25 年度厚生労働科学研究費補助金 (がん臨床) . 2013 Nov - 2015 Mar.
 30. 宮下光令 (分担研究者) . がん対策における緩和ケアの評価に関する研究. 平成 25 年度厚生労働科学研究費補助金 (がん臨床) . 2013 Nov - 2015 Mar.
 31. 宮下光令 (分担研究者) . 受療行動調査により患者の満足度と意識・行動等の現状と推移、相互の関連性及びその規程要因に関する研究. 平成 25 年度厚生労働科学研究費補助金 (政策科学総合) . 2013 Apr - 2015 Mar.
 32. 宮下光令 (分担研究者) . 緩和医療に携わる医療従事者の育成に関する研究. 平成 25 年度厚生労働科学研究費補助金 (がん臨床) . 2013 Apr - 2014 Mar.
 33. 宮下光令 (分担研究者) . 診断時から早期に緩和ケアを提供する体制整備に関する研究. 平成 25 年度厚生労働科学研究費補助金 (がん臨床) . 2013 Apr - 2014 Mar.
 34. 宮下光令 (分担研究者) . 被災地に展開可能ながん在宅緩和医療システムの構築に関する研究. 平成 25 年度厚生労働科学研究費補助金 (地域医療基盤開発推進) . 2013 Apr - 2014 Mar.
 35. 佐藤一樹 (分担研究者) . がん患者に対する緩和医療の質の評価方法の確立. 平成 25 年度科学研究費助成事業 (基盤研究 (B)) . 2013 Apr - 2016 Mar.
 36. 佐藤一樹 (分担研究者) . 終末期ケアに関わる看護師主導型の各種クリニカル・パスの評価. 平成 25 年度科学研究費補助金 (挑戦的萌芽研究) . 2013 Apr - 2015 Mar.
- 【小児看護学分野】
37. 塩飽仁 (分担研究者) . 採血を受ける子どもの非効果的対処行動と関連要因:個別的プレパレーションをめざして. 平成 20 年度科学研究費補助金 (若手研究 (スタートアップ)) . 2008 Apr - 2009 Mar.
 38. 塩飽仁 (分担研究者) . 心身症・神経症児と家族に対するケアモデルの開発とその検証に関する研究. 平成 21 年度科学研究費補助金 (基盤研究 (C)) . 2009 Apr - 2012 Mar.
 39. 塩飽仁 (分担研究者) . 終末期ケアにかかわる看護師主導型の各種クリニカル・パスの開発. 平成 23 年度科学研究費補助金 (挑戦的萌芽研究) . 2011 Apr - 2013 Mar.
 40. 塩飽仁 (分担研究者) . 「感情表出 (EE)」を用いた心身症・神経症児の親支援モデルの開発に関する研究. 平成 24 年度科学研究費補助金 (基盤研究 (C)) . 2012 Apr - 2016 Mar.
 41. 塩飽仁 (分担研究者) . 東日本大震災後の子どもと保護者・保育者の健康を支える総合的支援に関する研究. 平成 24 年度科学研究費補助金 (基盤研究 (C)) . 2012 Apr - 2015 Mar.
 42. 塩飽仁 (分担研究者) . 被災地の患者と家族を支援するプロジェクト研究—震災と小児がんを経験した家族の語り—. 平成 24 年度震災復興・日本再生支援事業. 2012 Apr - 2018 Mar.
 43. 鈴木祐子,分担研究者) . 被災地の患者と家族を支援するプロジェクト研究—震災と小児がんを経験した家族の語り—. 平成 24 年度震災復興・日本再生支援事業. 2012 Apr - 2018 Mar.
 44. 井上由紀子 (分担研究者) . 被災地の患者と家族を支援するプロジェクト研究—震災と小児がんを経験した家族の語り—. 平成 24 年度震災復興・日本再生支援事業. 2012 Apr - 2018 Mar.

45. 名古屋祐子（分担研究者）．被災地の患者と家族を支援するプロジェクト研究—震災と小児がんを経験した家族の語り—．平成 24 年度震災復興・日本再生支援事業. 2012 Apr - 2018 Mar.
46. 塩飽仁（分担研究者）．思春期・若年成人がん患者・サバイバーへの医療・教育・就労支援に関する国際比較研究. 平成 25 年度科学研究費補助金（基盤研究（B）海外学術）. 2013 Apr - 2016 Mar.
47. 塩飽仁（分担研究者）．終末期ケアにかかわる看護師主導型の各種クリニカル・パスの評価. 平成 25 年度科学研究費補助金（挑戦的萌芽研究）. 2013 Apr - 2015 Mar.
48. 塩飽仁（分担研究者）．病児・病後児保育の実態把握と質向上に関する研究. 平成 25 年度厚生労働科学研究費補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業）. 2013 Apr - 2015 Mar.
49. 塩飽仁（分担研究者）．災害時における小児在宅療養者と家族の自助力を高めるための看護支援プログラムの開発. 平成 25 年度科学研究費補助金（基盤研究（C））. 2013 Apr - 2017 Mar.
50. 鈴木祐子（分担研究者）．災害時における小児在宅療養者と家族の自助力を高めるための看護支援プログラムの開発. 平成 25 年度科学研究費補助金（基盤研究（C））. 2013 Apr - 2017 Mar.

【精神看護学分野】

51. 齋二美子（分担研究者）．緩和ケアにおける家族教室での家族支援および医療スタッフ支援体制の確立. 平成 19 年度科学研究費補助金（挑戦的萌芽研究）. 2007 Apr - 2009 Mar.
52. 吉井初美（分担研究者）．子育て期早期の女性の身体的健康と睡眠. 平成 23 年度科学研究費補助金（基盤研究（C））. 2011 Apr - 2014 Mar.
53. 齋藤秀光（分担研究者）．緩和ケア病棟における終末期リハビリテーション導入体制確立に関する研究. 平成 25 年度科学研究費補助金（挑戦的萌芽研究）. 2013 Apr - 2015 Mar.
54. 齋藤秀光（分担研究者）．統合失調症患者の口腔衛生に関する意識・知識・自己管理の現状と衛生指導要項の確立. 平成 25 年度科学研究費補助金（挑戦的萌芽研究）. 2013 Apr - 2016 Mar.

【周産期看護学分野】

55. 佐藤喜根子（分担研究者）．不妊治療後の妊婦とその家族に対する良質な周産期ケア提供のためのガイドライン作成. 平成 19 年度科学研究費補助金（挑戦的萌芽研究）. 2007 Apr - 2009 Mar.
56. 佐藤喜根子（分担研究者）．助産師外来における助産師のメンタルケアサポート体制の確立. 平成 21 年度科学研究費補助金（基盤研究（B））. 2009 Apr - 2011 Mar.
57. 佐藤祥子（分担研究者）．宮城の助産師のつながり促進事業—助産師の力となってきた経験の共有化と顕在化—．宮城大学地域指定研究. 2010 Apr - 2011 Mar.
58. 小山田信子（分担研究者）．医療の高度化に伴う看護系大学の高大接続問題—看護職志望者の適正と大学入試—．平成 22 年度科学研究費補助金（基盤研究（B））. 2010 Apr - 2015 Mar.
59. 佐藤喜根子（分担研究者）．震災時の妊婦・保健的課題に関する研究. 平成 24 年度厚生労働科学研究費補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業）. 2012 Apr - 2014 Mar.
60. 佐藤喜根子（分担研究者）．大災害後の身体・知的障害児に関する要因と福祉サービス介入の役割及び効果検証. 平成 24 年度厚生労働科学研究費補助金（障害者対策総合研究事業）. 2012 Apr - 2015 Mar.
61. 佐藤祥子（分担研究者）．「震災復興期における宮城県沿岸部助産師活動の課題把握と支援」．宮城大学復興支援研究. 2012 Aug - 2014 Mar.
62. 佐藤喜根子（分担研究者）．JST「災害の新たな命を取り巻く環境への影響に関する情報アーカイブと防災のあり方の検討」. 2013 Apr - May.

【ウィメンズヘルス看護学分野】

63. 吉沢豊予子（分担研究者）．看護系大学学士課程助産学生に有用な産婦ケア(分娩介助を含む)の教育方法の開発. 平成 21 年度科学研究費補助金（基盤研究（A））. 2009 Apr - 2011 Mar.
64. 吉沢豊予子（分担研究者）．医療の高度化に伴う看護系大学の高大接続問題—看護職志望者の適性と大学入試—．平成 22 年度科学研究費補助金（基盤研究（B））. 2010 Apr - 2015 Mar.
65. 中村康香（分担研究者）．助産師外来で活用できる妊娠期アセスメントツールの開発と実用化に向けたシステム構築. 平成 24 年度科学研究費補助金（基盤研究（C））. 2012 Apr - 2015 Mar.
66. 中村康香（分担研究者）．宮城県における出産後女性の健診・検診受診の実態とその関連要因に関する調査. 平成 25 年度宮城県公衆衛生研究振興基金助成. 2013 June - 2014 Mar.

7-8. 外部資金獲得（その他）

【地域ケアシステム看護学分野】

1. 末永カツ子. 地域看護学研究助成金. 宮城県成人病予防協会. 2010.
2. 瀬川香子. 宮城県公衆衛生研究振興基金. 宮城県公衆衛生研究会. 2010.

【周産期看護学分野】

3. 佐藤喜根子. 文部科学省. 「周産期対策のための医療環境の整備」事業における「助産師外来の拡充」. 採択 2010.

【ウイメンズヘルス看護学分野】

4. 荒屋敷純子. 平成 23 年度 第 5 回東北大学大学院女子学生海外渡航支援事業. 2011.
5. 竹内真帆. 平成 24 年度 大和日英基金東北スコラシップ (ブリティッシュ・カウンシル提携) Daiwa Foundation Tohoku Scholarships in partnership with British Council in Japan. 2012.
6. 竹内真帆. 平成 24 年度「組織的な若手研究者等海外派遣プログラム」. 2012.
7. 吉沢豊予子. 第 6 回東北リンパ浮腫研究会学術集会; 平成 24 年度 長陵医学振興会医学学術シンポジウム等開催助成金. 2012.